ザークシース若し此計を用ひしならば恐らくはサラミスの海戰はなかりしならん而して爾後の形勢全く其趣きを異にせしなる可し。

アセンスの燒棄

セルモピリーの險破れて波斯の兵は直ちにアセンスに向つて進行したり。然るにペロポンニーンス半島の同盟はアッチカを防禦するの約に反き、專らコリンス地峽の防備に全力を傾注したり。六日にして波斯の軍將さにアセンスに攻め來るの豫定なりしかば此の間に全市中の人民は他に遁るゝの方策を運らさゝる可からざるに至れり。サラミス島に繫泊したる海軍も將に南方に去らんとするの計畫なりしがアセンス人民の歎願により總提督ユリバイアデスは暫時サラミスに同盟艦隊を留め、アセンス人をして其の家族及び財產を他に運搬することを得せしめたり。是の如くしてアセンス人民は或はサラミス島或はエーギーナ島或はアルゴリス州のツレーゼンに逃れたり。是時アレオパゴスの元老會議は國中の人民に退去を命じ、特にセミストクリースは最も力を盡くして人民が專ら海軍に依賴せんことを勸めたり。退去を欲せざる人民も亦た多かりしかば彼はデルファイの神託に訴へて迷信者流の心を動かさしめたり。

第一回の神託には地の極に遁れよとありて餘りに絶望的なりしが故に更に第二回の神託を請ひたり。此の神託は頗る曖昧なりしかども前者に比すれば稍希望ある神託にして「神聖なるサラミスは婦人をして子なからしめん、而して萬事皆な去るも木壁は遂にアセンス人を庇護す可し」とありたり。セミストクリースは此神託を解釋して海上の一戰に準備せよ、戰艦は則ち木壁なりと告げ、安危存亡一に海上の一戰に存するとを指示したり。然るに頑冥なる故老及び貧民等の中には木壁を以てアセンスの牙城となし、之を固め、猶ほアセンスを去ることを拒みたる者ありき。今やアセンスは舉國一致難に赴くの危難に接したればセミストクリースは凡て流刑に處したる宣告を取り消す可きことを發し、特にアリスタイデスの流竄を赦免せしめたり。

ザークシースの中部希に進入するや沿道の人民は皆な之に服從したり。獨りフォーキス州とビオシヤのセスピエー及びプラテーエーの二市のみ抵抗して皆な其の土地及び市邑を破壞せられたり。アセンス人民は既に退去して僅に牙城を守れる者のみ、留戰したりしが衆寡固より敵す可くもあらずして牙城遂に陷り、

其上に建てられたる神殿家屋悉く燒棄せられ、防戰者は皆な屠られたり。是れ則ち十九年以前アセンス人がサルデイスを燒きたる復讐とは知られたり。されば アセンスは一時國土を失ひ、僅かにセミストクリースが建設したる海軍に存することゝなりぬ。

サラミスの海戰（紀元前四八〇）

波斯の軍アセンスを占領すると同時に、其の艦隊はフアレロン灣に到着したり。其の艦數は少なくとも一千餘隻の上に出でたり。希臘の同盟艦隊は數哩を隔てたるサラミス灣に在りて總數三百六十六隻其の中二百隻はアセンスの戰艦なりき。同盟艦隊中コリンスはアセンスに繼て最も多くの戰艦を有したれども其數四十隻に過ぎざりしと云ふ（紀元前四八〇年九月）。波斯王ザークシースはフアレロン灣に下りて其の艦隊を檢閲し且つ進擊の方策に就て會議を開き諸將の意見を諮詢したり。フィニシヤ（サイドン及びタイル）の諸王を始とし群侯多くはザークシースの歡心を得んと欲して悉く速かに一戰せんことを主張したり。獨り小亞細亞ケリヤ州ハリカルナッソスの女王アルテミシヤはサラミスの海峽に於て戰ふの不利なることを唱へたり。斯の如き海峽に於ては艦隊の多きも却て味方の妨害となるのみにて効力なければ寧ろペロポンニーソスに向つて陸兵を進めんには若かず是の如くするときは南部の希臘人は其の鄕國を防衛するの心に誘引せられて希臘の同盟艦隊自から離散すべしとの建策を爲したり。危い哉希臘の運命やザークシース若し彼の女王の計を用ひたらんには人心恟々として一致の精神に乏しき同盟諸市は忽ち土崩瓦解して希臘は遂に波斯の爲に征服せられしなる可し。

是時希臘の同盟艦隊にも總提督ユリベイアデス會議を開き諸將をして防戰の策を提議せしめたり。アセンスの將セミストクリースは敵の艦隊は多くして味方は小數なれば寧ろサラミスの海峽に於て速かに戰ふの利なることを主張したり。これに反してペロポンニーソス半島の諸將はサラミス灣に繫泊するを不利とし速かに艦隊を南下せしめてコリンスの地峽に到らしめ陸兵と相應じて敵軍を防がんことを希望したり。偶〻波斯の軍既にアセンスを陷れたりとの報達し多數の意見は遂に南方退却の策に一決したり。時正に黄昏に近かりしが故に僅かに翌朝までサラミス灣に滯留することゝなりたり。流石のセミストクリースも中心

鬱々として止むなく會議を退き我が艦に歸り來りしが其の顧問たりしムチシフイロスは會議の結果を聞きセミストクリースに謂て曰く然らば卿は又た再び防戰すべき鄕國を有することなからん、一歩を退かんか最早や同盟合同の望なく、アセンスは再び鄕國を恢復するの望なしと。彼はセミストクリースを勵まし今一たび決議を飜へさしめんことを勉めよと勸告したり。時刻已に晩かりしかども セミストクリースは直ちに小舟に飛び乘りて總提督ユリバイアデースの船に往き親しく退却の不利、艦隊の分離を訖き更に會議を開き再議せんことを請求したり。ユリバイアデスも彼の熱心と事の重大とによりて遂に其の請求を聽許し、諸將を聚めて再會議を開きたり。半島の諸將は決議の後更らに會議を開くの理由なきを論じ特にコリンスの將アディマントスはセミストクリースを罵りて家なく國なき者此會に於て發議の權なしと言ふに至り、セミストクリース奮然として灣中の戰艦二百隻を指しアセンスに此に在り、首府なく領土なしと雖ども猶ほ同盟諸國の全體に勝される優勢あり、卿等若し退かんと欲せば退けよ但だ吾人アセンス人は地峽に退くことなかる可し、吾人は伊太利に移住して　に新アセンスを建設せんのみ、卿等アセンスなしに戰はんと欲せば請ふ其意に任かせよと答へたり。

此に到りて總提督はアセンスの戰艦二百隻を失はゝ到底味方の勝算なきと且はセミストクリースの說に服し、若しコリンスの地峽に退かば同盟艦隊或は異心を生ぜんことを知りたるか會議夜を徹して正に曉天に及びたる頃遂に表決を用ひずしてサラミスに留戰するの命令を傳へたり。されば翌日は南方に退却せずして半島の諸將も止むなく戰備を爲すとなりしが波斯の軍艦漸やく進んでサラミスの向岸に繫り同時に其の陸兵も亦た海岸に沿ふて將にコリンスの地峽に迫らんとするが如くに見えたり。是に於て半島の將士公然不平を唱へて更に第三會議を要求したり。此の第三會議も亦た前回と同樣にして多數の意見は固よりコリンスの地峽に退却せんことを欲し僅かに退却の爲に大不幸の地位に陷らんとするアセンス、エーギーナ島及びメガラ人のみ頻りに留戰の利を主張したり。セミストクリースは今回こそ到底非常手段を用ひて强迫的に半島の諸將を留戰せしむるの外なきを看破し會議中窃に退席して其の信任する奴隷シキンノイスに意を含め之を波斯の軍に遣はし、セミストクリースが心中波斯王の成功を希望し

軍中の機密を漏さんと欲する旨を告げしめ、今や希臘艦隊の諸將恐怖して直ちに南方に退却せんとしつゝあり、大王急に希臘の艦隊を包圍して逃遁の途なからしめ、急に襲ひ擊たば、多くは直ちに波斯の艦隊に力を合せん、而して一擊の下に希臘の全艦隊消亡せんこと必せりと內應の意を通ぜしめたり。ザークシースは既にサラミスに於て直に開戰せしむるの意を決したる折なりしかば喜んでセミストクリースの內通に應じ、立どころにサラミス海峽の南北兩口を包圍せしむるの策を決定したり。此時希臘艦隊中の會議は猶紛々として衆議退却を主張したりしも總提督の持重と同盟中海上の主力たるアセンス、エーギーナの反對と特にセミストクリースが計略の成功に時間を要するが爲に百方意見を闘はして終局に到らしめざるとにより會議容易に決着せずして夜に入り、夜を徹して將に曉ならんとする頃、人あり來りてセミストクリースに面會を求めたり。是れ則ち過去數年間エーギーナ島にありたる正義のアリスタイデスにして彼は簡單に過去の競爭を忘れ、如今唯國家の爲に盡さんとに競爭すべきのみと告げ波斯の海軍既にサラミス灣を包圍したれば明夜に乘じ辛うして此に達するを得たる事實を述べたり。

セミストクリースは大に喜んで會議の形勢機密の策略を語り、アリスタイデスを會議に紹介して最早や退却の無益なることを告知せしめたり。頑冥なる南方の諸將猶ほ之を信ぜずして前說を固守せんとしたりしも、同時に波斯の艦隊中より脫投したる一船の確報ありて漸やくサラミス灣に奮鬪するの止む可からざることを承知したり。

明くれば九月廿日の早天サラミス灣よりアッチカの向岸を望めば旭日に映じて見ゆる限りは波斯の戰艦なり。其の右翼はフィニシヤ及びサイプロスの戰艦にしてユリユーシス灣に相對し、其の左翼はアイオニヤの戰艦にしてペイレーユース及びサラミス海峽の南口に配置せられ、中央には小亞細亞のキリキヤ及びパムフイリヤの戰艦各〻部署を定めてサラミス灣を包圍したり。而して波斯艦隊の後面にはアッチカ海岸の山上に銀足の玉座を設け之に座したる大王ザークシース及び左右群臣の臨下せるありて各艦の將校各〻一世の功名を顯はさんことを期したり。斯く波斯の海軍は前面を包圍したればサラミス港內の希臘列艦は恰かも網中の魚の如く到底遁る可き路なしと思惟せられたり。是に於て希臘の諸將は僅少の

時間に於て攻戰の方策を一決し、アセンスの戰艦は左翼としてフィニシヤの戰艦に相對し、半嶋の戰艦は右翼としてアイオニヤの戰艦に相對し、エーギーナ及びユーピーヤの戰艦は中央に在りてキリキヤ及びパムフイリヤの戰艦に相對したり。希臘人の運命如何は實に此の一戰に存したり。而して其の結果如何によりて或は自由となり、或は奴隷となる可き彼等の妻子眷族はサラミス島の高處より之を望見したり。波斯の軍艦先づ進み來り、之に應じて希臘人はセミストクリース及び其他の諸將に勵まされ意氣頗る昂り「進め希臘人（ヘレーニス）の子等よ、汝等が國家の自由の爲に戰へ、汝等が妻子の自由の爲に戰へ、汝等が父祖の神社の爲め、汝等が祖先の墳墓の爲に戰へ、何事も今は皆な汝等の一戰に繫れり」との軍歌を謳ふて進擊したり。此の軍歌はマラソン、サラミス及びプラテーエーの三役に親しく勇戰したる詩人エースキロスによりて保存せられたり。セミストクリースは朝風吹き來りて海波起り、波斯の大艦動搖して進退自由ならざる可き時刻を察し、輕小にして且つ堅固なる味方の戰艦を突進せしめたり。一進一退兩艦隊入り亂れて海上に奮鬪したりしが波斯人は始より多數を恃みて規律なく、其船は恰かも陸兵が乘りたる水中の家の如く希臘人は其隊列を亂さずして能く運轉し其黃銅の船首を以て敵艦の側面を突擊したり。日中に及ぶ頃風波漸やく强烈にして敵艦の困却次第に增長し、大艦は重くして運轉自由ならず、且艦數多くして路を塞ぎたる爲に船と船と相衝突して橈尖折れ前面に進みて破損したる戰艦は退却して後面の戰艦と交代するに由なく、且人種を異にしたる列國の戰艦を以て組織したるが故に、互に相嫉みて一致なく、往々同士討を爲して全艦隊其度を失ひ、左翼はアセンスの戰艦に攻め破られ、ファレロン灣に逃れんとしてエーギーナの巡邏船に遮ぎられ、捕獲せられたるも多く、總提督にしてザークシースの兄弟たりしアリアビグニース及び其の他高貴の波斯人多くこれに戰死したり。波斯人及び馬太人は大陸の人民にして多く水泳術を知らざりしと云ふ。サラミス海峽の南口にある一小島にはザークシースの命により波斯の精兵を上陸せしめたりしが海軍敗るゝに及びて、之を上船せしむるに暇なかりしかばアリスタイデスは歩兵を率ゐて此島に上陸し、波斯の兵を壓殺したり。朝には山上より戰勝を期してサラミスの海上に雲霞の如く浮びたる波斯の艦隊も、夕には空しく敗れて希臘の戰艦のみ灣中に殘り

第二回の海戰に備へたり。波斯の戰艦破滅したるもの凡そ二百隻而して希臘の損失は僅かに四十隻なりしと云ふ。蓋し波斯の戰艦猶ほ七百隻ありて其の陸軍は毫も損傷を受けざりしが故に希臘人は未だ勝敗決したるものと思はずして更に決戰の準備を爲したり。

ザークシースの歸國　波斯の大王ザークシースは山上より味方の戰艦の次第に敗北するを望み見て忿怒禁ずること能はずフィニシヤの水兵等罪をアイオニヤ人の貳心に歸せんとしたりしが大王は現にアイオニヤの兵能く戰ふを目擊したりしかば大に怒りて彼のフィニシヤの水兵等を死刑に處したり。之が爲にフィニシヤの戰艦は其夜悉く大王の逆鱗を恐れて南に歸り去りたり。されば波斯王は猶ほ數百隻の戰艦を有し、且つ陸軍の精鋭無數にして希臘の同盟軍よりも遙に優勢なりしかども海軍は悉く屬邦の船舶にして波斯人及び馬太人は固より水戰に習はざりしが故に、大王は万一を慮りてヘレスポンドの船橋心元なく思ひ、三十万の兵をマルドニオスに附して自からは自餘の軍隊を率ひて歸國せんことに決し、全艦隊を北行せしめて大王の到着まで彼の船橋を守る可きことを命じたり。波斯の艦隊ファレロン灣を去りて北行するや希臘の艦隊は直に之れを追ふてアンドロス島（ユーピーヤ島の南にあり）に到り更に協議する所ありしがセミストクリース及びアセンス人は直にヘレスポンドの船橋を破壞し波斯人の歸路を斷たんとを主張したり。然れども他の諸將等は之を危險なりとして從はざりしかばセミストクリースは彼の忠奴シキンノスを再びザークシースの許に遣はして希臘人等はヘレスポンドの船橋を斷んと欲したれども彼は大王の爲に其策に反對したりと告げしめたり。ザークシース益〻恐れて急行し、四十五日にしてヘレスポンドに達したり。途中大王の軍隊は饑餓及び疫病の爲に大に悩まされて死亡し、ヘレスポンドの船橋は颶風起りて海波の爲に洗ひ去られたりしが幸にして希臘の艦隊追蹤し來らざりしが爲に戰艦に乘じて亞細亞の地に上陸することを得たり。サラミスの海戰と同日にシヽリー島の希臘人はカルセーヅ（フィニシヤの殖民地）の進入軍と戰ひ大勝利を博したり。是より先きシヽリー島は希臘人及びカルセーヅ人の競爭地なりしがカルセーヅ（カルタゴ）は波斯と相應じてシヽリー島の北にあるヒメラを圍みたり。シラキユースの王ゲロン五万の兵を率ひてヒメラの圍を解き、

カルセーラの全軍を殲滅せしめたり。

プラテーエーの役（紀元前四七九）　マルドニオス及び三十万の波斯軍はセッサリー に冬を過し、來春を期して又た南征せんことを欲したり。マセドニヤ、セッサリー及びビオシヤは依然として波斯に服從したり。アセンス人は半ば既に家屋の建築を爲したりしも、戰後の傷痍容易に癒ゆべくもあらざりしかばマルドニオスは甘言を以て之を誘はんことを試みたり。即ちマセドニヤ王アレキサンダル一世をして損害の賠償、領土の擴張を條件とし波斯に降らんことを勸說せしめたり。スパルタも万一を慮りて使者を遣はしアセンス人に救助を與へんことを提議したり。アセンス人は直にマセドニヤ王の誘引を排斥し、スパルタに向つては固くアセンスの堅志を表し單に半島の軍を送りてアッチカの國境を防禦せんことを請求したり。然るにスパルタは遲疑して容易に援軍を送らざりしかば紀元前四百七十九年の夏（五月若くは六月）波斯の軍は再びアセンスに進入し、市民は復もやサラミス、島に逃るゝの止むを得ざるに至れり。マルドニオス再び使者を遣はしてアセンスの投降を勸めたり。僅かに元老の一人リキダス其の僞欺を容れんことを發議したりしかば人民怒りて彼を殺したり。不幸なる彼の妻子も怒れる婦人等の爲に殺されたり。

アセンス人は急使をスパルタに遣はし、其の信約に反するを諫め、速かに來援せずんば遂に止むことを得ずペルシヤに投降す可しと告げしめたり。然れどもスパルタ人は猶ほ冷然として十日間何の答ふる所なかりき。アルケデヤ州テゲヤの隼士キレオス聰明にして信用せられたりしが彼れはスパルタ人がコリンス地峽の險を恃み此擧に出るを察し、アセンス若し波斯に投合せばコリンスの險恃むに足らず、波斯はアセンスの艦隊を以て直に半島の中腹を突くべき路を開くを得べしと說きたり。頑愚なるスパルタ人始めて此言に驚き直に援兵四万一千を出し、併せて半島の同盟軍を催促し、故のスパルタ王レオニダスの嗣子に後見たりしパウセニアス大軍に將として中部希臘に向ひ進發したり（紀元前四七九年九月）。マルドニオスは半島の軍將に來らんとするの報に接し、アッチカを去りてビオシヤに退き、シーブスを以て本據となしプラテーエーに陣したり。シーブス人はアセンス人を憎むが故に鋭意波斯の爲に加勢を爲したり。パウセニアスはアセンス及び其他中

部希臘の兵を合し總勢十一万を率ひてセオシヤに入り、波斯軍の陣營に接近したり。パウセニアスは味方に騎兵なく又た弓兵少かりしが故に大に其兵を損せんことを恐れたり。始め希臘軍の右翼は名譽の地位としてスパルタ人に與へられ、左翼はアセンス人に歸したりしが、マルドニオスは其精鋭なる波斯人及び馬太人を左翼となしてスパルタ人に相對せしめ、中央にはペクトリヤ、印度、埃及等の兵を排列し、右翼にはマセドニヤ及び其他波斯に服屬したる希臘の兵を置きてアセンス人に當らしむることゝ爲したり。兩軍相持すること數日にして波斯の將マルドニオスは總進擊の令を下したり。スパルタの將パウセニアス此報を聞てアセンス人とスパルタ人との位置を交換せしめたり。是れアセンス人は既に波斯人と接戰したる經驗を有したればなり。マルドニオス敵軍の變更を觀て又た波斯軍の配置を變更せしめたりしかばパウセニアスは再び舊位置に戻り、マルドニオス又た之に從て最初の位置に復歸したり。兩軍猶ほ持重して容易に攻擊を試みず、波斯の騎兵のみ進擊を爲したり。而かも希臘の軍中には之を防ぐに足るの騎兵を有せざりき。パウセニアスは之が爲に水源を失ひ、其地位の不可なるを察し、會議を開きて夜間後方の適當なる場所に退かんことを決したり。此の變動の結果によりて希臘軍の三隊は分裂して各遙かに相隔絶したり。翌朝マルドニオスは希臘軍の退却したるを見て大に驚き遽かに進擊の令を傳へたり。スパルタ及び其の同盟テゲヤの軍之に相對し、アセンス人は距離を隔てゝ其の左方に陣し、希臘軍中の中軍は遠く退却して遂に戰爭の終局に近づくまで相會することを爲さゝりき。波斯人は直に列を亂して追擊し來り木楯を地に樹てゝ柵となし頻りに箭を放て希臘軍に戰を挑みたり。此期に臨みてもスパルタ人は宗教上の禮式を廢することを許さず頻りに犧牲を供して吉兆を待ちたれども暫時の間は徵候不吉にして戰鬪を開始するに由なく、勇士矢に中りて空しく死する者あり、パウセニアスは一心不亂に神助を祈りしかば、徵候忽ち吉兆を現はし、直ちに攻擊の令は下されたり。テゲヤの兵は既に進擊を始めたりしが是に於てスパルタの兵一度に攻め寄りて木楯の柵を破り、波斯の兵は弓を捨て投槍及び短劍を以て應戰したり。波斯の兵は訓練規律なく且つ具束輕微にして其身を保護するに足らざりしが、之に反してスパルタの兵は隊伍密接にして重鎧を被り、長槍を揮ひ、向ふ所破碎せざ

るなく、勇敢なる波斯人は奮擊突戰して希臘軍に迫り一舉に勝たんことを勉めたり。將軍マルドニオスは白馬に跨がり、精兵一千を率ひて其先きに進みしがスパルタ人の爲に討たれて死し、全軍遂に大敗して其の陣地に退走したり。初め波斯兵の追擊し來るやパウセニアスは一騎兵を馳せてアセンスの將アリスタイデスに援助を求めたりしが是時波斯に從屬したるビオシヤ人アセンスの軍を襲ひしかばアリスタイデスはスパルタ人を救ふに遑なく、稍くビオシヤ人を破りて來りしとき、スパルタ人は既に波斯の軍を追擊して其の堅固なる陣營を圍みたり。然れども陣營固くしてスパルタ人は之を如何ともする能はざりしがアセンス人は此種の攻戰に長じたりしかば直ちに牆壁を破りて陣營を陷れ、波斯の軍を塵にしたり。

此役マルドニオスは希臘人を侮り、其の退却を見て既に必勝を期し、別將アルタベーゾスの兵を待たず、短兵急に追擊して却つて挽回す可からざる大敗を爲し、身自から亂軍の中に戰死したり。アルタベーゾスは始より輕々しく戰ふことに反對したりしがマルドニオスの戰死したるを聞き遂に四万の兵を率ひてヘレスポントの方向に退軍したり。ヘロドトスの說によれば此の一隊を除きてはマルドニオスが三十万の兵中生存せし者僅かに三千人のみなりき。而して此の役希臘軍の戰死は一千三四百に過ぎざりしと云へり。畢竟プラテーエーの役敵味方の軍中實際戰鬪を爲したる者は少數にして希臘方に於て此日の名譽はスパルタ人アゲヤ人第一にしてアセンス人之に次ぎ、其餘同盟の兵は殆んど其の光榮に與からざりしと云ふも不可なしとす。戰利品の十分一は諸神に獻納し、プラテーエー人をして戰死者の墳墓を守り、戰勝の祝祭を爲すの義務を負擔せしめ、同時にプラテーエーの中立を保證し、其領を以て永く神聖侵す可からざるの地と爲し、又た波斯防禦の爲に更に同盟を固うし、年々列國の使節を此地に會合せしむるの決議を爲したり。

ミカレーの役　紀元前四百七十九年九月の末プラテーエーの戰と同日に同盟艦隊の兵は小亞細亞ミレトス附近ミカレーに於て大勝利を得たり。是より先きザークシースの亞細亞に遁走するやセミストクリースはアセンスの艦隊を以て多島海中の諸島交、波斯に隱じたるものを征服するの策を定め、或は辯說を以て

之れを降し、或は兵力を以て强迫し、ミルタイアデスの失敗を見ず、光榮と數多の賞金とを得てアセンスに歸りたり。アセンス人は未だ其の住居すべき家屋さへ構造するの遑あらざりしが明年直ちに艦隊を派遣して積極的攻擊を爲すことに決し、自餘の同盟國も亦た之に應じ、スパルタ人レオチキデス及びアセンス人ザンチッパス（クサンチッポス）同盟艦隊百十隻を以てエーギーナ島に會合し、尋でデロス島に進行したり。是時ザークシースはサルディス附近に在りて戰爭の終局如何を待ち、其の陸兵はミカレーに集合せられ、其の艦隊三百隻はサモス島附近に在りてアイオニヤを率制したり。キオス既に波斯に叛き、サモス島は使者を遣はして艦隊の來援を乞ひ、直ちに希臘同盟國の列に加はれり。波斯の艦隊は海上にて戰ふを欲せず、ミカレーの岬に退き、水兵を上陸せしめて陸兵と合せしめたり。希臘の艦隊も亦た進んで其兵を上陸せしめ、アセンス、コリンス、シキオン等の兵先づ接戰して波斯の兵を敗り、之を其の要塞に追擊したり。右翼のスパルタ兵後れて到りしが之と同時にミレトスの兵戈を倒にして波斯の兵を討ちたり。波斯の全軍遂に敗走して殘兵はサルディスに遁逃し、戰艦は悉く燒かれたり。是に於てアイオニヤは希臘の同盟に加入して再び波斯より自由なることを得たり。

希臘成功の理由　是の如く從來亞細亞、亞弗利加の諸國を征服して向ふ所敵なかりし波斯人は羢爾たる希臘の爲に連戰連敗して遂に遠征の目的を達せざりき。是れ波斯人が大兵を恃み希臘の小なるを侮りしが故なり。亞細亞の兵は勇敢なること希臘人に劣らざりしと雖ども訓練規律なく、且つ武裝十分ならざりしに反し、希臘の兵は青銅の鎧を着し長槍を携へ、墳墓の地を護るの決心を有したり。希臘人は上に君主を戴かざりしと雖ども、其心には國法を重じ愛國の精神に充たされたるに反し、波斯の大軍は波斯人及び馬太人を除くの外多くは大王の威に怖れ、唯だ催促に應じて出征し、特に敵と戰ふの慷慨心を缺きたり。希臘人の中に在りても、容易に服從したる諸國多く、且つ列國內部に貴族黨ありて動もすれば波斯に應ぜんと欲し、醜體少からざりしと雖ども、幸にアセンス民政の成功とペロポンニーソス同盟の鞏固なる結合ありて遂に希臘を救ひたり。波斯人が希臘人の宗教心を顧みずして其の神社聖殿を破壞し其の民心を忿怒せしめたるも亦た大失計なりき。是に於て希臘は其の自由を保存して古今無比の文學、哲學、美術を

開發することを得たり。波斯の勝利は決して世界文明の利益にわらざりしなり。泰西の史家筆力を極めて其の勝利を祝し、且つアセンスの勳業を稱賛するも亦た謂れなきに非ず。蓋しアセンスなかりしならば波斯戰爭の勝敗如何なりしか未だ知る可からず、而してアセンスなかりしならば希臘の文學、哲學及び美術は殆んど其の眼目を失ひたるが如くなる可ければなり。

第六章　アセンスの盛時 自紀前四七九 至同四三一

城壁の再建

アセンスは兩度ペルシヤ人の爲に灰燼となりしが、波斯人退去の後四方に散亂したる市民漸く歸り來り、紀元前四百七十八年の春鋭意して城市の再建に從事したり。而してセミストクリースの建策により舊城壁よりも更に偉大なる新城壁を設けんと企てたり。

波斯戰爭中アセンス人の擧動は敵味方の嘆美する所となりしも、スパルタを始め沿海の諸同盟は竊かに之を嫉み、大に其の將來の勢力を恐怖したり。特にエーギーナ島及びコリンスの市民は衆て蔑視したるアセンス人に凌駕せられたるを嫉み今や其の城壁を偉大にせんとするを見て大に之を恐れ、スパルタに訴へて之を制止せしめんことを企てたり。彼等はスパルタに說くにアセンスの野心侮るべからず、今は防備なきが故に暫らく其の下風に立つと雖ども異日城壁完成せば必ずスパルタに叛きて同盟を破壞するに至らんことを以てしたり。是に於てスパルタは使者を遣はして城壁建築の擧を中止せんことをアセンスに勸告したり。曰く、波斯侵入の結果によりて之れを觀るに、他日又た同樣の變に際せばコリンス地峽以北の城塞は到底維持す可からざることを發見したるに非らずや、さればアセンスが城壁を設くるは無益の事にして偶、敵に與ふるに據城を以てするに外ならず、故に中部希臘の城壁は悉く之を破毀して將來の禍根を斷つに若かずと。是れスパルタ及び其の同盟の軍隊は當時の戰術にて到底完全なる城壁を陷るゝこと能はざりしが故に、中部希臘を制してスパルタの下風に立たしめ、永久アセンスをして其の頭首を擯ぐること能はざらしめんとの策なりき。アセンスは到底野戰に於てスパルタ及び半島の陸兵に當る可くもあらざりしが故に城壁及び軍港の防備成らざる間はスパルタに對して更に違言を提出する能はざるの地位に立てり。波斯戰爭の危難よりアセンスを救ひ、術策窮りなきセミストクリースは

到底辯既の及ぶ所にあらざるを看破し、權道を以て此の奸計を破らんことを決心したり。是に於てスパルタが城壁建設を中止せんことを要求するやセミストクリースはアセンス人をして直ちに其の要求に從はしめ自からスパルタに往きて談判を開始せんことを約したり。彼れスパルタに到りて連日何の談判をも爲さず、頻りに同僚の到來を待つと揚言したり。然るにアセンスに於ては此間に市中市外の人民は老若男女の別なく奴隸に至るまで悉く勞役に服して城壁の建設に從事したり。城壁將さに成るに垂んとして二人の同僚アリスタイデス及びアブロニコス稍やくアセンスを發足したり。是時スパルタ疑心を生じ且つユーギーナ島の人民急使を發して建設の進行しつゝある事實をスパルタに報じたり。セミストクリースは尙ほ依然として其事實に非ざるを辯じ更にスパルタより特使を發して其の眞僞をたしかめんことを勸告したり。スパルタ人はセミストクリースの計畧に陷りて特使を派遣したりしがセミストクリースは同時に密旨をアセンスに傳へてセミストクリース及び其の同僚の安全に歸來するまで彼の特使等を抑留せんことを請求したり。是に於てセミストクリースは假面を脫して事實を公言し、アセンスは二回同盟に捨てられたる事實により城壁の必要なることと及びアセンスが其の自主權によりて是の如く爲したることを告白し、半島の同盟城壁を建設するの權あり、豈に獨り之をアセンスに拒む可けんや、と論破したり。城壁の建設既に落成に近くスパルタの干渉成功の望なかりしかばスパルタは遂に默して止みたり。是よりスパルタはセミストクリースに對して恐るべき憎惡の念を生じ千古の英雄をして後遂に其身を置く所なからしむるに至れり。

サラミスの海戰以前セミストクリースはファレロンの舊港狹隘なるを以てペイレーユウス及びムニキヤの其灣を以てアセンスの大戰艦を容るゝの軍港となしたり。是に於て新設の兩港を繞らすにアセンスの城壁よりも更に高厚なる堅壁を以てしたり。ソロンを以てアセンス第一の創業者となさばセミストクリースはアセンス第二の創業者にして從來アセンスが海上に於て掌握したる覇權は實に彼の建設に外ならざりき。

アリスタイデスの改革

サラミスの役よりセミストクリース及びアリスタイデスの兩政治家は同心協力して國事に鞅掌し、スパルタの奸策を破るの謀

略も兩雄の一致を以て成就せられたり。正直なるアリスタイデスはセミストクリースの海軍政策成功して國家を安全ならしめたる事實を認識し、且つ一時國家を擧て艦隊の中に置きたれば其間アセンス人民は共同の難に趨き、貴賤の別なく、水兵となりて悉く國事に從ひたれば、政治上に於ける四階級の懸隔は益その意義を失ふたり。從來ソロンの憲法によりて第四階級の人民は官吏に選擧せらるゝの權利を有せざりしが此に到りてアリスタイデスは自から發議して彼等にも國家最上の官職に就くことを得せしむるに至れり。蓋しサラミスの役最も戰功ありたるは水兵となりたる貧民なりしのみならず戰亂によりて土地所有者は多く疲弊したれば社會上に於ける四民の懸隔大に減少したり、而して國家を救ひたるは一般人民の協力によりたるが故に四民の政權を平等にするは最も正義の處置たりしなり。

アリスタイデスは此の如き公平の處置によりて益〻市民の尊敬と信用とを博したりしが特にアセンスをしてスパルタに代り同盟艦隊の指令權を掌握せしめたるはセミストクリースの權略よりもアリスタイデスの正直に負ふ所多かりき。之に反してサラミス戰後セミストクリースは諸島を威壓して中外の惡感情を惹起したり。彼はアセンスの海軍を建設して偉功を奏し今や希臘列國之に匹敵するものなきを確信し、海上に於てはアセンス以外の勢力を一掃せんことを欲したり。彼は嘗てペロポンニーソス半島の艦隊を燒かんことを企圖したり。彼は危難に臨みてはアセンス唯一の救濟者なりしと雖ども、今や彼れが傍若無人の政策は却てアセンスの不利益となる可かりしや必然なり。海軍建設の功及び希臘を救ひたる智略は固よりセミストクリースの光榮に屬したりと雖ども、アセンスをして安全に平和に且つ鞏固に海上の覇權をスパルタより讓受せしめたるはアリスタイデス及び其の德望に外ならざりき。

デロス同盟の成立　プラテーエー及びミカレーの戰後希臘本部は虎口の難を脫することを得たれども波斯人は猶ほ希臘人に屬したる處々の要地を占有したり。北にはビザンシオム（今のコンスタンチノープル）を始としスレース地方に於てドリロス其他の要地を占領し又た南の方サイプロス島を保有したり。紀元前四百七十八年プラテーエー戰後パウセニアスは同盟艦隊に將としてサイプロス島の諸

市を救ひ、北轉してビザンシオムを圍みたり。此時ペロポンニーソス半島の艦隊は僅かに二十隻にしてアセンスは三十隻を出し、アリスタイデス及びカイモンルの子、キモンをして之に將たらしめたり。ビザンシオムは久しく圍まれて遂に希臘人の手に歸したり。總提督パウセニアスは此の時竊かに波斯に懇懃を通じて大膽にも謀叛の企圖を爲したり。

パウセニアスはプラテーエーの役、波斯の陣營を見て波斯人の榮華に心を驚かし戰後その功を恃みて專横の擧動少からざりしが、ビザンシオムを略するに至りて其の野心遂に制す可からざるに至れり。彼の功名心はスパルタに歸りて再び五人執政の監督を受くるを憎しとなし、スパルタに於てのみならず、全希臘の專制者たらんことを希望したり。此の目的を達せんとするには固より波斯の應援によるの外他に名策なかりしなり。ビザンシオム陷り、波斯の貴族を囚にするや彼は之を放還し且つザークシースに一書を送りて王に好意を表せんが爲め、捕虜を放還する旨を告げ、而して王若し彼に其女を娶すことを許さばスパルタ及び全希臘をして王の麾下に服從せしめんと欲するの意を通じたり。ザークシース大に喜んで其請を許し之に返書を送り且つ黄金及び兵を給與せんことを約したり。希臘より脱歸したる波斯の將アルタベーザスは希臘人によりて希臘人を征服するの既、即ち戰爭よりも寧ろ談判と腐敗手段とによる可きの意見を有したりしが、此時マルドニオスの策全く失敗に歸したりしが故に、ザークシースは大に彼を信用し、彼を以てミシヤの總督となし、パウセニアスと内外相應じて更に希臘征服の新手段を運さしむることゝ爲したり。然るに浅薄なるパウセニアスは波斯王の信用と黄金とを得て身は既に大王の婿となりたるかの如く、波斯の衣服を被り、スレース進行の際には波斯人及び埃及人の護衛兵を從へ、奢侈濫行傲慢不遜の擧動多く遂に同盟艦隊の心を離叛せしめたり。且つ彼の隱謀は既に公然の秘密となりてスパルタ政府の耳に達したりしが故に、スパルタは彼を召還し更に其將ドルキスを遣して之に代らしめんことを欲したり。同盟艦隊中アイオニヤ人及びアセンス人は最もパウセニアスの提督たるに不平なりしが特にアイオニヤ人は始よりスパルタ人の粗豪なるを好まず、自然にアセンス人を以て其の首領たらしめんことを欲したり。スパルタ人の暴慢なるに反してアセンス人中には公明正直の

アリスタイデスあり、又た其の部將には寛仁大度のカイモンありてスパルタ人の企て及ぶ所に非ざりしなり。

パウセニアスの本國に召還せらるゝやペロポンニーソス半島の諸艦も亦た之に從つて南方に歸り、アセンス及びアイオニヤの諸艦は相互の協議によりて共に相聯合し、アセンスを以て聯合艦隊の指揮者となしたり。スパルタの將ドルキス戰艦を率ゐて來り、再び總提督の地位に立んと爲したれども、最早や挽回す可からざるの形勢を成し、到底アセンスの指揮に從つて同盟艦隊の一員たるか、然らざればスパルタに歸るの外他に方策なかりしかばドルキスは遂にスパルタに歸りたり。

スパルタに於ては一時民心沸騰し如何なる手段を以てするも、スパルタをして全希臘の盟主たらしめざる可らずと主張したる者ありしかども一方には着實老成の保守黨ありて過激黨を制し、スパルタが海上の盟主を兼るは國家の憲法を維持するに害多くして益少なし、パウセニアスの例以て鑑と爲すに足れり、スパルタの堅全は其の陸兵に在り、如かずアセンスをしてスパルタの名により海上の戰爭を繼續し、アイオニヤの同盟を指揮せしめんにはとの說行はれ遂にアセンスが無事安全に難なく海上の盟主たる位地に立つことを得たりしは蓋し以てアリスタイデス及び其の黨與の公明平和なる政策の成功と知られたり。セミストクリースが實力を以て强制的に執行せんとしたりし目的は强迫を用ひず、事變の自然的開展により、同盟艦隊の希望により、內亂を釀すことなく一兵に血塗らずして成就せられたり。是れ實に紀元前四百七十六年の春頃なりしならんと云ふ。

是に於て全希臘の大同盟はスパルタの陸上同盟及びアセンスの海上同盟に分裂したり。前者はペロポンニーソス同盟と稱し、後者はデロス同盟と稱したり。蓋しエヂアン海中のデロス島は古來アイオニヤ種族の宗教的中心として神聖視したる所なり、而してアポロ（日神即ち智の神）及びアルテミス（月神）の神殿存したり。海上同盟の諸市はアセンスを盟主となして年々毎に其の使節を會合せしめ同盟の諸事を協議せしむることゝ爲したり。同盟はアイオニヤ人に限らず、凡そアセンスを盟主として波斯の束縛を脫せんと欲する諸島諸市は悉く之に加盟したり。アイオニヤの二大島サモス及びキオスの外、ロード、コス、レスボス及びテニドスの諸島、小亞細亞の本陸に於けるミレトス、マセドニヤの東方に於けるカルキディケー半島

の諸市及びボスフォロスに於けるビザンシオム之に關したり。同盟はアリスタイデスに委任して諸市諸島の分擔を定めしめ、同盟諸市の大なる者は其の資力に應じて戰艦を出し、其の小にして戰艦を有せざる者は資金を供したり。アポロの神殿を以て同盟の會計本部となし、其の長官にはアセンス人を委任することゝなしたり。然かも同盟諸市は獨立にして同等の票決權を有し戰爭の事項資金の出費及び其の他同盟の利害得失に就て協議するの權を有したり。

然れども同盟の圖畧次第に增加して同盟會議は事務を施行するに不便となり、且つ同盟諸市の利害及び意見相分れて和合せず、動もすればアイオニヤの諸市諸島は相嫉みて紛爭したりしかば後來同盟の一致團結を保つ者はアセンスの勢力あるのみとなり、而して波斯との戰爭漸く止むに隨ひ同盟諸市は戰艦を供することを好まずして資金を投ずるもの多く、自然にアセンスの權力を增長せしめたり。同盟諸市にして戰艦を出す間はアセンスに向つて對等の位置に立つことを得たりと雖ども資金のみを出して之をアセンス人に一任するに至てはアセンス人は之を以て戰艦を造り、全權一に其の手に歸して同盟諸市多くはアセンスに朝貢を獻する屬國たるの位地に陷るに至れり。而かも是れ後年の事にしてアリスタイデス及びカイモンが同盟の提督たりし間は能くアセンスの名望を維持し同盟をして不平なからしめたり。

セミストクリースの末路

セミストクリースは自から大樹に比したり。曰く、暴風雨の際萬人來りて其の庇蔭に賴るも風雨收まるときは人の之れを顧みるものなしと。プラテーエー戰後アリスタイデスの聲望は却て彼の上に出でたり。然れども彼れがアセンスに於て强大なる黨與を有したるに拘はらず多數が彼れを措てアリスタイデスに歸依したるは一はセミストクリースが自ら招きたる結果に外ならざりき。彼れは大事に臨んで俠く可らざる人傑なりしも平和の時に於ては寧ろ堪ゆ可からざるの習癖を有したり。彼れには法律的秩序の觀念乏しく、他人の權利を敬重するの思想薄く反對の意見を容るゝの雅量少なく、且つ自己の偉勳を自から稱賛して止まざりしかば益〻多數人民の厭ふ所となれり。當時アセンスとスパルタとの間は最も危險なる關係にてありたればセミストクリースの急激なる政策は却てアセンスの爲に大なる不利益となる可かりしなり。

之に反してアリスタイデスは憲法の改正以來人民の友たることを表證したるのみならず、スパルタに於てもセミストクリースを憎み大にアリスタイデスを信用したり。是れアリスタイデスの黨與殊に其の首領の一人たるカイモンは確乎として助かざるスパルタの政躰を敬慕したるが故なり。スパルタの攝政パウセニアスが謀反の嫌疑を以て召還せらるゝやスパルタ人はアセンスの保守黨をしてセミストクリースに同樣の嫌疑あるとを彈劾せしめんことを勉めたり。此計成らざりしもセミストクリースの黨與とアリスタイデスの黨與との間には競爭激烈となり、爲に兩雄の並び立つを許さゞる場合となりたり。アリスタイデスは固より此の黨爭に干與せざりしと雖ども、カイモン及び其の黨人は遂に貝殼裁判を實行しセミストクリースを外國に退去せしむることゝなしたり紀前四七一。セミストクリースは畢竟スパルタの爲に國內より放逐せられたるを憤り、スパルタに對する復讐の念禁ずる能はざりしかば、スパルタとは累世の仇敵たるアルゴス州に往き滯在すること凡そ五年にして又もやスパルタの爲に希臘より放逐せられ波斯に遁逃するの止むを得ざるに至れり。

セミストクリースの遁逃　是より先きスパルタの將パウセニアスは本國に召還せられしも卑跡明白ならずして放免せられたり。然れどもスパルタは遂に彼をして再び艦隊の提督たらしめざりしが彼は一個人として一戰艦を以てビザンシオムに歸り再び陰謀を成就せんことを勉めたり。彼は再び本國に召還せられたりしも、政府は其聲望と其の罪證の顯然たらざりしが爲とにより未だ彼を處分する能はざりしが彼は大膽にもヘロット二五八頁參照を煽動して政府を顚覆しライカーガスの憲法を廢し自から無制限の王權を掌握せんとを企てたり。彼は小亞細亞の總督アルタベーゾスと間斷なく通信したりしが此時使者に命ぜられたる奴隸は屢〻パウセニアスが亞細亞に遣はしたる使者等曾て歸來したることなきを怪しみ、竊かに密書の封を開きて之を讀み自己の運命も亦た此の封中に存したるを發見し直ちに之を政府に告訴したり。然るに奴隸は證人たるの資格を有せざること古代國家の制なりしが故にスパルタ政府は更に計策を運らして其の證跡を明白ならしめ遂にパウセニアスを捕縛することに決したり。パウセニアスは逃れてスパルタの牙城にある神殿の中に潛みたり。此處より彼を逐ふは不

法の所爲なりしかば政府は神殿の戸を鎖ぎ其の逸出を禁じたり。パウセニアス將に餓死して神殿を濱さんとするの恐あるに至り遂に政府は彼を神殿の中より引出したり。是れプラテーエー戰爭の名將パウセニアスの最期にして彼の謀反は大にスパルタの名望を失せしむるの結果を生じたり。

然るにスパルタ政府は此の事件の中よりして端なくセミストクリースがパウセニアスの陰謀に關係ある證跡を發見したり。顧ふにパウセニアスはセミストクリースがスパルタを恨むを知るが故に之を誘引して其の目的を達せんと欲したるは事實なりしならん。是に於てスパルタ直ちに之をアセンスに告げスパルタに列國會議を開きセミストクリースを審判せんと欲し、アセンス及びスパルタの聯合使節はアルゴスに往きて彼を逃捕せんと爲したり。セミストクリースは脱奔して北の方コルカイラ島に往き容れられずして本陸モロッシヤ人の王に頼りしも、猶ほ追求せられて此に足を留むること能はず、遂に山を越へてマセドニヤのピドナ港に出て名を變じて小亞細亞行の船に搭じたり。しかるに渡海中颶風起りて彼の船はナクソス島の附近に漂流したり。是時ナクソス島はデロス同盟に反して之に分離せんとしたりしかばアセンスの艦隊は之を圍みたる折柄なりしが故にセミストクリース事の急なるを見て即智妙計を出し、自から名乘りて船長に事實を告げ風雨を凌ぎ直ちに小亞細亞に向はんことを請求し船長若し聽かずんば同類者たるの禍を被らせん若し聽かば大なる報酬を與へんことを約したり。船長遂に之を諾してセミストクリースは虎口を逃れエフエッスに安着することを得たり。然るに小亞細亞に於て希臘人及び波斯人交彼れを害せんと欲する者多く、遂にミシヤの一友人ニコゲノスの計略により波斯貴婦人の乘用に供するを習慣とせる蓋車に乘り波斯の首府スーサに赴きたり（紀前四六四）。

セミストクリースの最期

是時波斯王ザークシースは弑せられて其子アルタザークシース一世（紀前四六五—四二五）新に位に即き興國の志切なりしがセミストクリース來りて一書を呈し、先王に對する功を告げ又た將來猶ほ波斯の爲めに盡す所あらんことを建言したり。王大に喜んで彼を容れ、且つ其の請に任せて一年間波斯語を學ぶことを許可したり。セミストクリースは六十以上の老人なりしが精神猶ほ活潑にして一年の後全く波斯語に通じ自由に王と談話することを得

るに至れり。アルタザークシース一世は大に彼を信用し彼によりて希臘征服の目的を達せんと欲し、小亞細亞の西岸にあるヤクサヤの邑を彼に賜ひ、此地に住居せしめたり。セミストクリースは此處に在ること數年遂に其約を成す能はずして沒したり。時に年六十五歳凡そ紀元前四百六十年頃なりしならんと云ふ。後年彼は自から毒を飲みて死したりとの傳說アセンスに行はれたれども當時の史家ツキデヾスは之を信用せずして全たく病死なりしことを斷言したり。セミストクリースの心術は今に歷史上の大疑問たり。彼は危機に臨んで恐れざるの勇あり、且つ能く此の危機を制する神速の智を有したり。彼は能く人を知り能く人の弱點を知りて之を利用したり。サラミス戰爭の前後一身を賭して國家の爲にする中にも萬一の場合には其策を轉じて一身の安全を期するの餘地を存し後來偶然にも之を利用するに至りしかば世には彼れが後年遂に波斯に遁逃するの日あるべきを豫想し、始より毛頭アセンスに對して愛國心を有せざる豪雄なりしかの如く論ずる者ありと雖ども是れ酷評にして且信ず可からざるなり。假令彼に如何なる先見の明ありしとするもサラミス海戰の時彼れ豈に他日アセンスに

反きて波斯に降るの必要あることを豫想せんや。彼は才智餘りありて正義の觀念に缺けたりしが故に後世彼に蒙らしむるに不當の寃罪を以てしたりと雖ども、彼がアセンスの爲に盡したるは固より誠意より出でたること疑なかる可し。然れども彼はアリスタイデスの如く公事の爲に全たく自己を忘るゝの人には非ざりき。彼は貧賤にして身を起し富裕にして身を終れり。彼れの成功は智勇兼備の點に存し彼の失敗は正義を缺きたるの結果なりしことを知る可し。彼にして若し德望を有したらんにはアリスタイデスの如きは終に彼に代りて局に當るの機會を得ざりしならん。惜い哉彼は無くてならぬ一つのものを缺きたり。

カイモンの政策　紀元前四百六十七年頃アリスタイデスは名譽を以て老死しカイモンは其の後任者として聲望他に比ぶものなかりき。彼は父ミルタイアデスの武材を受け、當時第一の名將なりしのみならず、資性寛大にして其富を公用に供し、其家を公衆の爲に開きたり。彼はセミストクリース及び其黨與に反して全希臘一致の主義を抱持しアセンスを盟主として外波斯と戰ひ內、スパルタ及び同盟諸市に對して成るべく讓步するの政策を用ひたり。換言せば希臘人の間

には平和、波斯人とは永久戰爭の狀態を維持せんことを欲したり。デロス同盟成立の後彼は數度の戰爭に於て波斯人よりエヂアン海上の要地を恢復し、就中紀元前四百六十六年小亞細亞の南岸ユーリメドン河口に於て海陸兩軍の大勝利を得たり。是の如き功業によりて一時セミストクリースの餘黨は彼に反抗することを能はざりしかども彼等は其の政策に滿足せざりき。セミストクリースは國外に放逐せられたりしかども彼の主義は猶ほ依然として存したり。彼は唯だ其の成功を急ぎて失敗したりと雖ども、波斯戰爭の形勢一變して其の危險亦た前日の如くならざるに此の外、部的事情の爲めにアセンスをして永久スパルタに一歩を讓り、其の自然の發達自由の進歩を犧牲に供せしむるはアセンス人が遂に忍ぶ能はざりし所なり。然れども一時はカイモンの勢力に當るものなかりしが、カイモンの父ミルタイアデスを暉劫したるザンチッパスの子ペリクリース反對黨に加はり、漸次その首領となるに及びてカイモンのアセンスに於ける位置を動搖せしめ彼をして自から一黨派の首長たらしむるのみに至れり。

ペリクリースの政策

ペリクリース(ペリクレス)は民黨の首領にしてカイモンの貴族的政略に反對したり。然れども彼れ亦たアセンス名門の後裔にして其母はクレイスセニースの姪なりき。又た父系に於ては僧主パイシスツレタスと親族の關係を有し彼の容貌は酷だ彼の大僧主に肖たりとの評ありたり。彼れはカイモンのごとき武將にあらずして、當時の學問を修め思想を練習し、常に哲學者アナクサゴラス、プロタゴラス、ゼノ等と親交を爲したり。特に能辯術に達し、始めて草稿を起して演說を爲したるは彼れなりしと言ふ。彼はアセンスの隆盛一にセミストクリースの政策に復歸するにあるとを看破したり。アセンスはスパルタに拘はらずして其の獨立を保全したれば又たスパルタに拘はらずして將來の目的を達す可きことを主張したり。波斯戰爭以來アセンスの社會は全く其の狀態を一變したれば、數年前の善政府は以て今日の善政府と爲す可からず。波斯戰爭の際までアセンスは靜閑なる內地の一市府にして其の市民は多く小農夫なりき。彼等は時々首府に來るのみにして、其の土地及び收穫を保全することを得れば首府の政權は富者の掌裡に存するも厭はざりき。今やアセンスは商業的大都會となり、新市府は其の海港に起り、活潑機敏なる商民の輻湊する所となり、且

つアセンスの商人は今や希臘の各港に出入し、其の海軍は世界第一の强勢を有し、エヂアン海上を覆壓し、以て海上大同盟の元首となれり。ペリクリース思へらく、アセンスにして斯の如き地位に立つ以上其の市民は自から治め又た他を治むるの能力を有せざる可からず、教育により、議會に列して演說を聽くことにより、陪審官として裁判に參與することにより、又た各種の才能を集めたるアセンス市民日々の交際により、普通のアセンス人をして常識を養成し以て聰明なる市民たらしむることを得べし、賢明なる政治家ありて之を指導するときは多數の市民は貴族若くは富者の小團躰よりも能くアセンスの國家をして隆盛ならしむるを得べしと。是れペリクリースの意見にして彼は貴族を信用せざりしなり。貴族果して新アセンスの隆盛を欲するか、果して此の隆盛を支持するの方法を知るか。是れペリクリースが信用を置かざりし所なり。貴族等は過去に戀々として現在及び將來の利益に親切ならず、且つ彼等が動もすればスパルタに依頼せんとするの傾向はアセンスの爲に有害なりき。ペリクリースはスパルタは到底アセンスの眞友に非ず之と常に親和せんとするカイモンの政策失敗に屬すべきことを看破し

たり。彼はスパルタとの戰爭を挑發することを欲せざりしも遂に其の戰爭の避く可からざることを知り、其の戰爭の未だ來らざるに先ちて可及的にアセンスを强盛ならしめんことを期望したり。

保守黨の失敗　是より先きスパルタはアセンスの强盛を見て嫉妬に堪へず、竊かに其の衰亡を希ひたりしが紀元前四百六十四年スパルタは大地震ありて市民二万人を失ひ續いてヘロットの反亂あり、メッセニヤ人之れに應じて第三メッセニヤ戰爭（紀前四六四―四五六）開始せられたり（以上二六七頁參照）スパルタ遂に之を鎭定する能はずして助力を其の同盟諸國に請求したり。アセンスに向つても同樣の請求を爲したりしを見ればスパルタが如何に困厄に陷りしかを察するに餘あり。アセンス市民中進步黨は概して之に應援を與ふるの理由なきを主張したりしかども、當時カイモンの勢力猶ほ衰へざりしが故に、彼の勸告に從ひアセンスはカイモンを將として步兵四千をスパルタに遣りたり。抑もスパルタ人がアセンス人の援兵を求めたるは是れアセンス人が攻城の戰術に長じたるが爲なりき。然るにカイモンはメッセニヤ州の堅城イソーメー（イトーメー）を陷るゝこと能はざりしかば

スパルタはアセンスの兵或は叛徒に內應しつゝあるかと疑ひ、遽かにアセンスの助力を謝絕したり。而して城未だ陷らず、アセンス以外の同盟軍は依然として其の應援を爲しつゝありき。紀前四一六。

此の一舉によりカイモンの政治的勢力は忽ち地に墜ちたり。民黨は、始より此の遠征に反對したり。今やアセンス全市民スパルタの擧動を侮辱となし、憤懣に堪へざりしかば民黨は忽ちアセンスの大勢力となれり。アセンスはスパルタに向つて同盟の關係斷絕したることを通告し、而してスパルタの仇敵たるアルゴスと同盟を結ばんことに決定し、遂に紀元前四百六十一年の末アセンスとアルゴスとの間に同盟の約締結せられたり。是の如くスパルタの失計により全希臘の一致聯合は遂に破壞せられたり。

憲法上の改革

カイモン既に其の聲望を失墜したり。民黨は即ち之に乘じてアセンスの憲法に一大改革を爲し更に貴族黨の根據に打擊を加へたり。アレオパゴスの元老會議（以上三二四頁參照）は貴族の精英を以て組織せられ、保守黨の城郭と指目せられたり。當時人民會議及び五百人會議に於ては改革黨多數なりしかども此の元老會に於ては然らざりき。元來凡てのアルコン官皆な其の議員となるに非ずして一種の試驗を要したれば貴族に反對する者はアルコン官たりし者も或は排斥せられたり、而して新法律を禁止する不裁可權を有し、又た無制限に人民の行爲に干涉するの特權を有したれば此の元老會議が益〻多數市民の利益と反對の位置に立ちたるを見る可し。

紀元前四百六十年埃及人波斯に反してアセンスの援助を求めカイモン兵に將として埃及に赴きしかば民黨は其の不在に乘じて改革案を議會に提出したり。提出者は當初ペリクリースと肩を比べたる民黨の首領エフィアルティスなりき。彼はアレオパゴスの元老會議が民政の原則に反し、最早ソロンの趣旨に適はざる團體となり、時勢の要求を理解せざる元老輩をして空しく一階級の利益の爲に全市民の上に必要なる改革を阻害せしむるの機關たるに過ぎずと論じ、遂に其の政務に容喙し立法に參與するの特權を奪ふの法律案を通過せしめたり。而して其の權能は單に不敬罪に屬する重罪の裁判權のみに制限せられたり。然るに從來の憲法によればアレオパゴスの元老會議は殆んど法律不裁可の權を有したりしが故

に保守黨は以上の改革を以て違憲となし特に埃及より歸りたるカイモンは此の改革を以て革命となし、其の結果國家を衰微せしむるものとなし、極力憲法の救護を以て自から任じ、法律案通過の後兩黨の競爭劇烈となり、遂に貝殼裁判に訴ふるの止む可からざるに至れり。而して其の宣告はカイモンをして國外に退去せしむるとなりたり（紀元前四五九）。

是に於てアセンスは純然たる民政となり、國家の主權は五百人會議及び人民會議のみに歸したり。其の命令は悉く法律にして敢て之を不裁可するの權能者なく、有司悉く之に向つて責任を負ふことゝなり、敢て輿論に獨立して市民會議の決議を聖附する者なきに至れり。然れども黨爭の如何に激烈なりしかは此の改革の後改革案の提出者エフィアルティスが保守黨の爲に暗殺せられたるを以て知る可きなり。

デロス同盟本部の移轉

民黨は內に在りては貴族の特權を廢し、市民平等の主義を實行したりしが外に對しても亦たスパルタに拘はらずして自主的外交の方針を取り、アセンスの國權を擴張せんことを勉めたり。デロス同盟は元來同盟諸市平等の主義を以て組織せられたりしかども、之を實行すること困難にしてアセンスは益〻其の大權を以て處分するの止むを得ざるに至れり。波斯戰爭次第に衰ふるに隨うて同盟諸市は愈〻戰艦水兵を供するを厭ひ、キオス、レスボス、サモスの三大島を除くの外、之れに代ふるに資金を以てすることとなりしかば、同盟の海軍は殆んど全くアセンスの海軍となり、デロスの同盟會議も空しく形式のみとなりたり。是に於てペリクリース及び民黨は公然形勢の前日と異なるを主張しスパルタとの關係圓滑ならずしてデロス島の防備安固ならざるを名とし、サモス島の發言により遂に同盟本部をデロス島よりアセンスに移轉せしめたり。是れ凡そ紀元前四百六十年頃の事なりしと云ふ。

是に於て同盟の資金一千八百タレントは該島よりアセンスに運搬せられ、而して同盟諸市の分擔費は年々アセンスに輸入せられたり。是の如くアセンスの勢力は膨脹するに當り、スパルタは猶ほメッセニヤ戰爭及び四隣の同盟漸やく分離獨立せんとするの狀態に陷り、アセンス及びアルゴスの反對同盟成立したりしかども更に之に抵抗を試みるの遑あらざりき。

コリンス及エーギーナとの開戰　さればペロポンニーソス半島の北部諸國中特にアセンスの膨脹を嫉視したるコリンスはエーギーナ島及びエピダウロスと秘密の同盟を結びメガラ州を削りて要害の地を得んことを欲したり。元來メガラは產業上アッチカに依頼せざる可からざる關係を有したるが爲に、スパルタに對する同盟の約を破毀してアセンス及びアルゴスの同盟に加入したり（紀前五九四。）メガラは南部希臘の咽喉にしてアセンスは此の咽喉を扼したれば自由に其兵を地峽以南に進め又た地峽以南より來る敵兵を防ぐことを得るに至れり。且つ一層その防備を嚴にしアセンスとの連絡を密ならしめんが爲にメガラ市と其の港口ニセーアとの間に長壁を築きたり。是に於て、コリンス、エピダウロス及びエーギーナは直ちにアセンスに向つて攻擊の戰爭を開始したり。概してアセンスの勝利に歸し、同盟艦隊は七十隻を捕獲せられ、エーギーナ島にはアセンスの兵上陸して其の首府を圍みたり。コリンスの兵メガラを襲ひたりしかども是れ亦たアセンス軍の爲に擊退せられたり。是時アセンスは猶ほ波斯と戰ひ、一軍は埃及に在り、一軍はエーギーナ島にありて擧國外戰に從事しつゝありしかばアセンスは少年及び老人を募集してメガラの救援に赴かしめたり。時に紀元前四百五十八年にして此年外國に戰死したるアセンス人の名を記したる碑文の斷片今猶ほ存するものを見るに彼等の或る者はサイプロスに戰ひ或る者は埃及に戰ひ或る者はフィニシヤに戰ひ又或る者はメガラ、エーギーナ及びペロポンニーソスの沿岸に戰ひつゝありしなり。是れ彼等が波斯に勝利を得て益く可き精神を發起し、天下何事か成らざらんとの氣慨を有したればなり。擧國一致、民政完備の勢力は實に是の如き結果を生ぜしめたり。

スパルタ及びシープスとの開戰　アセンスの勢力隆々旭日の如くなりしかばスパルタは內亂未だ鎭定せざりしかども嫉視するに堪へずして此の上にアセンスが其の勢力を膨脹せんとするを防制せんとに決したり。當時中部希臘に於てフオーキス州の人民アセンスの物興、スパルタの衰微に乘じドリス州を侵掠せんとしたりしかば、スパルタはドリアン人を救ふを名としスパルタの兵一千五百及び同盟の兵一万をドリス州に入らしめたり。フオーキス人は直ちに退去したりしかばスパルタの兵も歸路に就きたり。然るにコリンスの地峽にはア

センスの兵あり、又た海上にも敵艦徘徊してスパルタの兵は其の歸路を斷たれ、遂にビオシヤ州に入りたり。ビオシヤ州の首府シーブスは波斯戰爭の際アセンスを嫌み波斯に從屬し其の結果によりて大に其の勢力を失墜したりしかば、大にスパルタの兵を歡迎したり。スパルタも亦たシーブスを弱勢ならしめたる政策の過失なりしを覺り、再びシーブスをしてビオシヤ諸市の盟主となし以てアセンスの勢力を壓附せんと欲しシーブスの城砦を修復せしめビオシヤの諸市をしてシーブスに服屬せしめんことを助成したり。蓋しシーブスの政体は寡頭政治なりしが故に、州内の諸市を服屬せしめ以て其の同盟を維持せんとするには諸市にも又た寡頭政治を設立することを必要となしたり。而してアセンスの貴族黨中に叛逆者ありて竊かにスパルタに通じスパルタの軍ビオシヤより歸らんとするに際し、急にアセンスを襲はしめ、内外相應じてアセンスの政權を貴族の掌握に歸せしめんとの謀反を企てたり。アセンス人は其の隱謀を發見し在國の全市民及び同盟の兵合して一万四千を遣はしてビオシヤに進軍しスパルタの侵入を拒がしめたり。カイモン國外に在りて國難を聞き、アセンス兵の國境を出るや直に之に

就て從軍を請求し以て貴族黨の惡く異心あるにあらざることを證明せんと欲したり。然るに其の請求は拒絶せられたりしかば彼は慨然として其鎧を黨友に託し、之を戰場に被りて、同黨の汚名を雪がんとを要求したり。紀元前四百五十七年兩軍タナグラに會戰し遂にスパルタ軍の勝利となり、彼等はメガラ州を殘暴して難なく國内に歸りたり。此役カイモンの黨與百人最も苦戰して討死し其の結果により後年兩黨相和し、ペリクリース及びカイモンの兩雄相提携して國事に當ることを得るに至れり。

紀元前四百五十六年の始、即ちタナグラ戰敗の後僅かに二ケ月にしてアセンス人は再びビオシヤに進入し、シーブスの兵を破りてビオシヤの諸市を占領し、寡頭政治を顚覆し悉く政權をアセンス黨の手に歸せしめて民政と爲したり。而してフオーキス及びロクリスも亦たアセンスの同盟に服屬したり。是に於てアセンスは其の海上の覇權に加へ、陸上に於てもコリンス灣よりセルモピリーの海峽に至る迄悉く其の勢力を普及せしめ、其の同盟は南部希臘にも蔓延したり。紀元前四百五十六年エーギーナは數年間アセンスの長圖を被りしがスパルタ及び其の同

盟の救援なくして遂に其の城壁を毀ち其の戰艦を交付し、アセンスの屬國とはなれり。

長壁の落成

是より先きアセンスと其の軍港たるパイレーユースとは二個の市邑を爲したりしがアセンスの安全は一に其の軍港との連絡に存したり。アッチカの產物は以てアッチカの人民を養ふに足らざればアセンス人の供給は一に海外よりの輸入に依賴したり、而してアセンスの覇權は專ら其の海上の勢力に存したれば首府と軍港との連絡は全く其の命脈に關したり。セミストクリースは軍港の建設者にして始より其盛大を期し、之を繞らすに首府と同「周圍にして厚さ十四五呎の壁を以てしたり。紀元前四百五十七年頃より首府と新舊兩港との間に二重の長壁を築き、翌年に至りて落成したり。首府とパイレーユースとの間は長さ四哩半舊港ファレーロンとの間は四哩の長壁を以て連絡せられたり。長壁は高さ六十呎にして之を守るに數多の堅樓を以てし、且つ長壁の上は廣さ二馬車を併行せしむるに足り公道として使用せられ、諸樓は往々商店及び「住家として使用せられたり。然るに二長壁の間は甚だ廣くして守るに難く、敵艦此間に兵を上陸せしむるを得ることを發見し、後年に至りて更らに北壁の南に第三の長壁を築き首府とパイレーユースとの間は二重の長壁を以て連絡せられたり紀元前四五四。二長壁の間は三百五十呎ありて後來其兩側は家屋を以て充塞せられたり。北壁の基址は今に存してアセンスとパイレーユースとの間に建設せられたる鐵道の爲に使用せられたり。方形の六石を以て成り其の厚さ凡そ十二呎ありと云ふ。是の如くアセンスは三重の長壁によりて平時戰時の別なく海上との連絡を通じたれば海軍の存する限りアセンスは陸上の敵を恐るゝの必要なきに至れり。

兩政治家の調和

アセンスは防備益〻嚴にして其の勢力は東西南北に振ひたり。其の海軍はレコニヤの沿岸に出沒し、ペロポンニーソス半島を回航したり。紀元前四百五十六年イソーメー陷ゐり第三メッセニヤ戰爭亦たスパルタの勝利となるやアセンスの提督トルミディスはコリンス灣に進入し、エートリヤ州のカルキスを占領しペロポンニーソス半島の北岸にあるシキオンを掠め、又たロクリス州の海岸にあるナウパクトスを略したり。此のナウパクトスには脫奔したるメッセニヤ人を住居せしめ、以てスパルタ及び其の同盟を討つの根據地と爲した

り。ザキンソス及びケファレニヤの島人亦たアセンスの同盟に加はり、又たペロポンニーソス半島に向つてはペリクリース自から艦隊を率ゐてコリンス灣に進入し、アケイヤ諸市をしてアセンスの同盟と爲らしめたり。

然れども一方には埃及の遠征波斯の勝利に歸してアセンスの艦隊殆んど全滅したり。同時にセッサリー遠征も成功の結果なくして止みたり。且つペリクリースは永久スパルタと戰爭の狀態を維持するの不利益なるを知り、之と相和せんことを希望したり。然れども彼れ自から此の談判を開始するには不適當にして此任にはアセンス人中カイモンに勝れる者なかりき。タナグラ戰爭以來兩黨漸やく相接近しつゝありしが此に至りてペリクリースはカイモンと調和し、彼れ自から發議してカイモンに歸國を許可し、カイモンは在外五年にして再び鄉土に歸ることを得たり（紀元前四五四）。是より兩雄相提携し、外交上に於てはペリクリース一歩をカイモンに讓り、波斯との戰爭を彼に一任し、漫りにスパルタを挑發するを止め、而して內治に於てはカイモン亦た一歩をペリクリースに讓り、既に成就せられたる改革を阻害することを止め、ペリクリースをして自由に其の手腕を振はしめたり。

紀元前四百五十二年カイモンの周旋によりて遂にアセンスとスパルタとの間に五年間休戰の約を締結したり。而してカイモンは埃及遠征の失敗を恢復し、波斯の勢力をして再びフィニシヤ海上に強盛ならざらしめんが爲に自から戰艦二百隻を以てサイプロス島を征し、且つ六十隻をして埃及に赴かしめたり。カイモンはサイプロス島のシチオムを圍み、軍中に在りて死したり。カイモン遺命して其の死を秘せしめ徐かにシチオムの圍を解かしめたり。副將アナクシクラテースは之に代りて艦隊を指揮し、同島のサラミスに於てフィニシヤ及キリキヤの艦隊を破り、又た同時に陸上に於て敵軍を敗走せしめ、勝利とカイモンの遺骸とを乘せてアセンスに歸着せり（紀元前四四九）。

三十年の和約

紀元前四百四十八年はアセンス全盛の時代なりき。海上の同盟に加へて陸上にも同盟を有し、中部希臘に於てはメガラ、ビオシヤ、フオーキス、ロークリスの諸州、又南部希臘に於てはツレーゼン及びアケイヤを包括したり。然るに翌年に至ては形勢全く一變し、アセンスは永久陸上の覇國たる位置を失墜したり。蓋しビオシヤの諸市をして民政と爲したる結果、數多有勢の貴族黨は逃

亡して再舉を謀り、フォーキス、ロークリス等の不平黨又之に力を戮せてピオシヤを襲ひ、數個の市邑を占領したり。アセンスの將トルミデス小兵を以て之を討伐し、却て大敗に遭ふて戰死し、殘兵多くは捕虜となりたり。此の捕虜を取り返へす爲にアセンスは和を媾してピオシヤを拋棄し、貴族政治の復活、民黨の放逐を傍觀するの止むを得ざるに至れり。ピオシヤの成功によりてユービーヤ島の諸市又たアセンスに叛きたり。ペリクリース之を征討しつゝあるに際してコリンスは遂にメガラを煽動してアセンスの守備兵を殺さしめ、アセンスをしてコリンスの地峽を扼するの關門を失はしめたり。是の如くアセンスは中部希臘に於て其の勢力を失墜し、ユービーヤ又離叛したると同時にスパルタと五年間の休戰條約滿期となりしかばスパルタの軍はアッチカに進入し、アセンスは四方離叛と戰爭とに包圍せられたり。敏活なるペリクリースは直に和を媾じスパルタの王プレイトアナックスの經驗に乏しきと其の副將クレアンドリダスの貪欲とを利用し遂にスパルタの進入軍を退去せしめ以てアセンスの危急を救ひたり。大難既に過ぎたるを以てペリクリースは直に戰艦五十隻歩兵五千を以てユービーヤ島を征討し、半は談判により半は勢力によりて全島を服從せしめたり。然れどもアセンスが恢復することを得たるは僅に此の島のみにして其の陸上に於ける覇權は消滅に屬したり。而して着實なるアセンス市民中には平和を克復し、再びアセンスの基礎を固くす可しとの意見を有する者多く、ペリクリースは即ち此の意見の代表者として最も之が爲に力を盡くし、遂に紀元前四百、四十五年スパルタと三十年間の平和條約を締結することを得たり。此の平和によりアセンスはペロポンニーソスに於ける同盟を拋棄し、又メガラを失ひ、ピオシヤに於ては單にプラテーエーのみを保存することを得たり。兩同盟は互に其の獨立を承認し、他の範圍を侵蝕せざることを誓約し且つ從來何れの同盟にも加入せざりし諸國は隨意何れに屬するも不可なきことを承諾したり。是に於て希臘列國は二個の獨立したる同盟聯合となり、スパルタは陸上に於て、アセンスは海上に於て覇權を有し、到底全希臘合同一致の望なきことを證明したり。

貴族黨の瓦解

カイモン死後貴族黨衰へて振はず、ツキデデース、（同名の史家とは別人なり）一時その黨與を糾合して大にペリクリースの政策に反抗したり。彼等の主

義は希臘の列國と圓滑なる關係を維持し、漫りにアセンスの勢力を擴張して他の攻擊を挑發することを避けんとするに在りたり。彼等はカイモンの意見を固守して全力を希臘共同の敵たる波斯との戰爭に傾注し、デロス同盟の資力は嚴正に其の同盟を組織したる目的の爲にのみ使用す可きことを主張したり。當時デロス同盟の本部は既にアセンスに移され其の資力は波斯の攻擊に向つて同盟諸國を防禦するに餘りありしが故に、ペリクリースは其の餘資を轉じてアセンスを堅固にし且つ之を壯麗ならしむる爲めに使用したり。ツキデデースは之を以て不正の所爲となし、列國の眼中に於てアセンスの品位を辱かしむる者となしたり。之に反してペリクリースはアセンスが波斯の攻擊に向つて能く同盟諸國を防衛するに足るの實力を具備する以上、其の餘資を以てアセンスの爲に使用するも不可あるなしとの意見を固持したり。兩政治家の競爭漸やく激烈となり、恰も船中二人の船長ありて各〻船を反對の方向に進めんとするの狀ありしかば、貴族黨はペリクリースの政策を以て國家に大害ありとなし、貝殼載判に訴へてペリクリースを國外に驅逐せんことを企てたりしが其の計畫は齟齬して却て自黨を瓦解せしむるの結果を生じたり。ペリクリースは市民の信任固くして投票はツキデデースに集り、彼は國外に退出し其黨與は首領を失して全たく瓦解に屬したり紀元前四四四。

ペリクリースの時代

通例紀元前四百六十五年より四百二十九年迄をペリクリースの時代と稱す。是れアセンスに於てペリクリースが其の政治的生活を爲し、アセンスをして前古無比の文化を開發せしめたる時代なるが故なり。但し往々波斯戰爭以來ペロポンニーソス戰爭までの時代をペリクリースの時代と稱することもあればペリクリースの時代とは判然一定の年限を言ふにあらずして單にアセンス全盛の時代と見て可なり。特に貴族黨瓦解の後十五年の間ペリクリースは單獨にてアセンスの政治を指導したり紀元前四四四—四二九。就中その十年間は彼れが勢力の全盛を極めたる時代なりき。四十年來黨爭に厭きたるアセンスは擧りてペリクリースの指導に任せたり。彼れは其政策より言へばセミストクリースの如く、其の品格より言へばアリスタイデスの如く、其のアセンスを裝飾するの技倆はカイモンの業を紹ぎて其上に逸出し、ソロン以來先人の遺業は悉くペリクリースによりて大成せられたるの觀ありき。貴族等は彼れが貴族の一人

なるを以て之を尊敬し、商人及び外人等は彼れが商業を保護するを欣喜し、船業者及び水夫等は彼れが海事を奬勵し、美術家及び工藝者は彼れが絶えず公共的建設を經營するを以て滿足し、而して彼れが朗々たる能辯の清音と彼れが經營したる壯麗無比の建設とは各階級に屬する全市民の耳目を感動せしめたり。アセンスの主權は一般の市民會議に存したれども、市民一般に行政の能力を有せしめんこと實際爲し得べき事に非ず。唯だ彼等は政治家の意見を理解し、之を取捨して最も適當なる政策を採用するの明あるを以て多とす可きのみ。故に民政を完全に行はんとするには市民を誘導す可き賢明なる政治家の在るを要件とす。是を以てペリクリースは十餘年の間民心を一身に收めて恰かも市民てふ君主の下に立てる大宰相の如く、又たアセンス共和國の大統領とも言ふ可き位置を有したり。然れども彼はアルコンにては非ざりしなり。アルコンの官は抽籤にして既に重きを爲さゞりしがスツラテゴィ（十將）の地位は選擧制にして最も勢力を有したり。十將は海陸軍の總督として戰艦の提督を任命し、外務を管理し、外國の使節に接し、議會の開會日を定め、凡て市民の最終裁決に附すべき事項を整理したり。ペリク

リースは年々十將の一人に擧げられたりしが故に、實際他の九人は副將の如くなりしのみならず、或る年には十將は例の如く選まれ、而してペリクリースは特別の選擧により全國民の代表者として之に加へしめらるゝに至れり。又た財政長官の位置も抽籤によらずして選擧制なりし上に、民政の通則に從はずして單獨官吏、且つ其の任期四年にして任期滿限の後再選せらるゝことを得たり。ペリクリースは此官に兼任し、且つ特別の委任を受けて公共的經營の事業をも監督したり。而して議會に於けるペリクリースの勢力は凡ての選擧を左右して其の希望に從はしむることを得たり。故に史家ツキデデス曰く『憲法は名稱に於て民政なりしも事實に於ては最も秀でたる一市人の政治なりしなり』と。（後第一世紀の史家）又たプルータルク（元紀）曰く『全市中に於て彼を常に見る可き一條の街衢あり、市場及び議事堂に到るの一街衢即ち是なり、彼は凡ての宴會、遊戲的集會、及び交際を謝辭したり』と。以てペリクリースが如何に國政の爲に其の全力を集注したるかを見る可し。彼れの理想はアセンスをして民主政治の模範的首府たらしむるのみならず、同時に全希臘に於て美術及び文化の中心たらしむるに在りき。彼れが市民教育の爲

に使用したる方便は近世の國家に於て國民教育の爲に通常直接に使用する方便と同じからざりき。學校的教育及び讀書的學問は彼れが市民に與へたる普通教育には非ざりしなり。當時印行の術未だ開けずして活字なく、書籍乏しくして、學校教育は普通教育として一般市民に要求するに不適當なりしなり。然れども、ヲクリースは最も能くアセンス市民をして其の特長たる知識を求め、詩歌を好み、美術を愛するの精神を發揮せしめたり。彼は宗教的禮典、公共的遊戯及び其他日常生活の方便によりて市民を活潑敏捷にし、以て其の能力を發達せしめ、以て其の精神を高尚ならしめんことを勉めたり。彼れの誘導啓發によりて諸神の社殿及び其の彫像を宏壯、美麗にし、且つ公衆群集の場所には繪畫を掲げて諸神の行爲及びアセンス史上の事蹟を顯彰し、又た國費を以て大劇場を公開し、大詩人の作に成れる悲劇又た喜劇を演ぜしめ以て教育の具となしたり。貧人をして是等劇場に入らしむる爲に國庫よりして入場料を以て劇場を修繕し又た政府に地代を納めしむるの制を用ひたり。悲劇は諸神及び古英雄の慘憺たる物語を演じ、喜劇は往々現代社會の實狀を演じ、演劇は恰も社會を代表し、且つ之を

評論する今代新聞紙の代用を爲したり。されば演劇の興行は單に人民に娯樂を供するのみならず、其の趣味を高尚にし自然に人物及び行爲の醜美を辨識せしめ、以て思考力を養成すること現今の讀書教育と異ならざりき。

初めペリクリースは波斯戰爭に際して破壞せられたる全希臘の神殿を再建するの策を講じ、一は以て全希臘の聯合一致を鞏固ならしめんと欲し、本部及びアイオニヤ諸市諸島に使者を遣はし代表者をアセンスに會合せしめんことを計畫したり。是時使者には波斯戰爭に參與したる老年者二十人を撰み、之を四個に分ちて甲は小亞細亞の希臘人及び諸島に向ひ、乙はヘレスポント及びスレース地方に向ひ、丙はピオシヤ、フォーキス及びペロポンニーソス半島に向ひ、丁はユービーヤ及びセッサリーに向ひて出發せしめたり。是の如くして列國會議をアセンスに開き、前述の目的を成就するの方策を議じ、波斯戰爭の紀念として全希臘の大祭を創設し、且海陸に於て列國間の交際を平和にするの保證を規定せんことを希望したり。使者を派遣したる年月は詳かならずと雖も五年休戰條約（紀元前四五〇）の後若しくは三十年平和條約（紀元前四四五）の後なりしならんと云ふ。波斯戰爭の紀念はアセンスの光榮を

紀念するに均しく、スパルタの嫉妬及び自餘の列國の冷淡とによりてペリクリースの計畫は水泡に屬したり。是よりペリクリースは全力を擧げてアセンスを壯麗にし、以て波斯戰爭の紀念を後世に傳存せしめ、反對者と雖ども文化に於てアセンスが希臘列國の首府たることを否定する能はざらしめんことを期したり。

當時の美術及び文學

顧ふに三十年平和條約よりペロポンニーソス戰爭の開始に至る十年間アセンスに於ける知識の煥發と美術の興起とは古今無比の盛況を顯はしたり。市中の最高處アクロポリスは元來牙城なりしが當時此處を以て神殿及び諸神禮拜の地となし之を神都と稱したり。此處に建設せられたる大神殿は之をパルセノン（處女神の宮）と稱し、アセンスの國神アセチーを崇拜する神殿にして古來希臘建築の最も美妙を極めたるものと稱せられたり。技師には有名なるイクチノスありて之を設計し而して其の神殿の彫刻は万世美術家の模範と稱せらるゝフェイディアスの作に係れり。此のフェイディアスはペリクリースの友人にして繪畫、建築及び特に彫刻の名師なりしのみならず思想及び見識に於ても亦當代第一流の人物にして能くペリクリースの思想に通じ彼れが美術に關する大工事を監督し其の經營を翼贊したり。實に政治界に於てはペリクリース王たりしが如く彼は亦た美術界の王たりき。アセチー神の像は高さ四十七呎の大像にして神體は象牙を以てし、又た女神の頭髮武器及び服裝は黃金を以て彫刻したり。女神の左手は美はしき楯の上に安置せられて槍を握り、其の右手は高く戰勝の像を持し而して其の兩足には黃金の履を穿ち最も美術の精巧を極めたり。アッチカ州の海角スニオン岬を廻れば船中より第一に望むは突兀たる女神の像にして其威風凜々たる光景はアセンス亡びて羅馬に併せられたる後迄も依然として存し、羅馬帝國の晩年即ち紀元後三百九十五年蠻族の長アラリク希臘に亂入しアセンスの牙城を掠めんとせし時女神の威を恐れて退去したりと言ふ。此の神殿の建設落成したるは凡そ紀元前四百三十七年頃なりしならん、而して之と同時に牙城の下テデーチンと云ふ音樂興行の劇場及び其他精美なる彫刻を以て裝飾せられたる建築成りてアセンスは前代未聞の盛榮に達したり。

文學に於ては前にヤラソン、サラミス及びプラテーエーの三役に戰ひたる悲劇作者ユースキロス（紀元前五二五―四五六）現出し尋て十五歲の時、波斯戰爭の祝祭に列りたるソ

フォクリース（紀元前四九六―四〇五）及びサラミス海戰の年に生れたるユーリピディス（紀元前四八〇―四〇六）あり又た喜劇にはアリストファニース（紀前四五六頃―三八〇頃）ありて各、其の妙技を競ひたり。小亞細亞ハリカーナッソスのヘロドトス（紀前四八四頃―四〇八頃）はアイオニヤ人にして天下を遍歷し遂にアセンスに來りて其の名著の第一編を草し、之を公衆の前に朗讀し、市民より十タレントの賞與を得たり（紀元前四六四頃）。彼の大著は波斯戰爭を眼目とし之に關係ある當時世界列國の事蹟を記述し後世に歷史の父たる榮名を蒙したり。又ペロポンニーソス戰爭の史家ツキディディス（紀前四七一―三九六頃）ありて哲學的歷史家の祖と稱せらるゝに至れり。小亞細亞のアイオニヤに勃興し轉じて伊太利の南部に燒發したる希臘哲學は西洋に於る哲學及び科學の基にしてアセンスの盛榮に誘引せられ、ペリクリースの時代に至て遂にアセンスに歸化したりと云ふことを得べし。アイオニヤの哲學者アナクサゴラスは波斯戰爭後年齡二十歲の頃アセンスに來りてペリクリース其他名士の師友となり、伊太利エレアの哲學者ゼノも紀元前四百五十四年頃より屢〻アセンスに來り、又同四百五十年頃北方アブデラの學者にしてソフイスト即ち詭辯學派の祖プロタゴラス亦アセンスに來りて皆ペリクリースの交遊となりたり。最後にソクラテス（紀前四六九―三九九）ありてアイオニヤの哲學及び詭辯學派の懷疑思想に對して學問の新立脚點を建設せんと爲しつゝあり。而してペリクリースの家門は以上諸名士等の集合する中心點とはなりたる人なりしかばペリクリースの妻アスペシヤは秀美學識を兼備したる賢婦なり。文化の上に於るペリクリースの經營は全く成功しアセンスは永久文明國の模範たる遺業を後世に傳へたり。然れども政治上に於てペリクリースが建設したるアセンスの覇業はアッチカの民力を以てしては到底成功しがたき大業なりしが故に、ペリクリースの死後三十年を經ずして遂に亡滅に屬したり。

アセンス覇業の弱點　ペリクリースの時代に當りてアセンスは世界第一の海軍强國とはなれり。彼れが晩年の演說の一に言へることあり『今や宇內の帝王、國民にして一も剃下諸君が能く海上に放ち得べき海軍に當る者なし』と。而して此言は毫も虛誇に非ざりき。東方の諸帝國は悉く衰亡して波斯に併せられたり。然るに波斯帝國は其の全力を擧げて遂にアセンスを亡ぼすこと能はざりき。而して西には未だ羅馬興起せざるの時なりしかば、疑もなく希臘人は當時天

下第一の富强なる人種にしてアセンスは即ち其の眞正の首領國たりしなり。陸上に於てはスパルタ及び其の同盟の爲に制せられたるに拘はらず、海上に於ては其の勢力實に宇内に冠絶したり。軍港は以て戰艦四百隻を容るべく平常其港内に三橈戰艦三百隻を備へ、而して戰時には容易に六万の兵を海上に出すことを得たり。四日間にして其の艦隊は南の方ロード島又た北の方ポントス地方に達するを得べく、戰艦六十隻は常に多島海中を巡邏し且つ海戰の演習を爲したり。されば エヂアン海上は恰かもアセンスの領土に均しくアッチカ及び群島は一國となりて外國の戰艦自由に其の海上を航行する能はざるは猶ほ外兵が自由にアッチカの土地を經過すること能はざるが如くなりき。

又たペリクリースはアセンスの覇權を維持するの方便として後年羅馬人が最も完全に施行したる市民移住の制を用ひたり。希臘の殖民制に二種あり。一はアポイキエィと稱し、群蜂の舊巢より新巢に飛集するが如く、一市の人口增加するときは市民は幾部分移住して新市を建設し、母市に獨立の關係を有したり。之に反してクレルキエィと稱せられたるは即ちアセンス特有の殖民法にしてペリクリ

ース最も能く之を用ひたり。即ちアセンスに征服せられたる土地をアセンスの市民に分配して移住せしめ母市と關係を絶つことなく、母市の爲に屬邦を支配するの游屏たりき。

是の如くアセンスは波斯戰爭デロス海軍同盟創設以來ペリクリースの時代に至ては實に一大帝國の勢を成したりしが、其の弱點は專ら同盟諸市に對する關係の上に存したり。元來同等諸市の聯合にしてアセンスは單に其の統領たるに外ならざりしも、聯盟諸市は再び其の聯合より分離するの自由なく分離せんとして漸次屬邦の地位に落ちたるものもあり又た船艦を出すもの漸次減少して聯盟分擔費はアセンスに對する貢稅の如く、同盟はキオス、サモス、レスボスの三大島を除き全たく屬邦たるの結果を生じたり。此の如くエヂアン海の諸島及び海濱はアセンスの屬邦となりて遂には内政上にも其の主權を失ひアセンスは同盟諸市間の葛藤を裁判するの權を有したるのみならず又た各市の大審院たる地位を有するに至れり。此の結果を生じたる由來は二樣ありき。第一同盟諸市間の爭議は元來デロス同盟會議の管轄權に屬したりしが該同盟の會計本部アセンスに移轉し

其の同盟會議廢絶して遂にアセンスの裁判權に歸したり。第二主權國が屬邦の最高等裁判權を有するは古來希臘人の法律思想に基きたる習慣にしてアセンスの殖民地に對する關係の如き特に然りとす。同盟諸市が漸次アセンスの被保護者となるに從ひ條約若くは其他の手段によりて重大なる訴件はアセンスに於て終結裁判を爲し、同盟諸市は單に下級裁判所たるの位置を保存したり。重罪及び其他一切公法に關する訴件は悉くアセンスの管轄に屬し、私法上の訴件と雖もアセンス人が一方の對手たる時はアセンス市民の裁判に附せられたり。是れ或は同盟諸市の利益となりたる點なきにしも非ざりしも概して屬邦の人民が主權國に拘束せらるゝ服從の表號たるに過ぎざりき。加ふるに同盟諸市がアセンスに送附すべき負擔費はペリクリースの時には三割を增加せり、而して波斯との戰爭は益々衰へたり。アリスタイデス及びカイモンの時には其の全額四百六十タレントに過ぎざりしが今やペルシャとの戰爭は止み、同盟保護の爲に用ひらるゝ戰艦は六十隻の艦隊のみなりしに同盟の負擔額は增加して六百タレント（十四万六千二百五十）に及びアセンス全歳入の半以上に達したり、而してアセンスに於ける他の歳入は僅かに四百タレントに過ぎざりき。此の外同盟諸市の人民はアセンスの海陸武官及び彼等の間に移住したるアセンス人等より種々なる壓制及び不法の要請を忍受せざる可からざりしことは是皆な同盟諸市がアセンスに對する不平の原因となりたり。若しアセンス人民にして其の同盟諸市を屬邦となさず其の人民を奴隷視することなく羅馬人が後年採用したる方法によりて漸次之にアセンスの市民權を賦與し勉めて其の征服したる人民を同化するの政策を行ひたらんにはアセンスは全希臘の爲に地中海の主權を掌握し、羅馬の歴史は或は共和時代の第一世紀にて終りしやも未だ知る可からず。然かも羅馬人の如き政治的大能力はアセンス人否な希臘人種の天才に非ざりしなり。

加ふるにペリクリースは其の帝國主義の結果としてアセンス市民の間には貴族の權勢を一掃し市民をして平等に帝國の主權者たる資格及び實力を有せしめんことを欲したり。故に彼はアセンス市民の間に政權を平等ならしむるのみならず、其の政權を實行せしむるに必要なる方便を平等に享有せしめ、且つ社會上の娛樂及び知識上の利益に於ても貧富の別なく之を平等に享有せしめんことを企圖

したり。國庫よりして觀劇料を貧市民に分配したるはペリクリース及び其黨與がカイモン及び貴族黨をして其の富により恩惠を人民に施すの道を杜絶し以て其の勢力を減殺せんとする最初の手段たりしなり。元來此の觀劇料はペッコス祠の祭節に分配せられたるを最初とし、漸次他の諸祭節にも貧市民に配當し、斯る祝祭の節には彼等をして自から平常よりも優れる飲食を爲すの餘裕を有せしめ、而して彼の常に飲食を公衆に供して以て民心を收攬したるカイモンの如き貴族の恩惠に依頼するの必要なからしめたり。古來官職は國家に對する公共的義務にして無給なるは希臘普通の制度にして兵役の如きも亦た義務名譽の職に外ならざりき。然るに波斯戰爭以來市民の兵役頻繁となり、爲に其の費用を市民に自辨せしめ、以て國家は無報酬的に之を市民に强要すること能はざる事情となりたり。何となればアセンスはスパルタに於けるが如き國有の農奴（ヘロット）を有せざりしが故に、戰爭中市民の土地を耕耘する者を缺きたり。是を以てペリクリースの時には兵士に報酬を與ふるの制を用ひたり。又たアセンスが同盟諸市の大審院となりし以來市民の陪審官たるの義務（以上三三頁參照）甚だ繁忙にして祭日若くは議會の日を除き日々其用務あらざるはなく全市民の四分の一は各所に集會して之に從事し、全市恰かも大法廷たるの觀を呈したり。故に紀元前四百六十年アレオパゴス元老院の權力を殺ぎたる後間もなく陪審官に俸給を賦與するの制を採用したり。最後に議會の開會も甚だ頻繁にして一年四十回の通常會あり、又た此外に臨時會屢々召集せられ、市民は悉く之に出席するの義務ありしのみならず、直接民主政治の利害は富者の階級のみならず、貧市民の出席を必要としたり。是に於てか有給の制は議會の出席者にも及び政府を代表して議會に演說する辯士に及び其他古來無給制なりし種々の官職に及びたり。之が爲めに貧市民と雖とも議會に參與するの實力、內治外交上の政治的知識、法律及び裁判上の知識及び經驗を得有し、概して市民は一般に交治者たり又治者たるを得るの理想を實現せんとするに至りたるは實にペリクリース時代の光榮なりと言はざる可からず。然れども此の中自ら弊害の陰伏するありて存したるは猶ほ後年羅馬の歷史に於て政治家が市民に穀物の自由分配を施行したると稍同樣の結果を生じ、アセンス市民をして勞働を輕視し勤儉の德を賤しみ惰怠の俗に習ひ、漸次アセンス民政の基礎たる道德及び

強力を失はしむるに至れり。

第七章　ペロポンニーソス戰爭（紀前四三一至紀前四〇四）

戰爭の原因

ペリクリース存在の晩年アセンスとスパルタ及び其の同盟との間に久しく蟠屈したる猜疑嫉惡の結果遂に二十七年間の大戰爭破裂したり。スパルタの同盟は多くペロポンニーソス半島の諸國なりしが故に之をペロポンニーソス戰爭と稱す。アセンスが平和年間の盛大は避く可からざる此の戰爭の種子を蒔きたり。一方には、デロス同盟は變じてアセンス帝國の屬領たる地位に堕ち、動もすれば獨立せんとするの不平諸市あり而して他方には即ち彼のアセンスの盛大を惡めるスパルタ及びペロポンニーソスの同盟諸國あり、特にコリンスは貿易を以て立國の基礎となし海軍及び殖民地の必要ありて最も他の競爭者を嫌忌したり。マラソン戰役以前コリンス人はアセンスの良友たりき。是れアセンスが未だ海軍國に非ずして其の能くスパルタの專横に屈せざりしが爲にコリンス人はアセンスによりてスパルタの强力を掣肘せんと欲したるによれり。又アセンスが海軍の强力を有したるエーギーナ島と確執ありしが爲に之を利用してコリンスの競爭者たる該島人を壓倒せんと欲したるによれり。然るにセミストクリースの建策により數年の中にアセンスが希臘第一の海軍國となりしよりコリンスのアセンスに對する態度一變してコリンス人の眼中アセンスは最も危險なる敵國となり、セミストクリースは最も惡むべき人物と見られたり。是を以てコリンス人はサラミスの役に極力アセンスを捨てゝ南方に退かんとを主張し戰後アセンスが戰前よりも偉大なる城壁を築かんとするや又た極力其建設を中止せんとを勉めたり。セミストクリースの奇計によりて策畧一も圖に中らずアセンスは益〻旺盛に赴き、デロス同盟成立してコリンスはエヂアン海上の權力を失し其の小亞細亞との貿易を遮斷せられ、剩さへ其殖民地たりしポチディヤもアセンス人の手に落ちたり。而して第三メッセニヤ戰爭後アセンスがメッセニヤの逃亡者を庇護してナウパクトスに定住せしめ、以てアセンスの海軍根據地と爲したりし以來コリンス灣中に於てすらもアセンス人の爲に其の利益を侵害せらるゝに至れり。三十年和約の成立後といへどもコリンス人は常にアセンスの擧動に注目して陰に陽に之に反對の分子を集合し以てアセンスの海軍同盟に當らんとを計

盡したり。

ペリクリースは夙に戰爭の避く可からざることを看破し『我れ戰爭のペロポンニーンスより降下し來るを豫見す』と言へり。彼れが平和の年間の政策は一に此の戰爭の來らざる前に其の事業を大成せんと欲し、成るべく其の時期を延ばし、且つ能く之が爲に準備を整へんとするに在りたり。ペリクリースはアセンスの財政權を握りし以來年々十タレントの金額をスパルタに於ける主戰黨の氣焰を鎭靜する爲に消費したりと云ふ。是の如くして彼は開戰の時期を遲くし、且つ自から其の開戰期を決するの權を掌握せんことを欲したり。

戰爭の近因となりたるは第一、コリンスと其の殖民地コルカイラとの戰爭第二にはマセドニヤの海岸に於けるポチディヤがアセンス同盟より分離せん。としたる事件にして是より殆んど全希臘の大戰爭を惹起したり。蓋し此のペロポンニーンス戰爭には波斯戰爭に於けるよりも數多の希臘列國關係を有し、彼の波斯戰爭には超然として袖手傍觀したる諸國も或はアセンスの同盟に加入し、或はスパルタの味方に左袒したればなり。スパルタは寡頭政治にして列國に於ける貴族黨の

首領となり、アセンスは民主政體にして諸市に於ける民主黨の眞友となりたるが故に此の戰爭は全希臘に於ける貴族及び人民の生存競爭となり往々同一市府の中に在りて兩黨相鬪き、貴族等はスパルタの爲に人民はアセンスの爲に相戰ふに至れり。

コリンスとコルカイラとの開戰　コリンスは古來數多の殖民地を有したり（以上二二八頁參照）。其の多くは母市の主權を承認したりしが北部希臘の西海岸に沿ふたるコルカイラ島はひとり其の例外にして王政時代に反し又た僭主ペリアンデル治世の後に反し久しく母市に對する一切の義務を拋擲し、アセンスに亞ぐ海軍國として軍艦百二十隻を有し、威を希臘の西海に振ひたり。ペリアンデルの治世中コルカイラは本陸イリヽヤに殖民してエピダムノスといふ市府を起したり。此市も亦貿易によりて繁昌を極め、最初其の政治は全く貴族の手中に存したり。然るに年を經るに隨て周圍のイリヽヤ人と爭鬪を生じ全市民の協同一致を要することとなり、貴族も多少市民に讓歩して權力を分つに至れり。然れども其の結果滿足ならずして市民謀反し、貴族は悉く市外に放逐せられたり。是に於て貴

族等はイリヽヤ人と相通し、其の援助によりてエピダムノスを恢復せんと欲したり。エピダムノスの市民は事急なるを以て先づ援を其の母市たるコルカイラに求めたり。然るにコルカイラに於ける貴族等は人口の繁殖市民の勢力によりて其の政權を失はんことを恐れ、エピダムノスの革命を非とし、其の請求を容るゝことを拒絶したり。エピダムノスの市民はデルファイの神託を得てコルカイラの母市たるコリンスに救援を請求したり。コリンスは平素アイオニヤ海に於ける覇權を復興せんことを欲したりしが故に此の機會に乘ぜんことを決し、直に援兵をエピダムノスに送りたり。コルカイラの人民大に之を怒り戰艦四十隻を以てエピダムノスを包圍したり。コリンスは即ち開戰の宣言を爲し、戰艦七十隻を遣りたり。然るにコルカイラは悉く其の戰艦を擧げ之をアクチオムに邀へ擊ちて全勝を得たり。同日にエピダムノスを陷れてアイオニヤ海の全權は其の獨占に歸したり。是れ實に紀元前四百三十五年の事なりき。

アセンスの干渉　コリンスは深く此の戰敗を辱とし、二ヶ年間大に準備を爲して戰艦九十隻を整へ、又た同盟の間に周旋して合計百五十隻の艦隊を出すこ

とを得るに至れり。是より先きコルカイラ人は中立してアセンス同盟にも加はらず、又たスパルタ同盟にも屬せざりしが此の形勢を見て到底中立の不可なるを知れり。然るにコリンスは固よりスパルタ同盟中の重要なるものなりしが故にコルカイラは勢ひアセンス同盟に援を求むるの外なかりしなり。故にコルカイラは使をアセンスに遣はして同盟を求め說くにコルカイラの海軍の强大なるが故に之を同盟に加ふるときは如何にアセンスが其の勢力を增加す可きかを以てしたり。同時にコリンスも反對の使節をアセンスに遣はして三十年和約の條件に訴へ又た先きにサモス島がアセンスに謀反したる際コリンスの主張によりペロポンニーソス同盟がサモスを救援せざりし恩惠を記憶せんことを既かしめたり。アセンスの市民會議は遂にペリクリースの意見によりて其の政策を一決し、コルカイラと攻守同盟を避け單に防禦同盟を結ぶの方針を取りたり。蓋しアセンス人はスパルタ同盟との戰爭遂に避く可からざるを豫想し、若し今コルカイラの請求を拒絶せば他日悔ゆとも及ばざるの危難に接せんことを察し、且つコリンスが大に海軍を擴張してコルカイラを滅せば其勢或はアセンスに匹敵して陸軍

の強盛なる半島同盟は容易にアセンス同盟の上に出るに至らんことを恐れたり。然かも公然三十年の休戰條約を破るを欲せざりしが故に中間の方針を取りて攻守同盟を避け單にコリンス人がコルカイラの領土を侵すに至らばコルカイラ人を保護せんことを約したり。

紀元前四百三十二年コリンスの戰艦百五十隻コルカイラの瀬戸に進入し、コルカイラの戰艦百十隻及び最初は傍觀者たりしアセンスの戰艦十隻と戰ふて之に勝ち將にコルカイラに上陸せんとするに當りてアセンスの戰艦二十隻更に到着したりしかばコリンスの艦隊は恐れて攻擊を中止し、一先づ凱旋してコリンスに歸航したり。コリンスは既に全勝の點に達してアセンス艦隊の爲に遮ぎられ益〻アセンスを惡みたり。

ポチディヤの謀叛　此時に際してコリンスがアセンスに復讐を爲すの好機會希臘の東海岸に現はれたり。マセドニヤの東方、スレースの本陸より海中に突出したる三個の半島ありて其の最も西なるをパレヂ半島と稱し、其の半島と本陸との地峽にポチディヤといふ一市ありたり。元來コリンスの殖民地なりしが故にアセンスの海軍同盟に加入し乍ら常にコリンスとの關係を維持し、年々コリンスより名譽官吏を迎へて市政の長たらしめたり。コルカイラの事變以來此の兩屬の關係によりポチディヤは甚だ不利益なる地位に立ちたり。加ふるに隣邦のマセドニヤ王ペルディカスはアセンス人が其の謀反したる二弟を容れて之れと結托したるを怒り大にアセンスの利益を害せんことを欲し、コリンスと協同したり。

アセンスとコリンスとの間既に戰を交へたるのみならず、加ふるにマセドニヤ王の煽動によりポチディヤは遂に公然アセンスに向つて叛旗を擧げたり（紀元前四三二）。是に於てコリンスは一將を遣りてポチディヤを守らしめ、其兵二千に達したり。アセンスも亦た直に四十隻の船に兵二千を搭載してポチディヤを攻め、海陸より之を包圍したり。是に於て戰爭は同時に希臘東西の兩海岸に開始せられたり。

スパルタの同盟會議　然るに是時に至るまで三十年の休戰條約は名義上猶ほ依然として存し、コリンスとアセンスとの交戰は單に二國間に限るが如く見へたりしかばコリンス人及び其の與國は大にスパルタを刺激して此の戰爭を半島同盟全躰の戰爭と爲さんことを勉めたり。スパルタ遂に公然宣言を發して

同盟會議を開き、凡そアセンスに對して不平なる諸國に其の訴件を提出せしめたり。エーギーナの島民は竊かに他人を介してアセンスが條約に反し其の獨立を許容せざることを告訴し、又たメガラ人はアセンスが封港の布告を爲してアッチカの諸港よりメガラの船舶を拒絶し、其の貿易を破壞したることを告訴したり。最後にコリンスは區々たる訴件に重きを置くことなく、大局より形勢を觀察してアセンス人の活動を稱揚し、スパルタ人の遲鈍を諷刺し大に其の將來に飛躍せんことを勸告したり。曰く『アセンス人は決斷に於ても實行に於ても共に迅速にして自然に改新者たり、卿等は單に其の得たる所を保守せんことをのみ思考し、積極的必要以下の事を行ふに過ぎず、彼等は大膽にして其の實力以外に逸出し、其の判斷力よりも多くの事を敢て爲し、絶望的災難の中に在りても尙ほ希望を失ふことなし、卿等は尙ほ其の爲し能ふことをも爲すことなく、自己の結論をも疑ひ而して困難の中に在ては全く絶望者たり、彼等は決して逡巡することなく、卿等は決して前進することなし彼等は國外に從事することを愛し、卿等は國內に繫縛せらるゝものゝ如し、彼等は新運動の發生する毎に新利益を得べしと信じ、卿等は新に一歩を轉ずる毎に其の既に有する所を失ふの危險ありと想へり』と。斯くコリンスの使節はスパルタに向つて大氣焰を吐き『卿等スパルタ人にして遲疑逡巡の政策を固守せば、是れ卿等は與國を保護すると能はずして同盟を瓦解せしめ吾人をして止むことを得ず、他の聯合を求めしむるものなり』と結論したり。

當時アセンスの使節も亦た用務を帶びてスパルタに在りしがコリンス使節の演說終るや直ちに起て之に一言を答へんことを請求したり。彼の使節は能くペリクリースの主義政策に通曉したりと見へ左の如くアセンスの位置を陳辯したり。曰く『權力若し不適任の手に落ちたらんには忿怒嫉惡の念を挑發せんこと正當の事ならん、然れども吾人は波斯戰爭に率先したる勇氣によりて正直に吾人の位置を得有したり、而してスパルタが隨意に引退したるが故に、吾人は海上の主任權を握りたり、吾人の名譽及び吾人の安全は兩つながら其の主任權を維持せんことを要す、同時に小國に對して常に快からざる方便を使用することなしに之を維持せんこと難し、然れども吾人は此の聯合を指揮せんが爲に吾人の市府をして現在の如くならしめたるに、或る邦國が苦痛を感ずればとて誰か吾人に向つて純然たる

好意により之を聯合より脱去せしむ可しと要求することを得んや之を爲すは是れ自己を抛棄するに等しきなり、波斯人の支配下に在りて無制限なる專制力に放任せられたるとき諸市は不平を言はざりき、アセンス人に對しては平等の權を主張せんとするが故に之を喜ばざるのみ、吾人の自制は彼等之を認識することを拒否し覇權制の場合に於て避く可からざる自治權の損失に向つて不平を鳴らせり而して卿等若し海上の主權を保持したらんには卿等の位置も正しく是れなりしならん云々』と。斯くて外人等は悉く退去を命ぜられスパルタ人のみの會議となりて和戰の問題は討議せられたり。是時スパルタの人心大に激昂し當局者(五人の執政官)は既にコリンス黨なりしが平和黨の人々は殆んど自説を主張する能はずして僅かに速斷の不利を警告し、豫め談判の必要あると準備の十分ならざることを既きたり。老王アルキダモスは平和説の代表者にしてスパルタ從來の政策を保守し、終極の測るべからざる戰端を開くの危險を陳述したりしも執政官の一人ステチレイダスは單簡なる激昂の演説を爲して速かに開戰す可きこと此の義戰に於て猶豫す可からざることを主張したり、而して通常表決の方法に加へ、市民を二個に分立せしめて和戰の決を表せしめたり。スパルタの議會は通例喚呼を以て表決を爲したりしが是時執政官は分立表決法を行ひて更に開戰の決議を判然たらしめたり。

此の決議を公けにする前にスパルタ人はデルフアイの神託を請ふて成功の疑なきことを明かにし、次にスパルタに於て再ひ同盟の大會議を開きたり。是より先きコリンスは使者を内地に派遣して市より市に到らしめ、アセンスの强盛は内地諸市の爲にも不利益にして今回の戰爭は沿海諸市の利害のみに非ざることを説かしめたりしが此の第二の會議に於ても最も盡力して開戰の議決に達せしめんことを勉めたり。スパルタ及びコリンスの協同によりて同盟會議の多數は開戰の議を決し、全半島の與國をして其の政策に從ふの義務を負はしめたり。是れ實に四百三十二年の終若くは次年の始なりしならんと云ふ。

スパルタの要求　スパルタに於ける第二同盟會議の結果ペロポンニーソスの全半島は戰備に汲々として大小の市邑悉く陣營となり牧者も農夫も召集せられて演習に從へり。而してコリンス人はポチディヤの圍急なるを以て極力一般

に戰備を速成せしめんことを勉めたり。盟主たるスパルタは同盟會議に於て開戰一決の後直ちにアセンスに使節を派遣して談判を開始したり。是れスパルタが平和の爲に意を用ふるが爲に非ずして開戰の口實を得んが爲め又た戰備の爲に時間を要したるが故なり。先づ第一の要求はペリクリースに對する攻擊にして百八十年前に於けるメガクリースの虐殺事件以來（以上三一頁參照）アセンスには今に不敬罪の存するあれば速かに之を一洗すべきことを要求したり。是れペリクリースはメガクリースの子孫なりしが故に、大にアセンス人民の宗教的迷信を煽動し以てペリクリースの反對黨を挑發せしめんとの策なりき。アセンス人民固より此の不道理なる要求を聽許すべきに非ず、何となれば此不敬罪はソロンの計により一時メガクリースの同族を國外に追放し且つクリート島の聖人エピメニデースを招きて全市を潔めたることあればなり。之に反してスパルタはパウセニアスの謀反に際して其の黨與の神殿に匿れたるものを虐殺し又たパウセニアスを殿して神殿の中に餓死せしめ（以上四三頁參照）同樣の不敬罪を犯したり而してスパルタは未だ曾て其の不敬罪を潔めたることあらざりき。故にアセンス人はスパルタ先づ自己の不敬罪を潔む可しと答へて其の要求を排斥したり。スパルタは更に使節をアセンスに遣して第二の要求を提出したり。今回の要求は前回よりも實際的要求にしてポチディヤの圍を解き、エーギーナに獨立を許し、又たメガラに通商の自由を與へよと要求し、特に第三の條件に重きを置き、アセンス若し此點に於て讓歩せんには或は交戰の禍を避ることを得べしと通告したり。是れ又たペリクリースの政策に對する一打擊に外ならざりき、而してアセンス人民は斷然その要求を拒絶したり。蓋しメガラはアッチカと境土を接し、通商上アセンスの恩惠により生活し乍らコリンスに助力して大にアセンスに害を加へたればなり。終にスパルタは第三の使者を遣はし最後の條件としてアセンスが其の同盟諸市に獨立を與へんことを要求したり。アセンス市民は平和の價値を知り深く戰爭の害あることを感じたり。且つペリクリースの反對者等は國難と共に彼れの勢力の增長すべきを知り、皆な平和の贊成者なりき。故に市民の意見區々に分れ、平和黨は少なくともメガラに對する封港の布告を取り消し此條件に基きて平和の談判を開き戰爭の害惡を避けんことを希望したり。是に於てペリクリースは其の獨得

の能辯と威儼とを以て市民に告げて曰く「吾人一點に於て讓歩したりと假定せよ、同樣不正にして然かも一層嚴重なる要求は來る可し、而して吾人は遂に吾人の權利を放棄するに至る可し、何が故に吾人は服從せざる可からざるか、恐怖によるか、若くは弱勢によるか吾人の財貨、吾人の海軍、吾人の堅壁を有するは是れ將た何の爲ぞや……スパルタ人若し其の境土及び港灣の閉鎖を廢止せば吾人も亦たメガラ人を國内に入るゝことを甘諾す可し、又た三十年和約の當時獨立なりし我が與國に限りては其の獨立を恢復せしむることを承諾せん、但し此の場合に於てはペロポンニーソスの諸國も亦たスパルタに行はるゝ主義に適從することを強要せらるゝことあるべからず、吾人の答は則ち是の如くならしめよ、吾人は戰爭を開くを希はず、然れども何人にても吾人を攻擊する者あらば吾人は彼れを反擊せんと欲す、蓋し吾人を指導する主義は他ある可からず即ち吾人の祖先が偉大ならしめたる其の國家の權力を滅殺せしむることなくして之を子孫に傳へんとすることと是れなり」と。何人も此の聰明にして間然す可からざる演說に對し一語を發する者なく市民會議は殆んとペリクリース演說の趣旨と同一なる最終の答を與ふることを議決し、遂にスパルタとの談判を停止したり。

兩同盟の强弱　スパルタの同盟はアルゴス及びアケイヤを除きてペロポンニーソスの全部を包含し、又たコリンス地峽以北に於てはメガラ、ビオシヤ、フオーキス、東ロクリス、の一部、アムブレキヤ、リユーケデヤ、及びアナクトリヤの諸人民を味方とし、主力は步兵に在りしがビオシヤ、フオーキス及ひロクリスは精英なる騎兵を備へたり。コリンス及び其他の諸市中船舶を有せしものありと雖ども概してスパルタ同盟の弱點は海軍の缺乏に存したり。然れども伊太利及びシヽリーに於けるドリアン諸市の助力により三橈戰艦五百隻を聚め得へしと希望し、方止むを得ざるときは波斯王に聲援を求め、フイニシヤの海軍を味方にせんことをも思考したり。

アセンスの同盟は多く島嶼に在りて獨立を有したるはキオス、レスボス、コルカイラ、ザキンソスの諸島及び陸上にてはセ、サリー、アカルナニヤ、ナウパクトスのメッセニヤ人及びプラテーエーを包含し、これに加ふるにスレース及び小亞細亞の海岸に於ける諸市及ひエヂアン海中の諸島はアセンスの屬邦として其の主權に服從

したり。直に運用せらるゝを得べき戰艦三百隻、騎兵一千二百、弓兵一千六百、歩兵二万九千を有し、國庫には過大なる剩餘金を貯蓄して不時の需要に備へたり。然れども其の弱點は陸軍の缺乏と同盟及び其の所屬諸市の不平とに存したり。蓋しスパルタ同盟は海軍及ひ財政上の缺乏ありたるも、ペロポンニーソスの半島のみにても歩兵六万を出陣せしむることを得たり、而してスパルタは同盟諸市より稅を徵收せざりしが故に、同盟一致して内部の不平存せざりき。之に反してアセンスの同盟は多く其の自由を奪はれたるを恨み何時にても機會あらば獨立せんことを欲し、概してスパルタは希臘諸市の自由の保護者と思惟せられアセンスは其の反對者と見做されたり。故に希臘全部に於てスパルタの勝利を希望するもの多數なりき。

ペリクリースの戰略

スパルタは陸上に於て强勢に、アセンスは海上に於て優勢なりしが故に、ペリクリースはアセンス人に說き、陸上に於てスパルタと戰ふを避け、却て海軍を以てペロポンニーソスの諸處を攻擊するの策を立てたり。スパルタ若しアッチカを襲はゝペリクリースは其の住民をして悉くアセンス城内に遁れしめ、城外の土地は敵兵の蹂躙に放任せんことを期したり。何となれば彼はアッチカの全土敵軍の爲に蹂躙せらるゝも、三重の長壁アセンスと軍港との連絡を保つ以上、エヂアン海はアセンスの領有にして海上には恐るべき敵の艦隊なく、アセンス人の糧食は自由にユーピーヤ及ひ黑海の地方より輸入するとを得べく、而してスパルタ同盟には資力なく、戰稅は各戰役毎に徵收せらるゝに過ぎずして久しきに堪ゆ可からざることを察したればなり。ペロポンニーソスの人民は土地を耕作し、家畜を飼養し、自から勞働を事として奴隸少なく、公私ともに富を有せざりしが故に遠征及び久しきに彌るの戰爭に從事するの方便を缺きたり。邊境の戰爭若くは一回の陸戰には敢て當る可き敵なかりしと雖ども、アセンスの如き海上に勢力を有する强國を攻擊して成功を奏すべき將才、訓練及び資力を有せざりき。ペリクリースは開戰前の演說に於て能く兩同盟の優劣及び勝敗の大勢を揣摩したる後、左の如く述べたり。曰く、卿等の土地を彼等は、殘暴することを得べし、然れども卿等は土地を必要となすものに非ず、否な土地は却て卿等の完全なる保安の爲に妨害となるのみなり、而して若し我が勸告に從はゝ卿等自から卿

等の田野を破壞し、以て卿等が田土の爲に自由を犧牲に供するを欲せざるの意を表す可し、土地家屋の損失を悲しむこと勿れ、卿等は人の爲に悲歎す可し、家屋及び土地は人を得るものに非ずして人は即ち是等を得るものなればなり云々と。而してペリクリースはアセンスが成功を得べき數多の理由の根本として戰爭に際し新に版圖を擴張することを企圖し、猥りに自から責任を負ふて新なる危險を加へざらんことを勸告したり。蓋し「余が恐るゝ所は多く敵の計略に非ずして自己の過失に在り」とは彼が當初よりの聰明なる忠告なりしなり。アセンス人若し終始ペリクリースの建策に從ひしならばスパルタの爲に万々敗亡を取るに至るが如きことなかりしならん。

戰爭の開始（紀元前四三一）

兩同盟何れも未だ開戰の宣告を爲さず猶ほ躊躇しつゝありしが戰端はスパルタよりせず、又たアセンスよりせず、意外の邊よりして開始せられたり。ビオシヤの首府シーブスは十個の市府を聯合して其の盟主たりしが更に權力を擴張して之を全ビオシヤに及ぼさんことを欲したり。然るにプラーテーユーは元來ビオシヤ人なりしも此の同盟に加はることを欲せずして久しくアセンスの同盟となり、民主政體の下に支配せられたり（以上三四頁參照）。プラテーユーの土地はシーブスと半島同盟の土地との中間にありて二者を隔絕せしめ、且つ波斯戰爭以來列國の條約によりて聖領たることを承認せられたり（以上四一六頁參照）。故にシーブスはプラテーユーを惡むこと甚だしく而してプラテーユーにも少數の貴族黨ありて竊かにシーブス人と相通じ、政府を顚覆せんことを希望したり。紀元前四百三十一年の春祭日の夜に乘じて三百のシーブス人はプラテーユーの城門外に迫り、貴族黨の內應によりて直ちに城內に入ることを得たり。彼等は更にシーブスより大兵の來るを待ちてプラテーユー市民を屈服せしめんと欲したりしに、翌朝プラテーユー人は侵入したる敵兵の案外に寡小なるを發見し、直ちに起て之と應戰したり。シーブスの後軍は降雨の爲に遲延し、プラテーユーに到着せし時前軍三百は已に或は殺戮せられ或は捕虜となりて計略は全く失敗に屬したり。是に於てアセンスはアッチカにあるビオシヤ人を捕縛するの令を發し、プラテーユーにはアセンスの守兵を置き、而して婦人小兒等凡て防戰に從ふ能はざるものをアセンスに移轉せしめたり。此の一事によりてアセンス人は益々戰意を決して

ペリクリースの建策に從ひ使者を其の同盟及び服屬諸市に遣はしたり。又たオシヤの變報スパルタに達するやスパルタも亦た使者を其の同盟諸國に遣はして其の動かし得べき兵員三分の二をコリンスの地峽に召集したり。スパルタ王アルキデモスは同盟軍の總大將として之を指揮したりしが彼は猶ほ開戰を躊躇し、心竊かにアセンス人の讓歩して平和の維持せられんことを希望したり。彼は最後の談判を爲さしめんが爲に使者をアセンスに遣はしたり。アセンスの市民會議はペリクリースの發意により最早や使者を送迎せざるべきを決議し、彼の使者を市内に入れずして之をアッチカの境外に護送したり。使者は「此日は希臘人に對して數多の禍難の始なる可し」と歎息して護送者と相別れたり。プルータルクの說によれば是時スパルタ同盟の軍は總勢六萬ありしと云ひ、又た他の說には十萬に達したりと言へり。

スパルタ王アルキデモスは平和の希望を懷きて地峽に時日を遷延し、アセンスに對して悔悪の念に滿ちたる大軍を抑制し、遲々として急に進まざりしが、最後の使者空しく歸るに及び、迂廻してアッチカに入り、數日邊境の砦を攻めて其功なく、遂にペリクリースに向つて進發したり。彼は猶ほアセンス人が讓歩して平和の使者到來せんことを待望したり。

是時に當りペリクリースはアッチカの州民に命じて悉くアセンスの城壁内に群居せしめたり。アッチカ全州の人民は其の家族及び動産を提げて難を城中に避け、其の家畜をユーピーヤ及び其の附近の島に送附したり。されば アセンスは四十年前のサラミス島と同じくアッチカ人民の避難所となり、其の多くはアセンス及びパイレイユース間の空處及び市中各神社の周圍に住居したり。但だ波斯戰爭以後人民の住居を禁じ專らアセチー及び其他の諸神を崇拜する爲に社殿を建設したる牙城(アクロポリス)と此外猶ほ俗用に供す可らざる一ケ處とを除きたり。スパルタ同盟の軍は行く行く沿道の沃野を殘暴し、漸やく迫りてアセンスを去ること七哩の高處に陣し、周圍を破壞し始めたり。是れ蓋しアセンス城内の人民を挑發して城外に出戰せしめ、一擊して之を破らんとの計畫なりしなり。アセンス人民は城中より此光景を望見して憤激に堪へず或は市街の各所に相聚りて突出進擊の策を講じ、或はペリクリースを非難して怯人となし反人となすありてペリクリースの一身は

内外に強敵を受けて其公共生涯中の最も困難なる時期に際會したりしがペリクリースは衆人囂々の中に在りて其毀譽褒貶を顧みず、斷乎として人民の動搖を許さず、且つ此場合に臨みて市民會議を開かんとするの意見を排斥し、飽くまで持重して人民の輕舉突出を制止したり。但だ僅かに騎兵を出して敵軍の侵掠を牽制し以て成るべくアセンス附近の土地を保護せしめたり。

一方に於てペリクリースは平素の持論の如くアッチカの地を敵の殘暴するに放任し以て其の消極的戰略を實行し、他方に於てはペロポンニーソスに向つて艦隊を遣り復讐的進擊を爲し以て積極的に敵國を襲ふの策を用ひたり。此の目的の爲に三橈戰艦百隻、コルカイラの戰艦五十隻及び其他同盟の戰艦を以て艦隊を組織し、ペロポンニーソスの半島を廻航し、處々に兵士を上陸せしめて攻擊を爲さしめたり。此の艦隊はカルキノス、プロテアス、及びソクレテースを將として半島の西に廻航し、ユリス州の沿岸を襲ひて其の豐沃なる土地を殘害し、北進してアカルナニヤの海岸に於けるコリンス人の領地二ケ處を略取し、ケフアレニヤの島民は隨意に服從してアセンスの同盟に加入したり。同時にクレオポムポス戰艦三十隻を以てユーピーヤ海峽を北進し、ロークリスの海岸を掠め、二個の邑を略取し、又た海軍停泊所を無人島に設けてユーピーア島を掩護せしめたり。エーギーナ島は其の形勝の位置にあるとアセンス人に深仇あるとの理由により全島の人民を驅逐して悉く其の土地を略し、アセンス人を移住せしめてアセンス服屬の殖民地と爲したり。

アセンス艦隊のパイレーユース港を出でゝペロポンニーソス半島を攻擊せんとするや、スパルタ王アルキデモスはアッチカの領内を去りて其の同盟軍を解放したり。同盟軍は四五週間アッチカの土地を殘暴し其の生果を食盡して蝗蟲の飛散したるが如くアッチカを退去したり。蓋しアセンス海軍の爲に半島進擊せられて其の鄉里の防備なき狀態を思考したる結果なる可し。此の虚に乘じてペリクリースは歩兵一萬三千人に將として メガラを襲ひ其の土地を殘害し以てアセンスに報きスパルタの保護に依頼したる行爲を懲罰したり。スパルタは五年の間毎年アッチカを襲擊し、而してアセンス人は戰爭中年々メガラに向つて同樣の政策を施行したり。

アセンス人は戰爭の永久なる可きを察し、千タレントの豫備金を貯蓄して以て海上よりアセンスが敵に攻擊せらるゝ場合の外之を支出す可からざらしめ、苟も何人にても之を他の目的に使用せんことを發議するときは死刑に處すべしと決議したり。而して同樣の目的に從ひ年々最良の戰艦百隻を完全に武裝して備へ置く可きことを決定したり。

疫病の激發　紀元前四百三十年スパルタ王アルキデモスは同盟軍に將として再びアッチカに侵入したり。同時にアセンス人は外敵よりも更に恐るべき內敵の爲に襲はれたり。群集したる市民の間に恐ろしき疫病激發したり。此の激烈なる疫病は元來東方に發して漸やく希臘伊太利の諸處に傳染し殊にアッチカの人民は悉く首府及び軍港間に於ける重壁の中に群居したりしが故に、疫病流行の爲に最も恐るべき機會を與へたり。疫病は腸室扶斯の類なりしが、當時新奇の病痘なりしが故に、醫者も其術を施すに由なく、患者は快癒の望なくして悲歎に沈み、傳染の恐怖は社會を擧げて自衛のみに汲々たらしめ、最近親族及び朋友故舊の病苦をも顧みず、死後その神聖なる葬式をも放擲して營まざるに至れり、而して全人口の四分の一は此の疫病の爲に減殺せられたりと云ふ。

アセンス人は內外の警敵に侵されて煩悶に堪へず、遂にペリクリースを以て此國難の發頭人となし、彼を攻擊して以て其の絕望落膽且つ怨怒の感情を泄らさんとしたりしがペリクリースは猶ほ斷乎として開戰以來の計策を固守したり。スパルタ人は襲ひ來りてアッチカに在るに拘はらず、疫病は既に發生して其の猛勢をアセンス市中に逞うしつゝあるに拘はらず、彼は孜々として敵國攻擊の計を運らし自から艦隊を率ゐてペロポンニーンスの處々を攻掠したり。是れ則ち民心を外に轉じ且つ過多の人口を減じて病勢を薄からしむるの目的なりしなり。彼れの歸來するや敵兵は疫病を恐れて既にアッチカを退去したりと雖ども、ペリクリースの不在中反對黨漸やく其の勢力を增長し、流石のペリクリースも最早や昔日の如く自由に民心を指導する能はざるとを發見したり。彼の命令に反して人民の集會は開かれ剩さへ其の決議によりてスパルタに和を請ふべき使者派遣せられたり。使者は斥けられて要領を得ざりしかばアセンス市民は益々望を失ひ、民心愈々激昂するに至れり。ペリクリースは市民會議を開きて自己の政策を辯護し、遂

に多數を制して其の意見を採用せしむることを得たれども政敵クレオンは此の機に乘じ官金使用の罪を以てペリクリースを彈劾しペリクリースは遂に裁判の結果重き罰金を課せられ、且つ將軍に撰擧せらるゝの資格を剝奪せられ、全く一私人の位置に墮されたり。疫病は猶ほ其の勢力を逞うしてペリクリースは幾多の親友及び政友を失ひたるのみならず遂に其の二子をも奪ひ去らるゝに至れり。其の最も愛したる少女の喪に臨みては流石のペリクリースも公衆の前に於て涕泣するを禁ずる能はざりき。アセンス市民は斯の内外公私の不幸に接したるペリクリースに對して其の同情を加ふるに至れり。且つ彼に代りて政權を握りたる新將軍等は何の方針もなく何の計策もなく優柔不斷にして事に堪へざりしかばペリクリースの指導を缺きたるアセンス市民は恰かも慈母を失ひたる孤兒の如く、民心再びペリクリースに歸復して彼は遂に又た總大將に擧げられて大權を委任せられたり。

ペリクリースの晩年

是時に當りスパルタ同盟はアセンスを倒さんが爲に波斯の援助を請はんと欲して使者を波斯に遣はしたり。使者等は途上スレースに於ける一地方の王にしてアセンスの同盟に加入したるシタルケースを脱きアセンス同盟より分離せしめんと欲したりしがアセンス人は既にシタルケースの子サドコスを市民となしたるが故にスパルタの使者等がヘレスポントを渡らんとせしとき彼をして之を捕獲せしめ遂にアセンス人の手に送致せしめたり。是より先きスパルタ人が捕虜に對する處置慘虐を極めたりしと一は此の使節派遣の擧を以て希臘に對する反逆なりとして怨怒したりしが爲にアセンス人は直ちに之をアセンスに於て死に處したり。之が爲に平和の望は全く絶へて市民又たペリクリースの政策を勵行し、アセンス同盟を脱せんとしたるポチディヤも二年間籠城勇戰の後糧盡きて死體を食ふに至り安全退去の約を立てゝ遂に投降したり。而してポチディヤ及び其の領土にはアセンスの市民千人を移住せしめて全く之を占領し了りたり（紀元前四二九）。

開戰後第三年の春アッチカは戰爭と疫病とによりて荒廢し、スパルタ同盟も之が爲にアッチカを攻めずして專らプラテーエーを攻めたり。アセンスの艦隊は一方には猶ほスレース地方を征服し又た希臘の西部に於て半島の同盟と激戰したり。

アセンスの將フォルミオは僅に二十隻の戰艦を以て一回は敵艦四十七隻を破り、一回は敵艦七十隻と苦戰して之を破り、海軍の優勢によりてコリンス灣は益々アセンス人の威力に風靡せられたり（紀元前四二九）。

ペリクリースは政權を恢復したりしも東西の戰爭には親しく從事せざりしのみならず、其の健康昔日の如くならずしてアセンスの戰略或はペリクリースの政策に反するの徵候を現はしたり。疫病は依然として流行し、ペリクリースの家庭及び其の黨與を襲ひたる後遂に彼の身躰をも侵したり。紀元前四百二十九年の秋彼が同胞市民中の最も善良なる人々に圍繞せられて將さに死せんとするや衆皆ペリクリースの死を惜み、其の死後を愛ひ、且つ其の功業を稱贊して止まざりしが彼は忽然身を起して左右に謂て曰く『卿等が余に於て稱贊せられたるものは半は僥倖の結果にして固より余が他の諸將と共にする所なり、余が專ら自ら誇る所のものは卿等が注意せざる所にして即ち一のアセンス人も余が爲に喪服を着けしことなき一事是なり』と。蓋し彼が自から最も貴重したる所のものは彼が智力の大にあらず、彼が辯說の妙にあらず、又た彼が大將としての成功にあらずして其の克己節制、謹度、愼慮にありしことを見る可し。ペリクリースは實に能くアセンスを知り又た能く己を知れるものと言はざる可からず。彼はソロン、クレイスセニース、セミストクリース、及びアリスタイデスの遺業を承けて能く之を保全し、且つ之を完備せしめ、其の名聲を一代に附して後世に傳稱せらるゝもの亦た謂れなきに非ざるなり。史家ツキデディス曰く、

彼れが平和に於て國家の首位に立ちたる全時間中彼は節度を以て之を治め其の安全を監視したり。彼れの下に於て國家は偉大の最高度に昇進したり。戰爭の破裂したる後、彼は其の廣大に就て眞正なる理會を有したることと見はれたり。彼れの死後戰爭に關する彼れの先見は更に明白に認識せられたり。

此の戰爭中疫病の激發及び其の結果たるペリクリースの死亡ほどアセンスの不幸となりたる事件はあらざりき。アセンスが外部に對する關係は一時異なる所なかりしも此の疫病の結果として社會の內部は全く其趣きを一變したり。市民中の精英は死亡し古來の訓練及慣例を保存したる貴族多く消滅し、アリスタイデス及びカイモンの時代との活ける連鎖は、切斷せられたり。疫病は戰爭をして成

功に終局せしむることを得べき唯一の政治家ペリクリースを奪ひ併せて其の發成したる壯年政治家をも奪ひ去りたり。是より後アセンスはペリクリースの如く貴族にして能く民心を收攬し、且つ能く之を指導して正當の目的及び政策に服從せしむる經世家を失ひ、クレオンの如く卑賤より起りて佞辯を弄し、狠りに民心に迎合し若くは之を煽動し以て自家の功名利欲を成さんとする浮浪政治家の指導に任かせざる可からざるに至りしこそ遺憾なれ。

戰爭の殘虐　此の戰爭中兩同盟は雙方極端なる復讎的行爲に出て敵國の捕虜及び人民を殘酷に待遇するを以て其の政策と爲したり。戰爭の第四年（紀元前四二八）スパルタ同盟は又たアッチカを侵擊したり。同時にレスボス島はアセンスに向つて叛旗を翻へしたり。エヂアン海上レスボス及びキオスの二島は唯りアセンス同盟中にありて獨立自由を保有したりしが今やレスボスの首府ミチリーニーは自餘の諸島と同じく其獨立を失はんことを恐れ、且つアセンスの專横を厭ひ遂にスパルタと欵を通じ、スパルタ同盟に加入を許可せられ且つ助力の約束を得るに至れり。アセンス人は海陸よりミチリーニーを圍み、スパルタ同盟は開戰後第五年（紀元前四二七）の春戰艦四十二隻を發して之を救はんとし、同時にアッチカに向つて第四回の侵擊を爲したり。然るにスパルタの提督怯懦にして途中に逡巡し、艦隊の救援及ばずしてミチリーニーは遂にアセンスの軍に降りたり。アセンスの市民會議はクレオンの發議によりてミチリーニーの市民六千人を死に處し、其の婦女子及び小兒を奴隸として賣却す可き殘酷の決議を爲し直に其の決議をミチリーニーにあるアセンスの將に傳へたり。然れども翌朝に至りてアセンス人は之を悔ひ法律に反して第二回の會議を開き、前決議を取消したれどもアセンスにありし捕虜千人以上は猶ほ死刑に處せられ、爲めにミチリーニーの貴族皆消滅し、アセンスに忠實なりし一市府の外全島の土地は悉くアセンス人の間に分配せられたり。スパルタ同盟はミチリーニーの救援に失敗したりしかどもプラテーエーの攻圍に於ては同年に全く其の功を奏したり。是れ兩同盟が海陸に於て各々優劣ありし結果なり。プラテーエーはアセンスの最も忠實なる同盟にして戰爭の第三年（紀元前四二九）よりスパルタ同盟軍の爲に圍まれ、僅かにプラテーエー人四百及びアセンス人八十を以て之を固守したり。アセンスの救援到らずして糧食漸く盡きんと

するに及び、一部分は圍を破りてアセンスに遁れ、其餘は猶ほ固守して降らざりしが孤軍饑餓に迫りて戰鬪力を失し、遂にスパルタ同盟軍に降りて悉く死刑に處せられ其の婦女子は奴隸とせられ、而して市府及び其の領土は遂に破壞せられて牧野と爲されたり（以上四一〇頁參照）。

同時にコルカイラの島に於ても非常の虐殺施行せられたり。此島はペロポンニーソス戰爭の近因となりし處にしてコリンス人は開戰の當初より該島の貴族二百五十人を捕虜となし之れを厚遇して漸次アセンスを厭ひ、ペロポンニーソス同盟に附かしめんことを企圖したり。コリンス人は彼の貴族等が其の恩惠に感じ遂に心服したるを見て之を該島に放還し、自餘の貴族を誘引し、該島の民主政体を顚覆せしめたり。該島はアセンス同盟に加入したる結果により政權は人民に歸して貴族等不平を懷きし折なりしが故に、彼等は民黨の首領等を殺し人民會議に於て將來局外中立を守る可き決議を通過せしめ、遂に勢力によりて全く民黨を壓倒せんと欲し、主要なる港灣並に其の武庫及び市場を占領したり。然るに民黨はロルカイラ市内の高處及び其の牙城に據りて之に對抗し内地の奴隸多く之に加擔せしかば民黨優勢となりし上にアセンスの艦隊來りて之に應援し民黨は七日の間貴族等を虐殺し殘暴を極めたり。神聖なる社殿も最早や逃逃者を救ふに由なく、父子兄弟相殺し、最近親屬の關係も政治的憎惡の爲に犧牲として顧みられざるに至れり。貴族等の中五百人免かれて市外の丘上に立て籠りしが後人民はアセンスの援を得て之を圍み、遂にアセンスに於て裁判に附するの條件を以て之を降服せしめ、而して其約に反して直ちに之を虐殺したり。ペロポンニーソス戰爭の結果によりて希臘人は其の宗教的信仰及び道德的情操を破壞するに至れり。當時の戰爭に參與したるツキデディスは左の如く記載せり。

此の戰爭により全ヘルラスは動搖したり。蓋し民黨と貴族との紛爭は四方に行はれたれば、前者はアセンス人を誘引し、後者はラキディモン人を誘引せんとを欲したり。諸市は騷擾の爲に震動し、而して騷擾夙く起らざりし處に於ては他處に於けるよりも更に過激なる行動を爲さんとを企圖したり。言語の意義さへも變化せられたり。狂暴は無私の勇と稱せられ、才智に出る遲延は怯懦と稱せられ何人にても過激なれば信用の價値ある者とせられ、何人にても之

に反對する者は嫌疑せられたり。狡猾なる者は智と稱せられ愈々狡猾なる者は更に多く智と稱せられたり。畧言すれば不正義に於て人に先んずる者及び曾て犯罪の思想なき者を敎唆して犯罪に至らしむる者は稱揚せられたり。

戰爭の進行　戰爭の第六年紀元前四二六は洪水地震諸方に起り、且つ疫病は再びアセンスに其の猛勢を現はしたり。之が爲に此年はスパルタの襲來も中止せられたりしが第七年に至りてスパルタ王アギスは軍を率ひてアッチカに侵入したり。然れども十五日の後アセンス人がメッセニヤ州のパイロスを占領したりとの報に接して歸國したり。此時兩同盟の激烈なる競爭は其影響を希臘人の殖民地なるシヽリー島にも波及せしめ、ドリヤン族の諸市はシラキユースを首としてペロポンニーソスの同盟に加入し、アイオニヤン族の諸市に向つて開戰を宣告したり。紀元前四百二十七年レオンチニ市は使者を遣はして援助をアセンスに乞ひたりしかばアセンスは二十隻の艦隊を派して應援に赴かしめ且つ全シヽリー征服の成否如何を視察せしめたり。紀元前四百二十五年戰艦四十隻をシヽリーに遣りしが途中に於てアセンスの將デモスセニースはメッセニヤの港パイロスの要地なるとを發見し、之に城塞を築きて以てペロポンニーソス半島に侵入するの門口となしたり。スパルタは大に驚き直に同盟の艦隊及びアッチカ進擊の軍をして之を襲はしめたり。艦隊の將スラシメリダスはパイロス港口の小島スファクテリヤに幾分の兵を上陸せしめて之を占領したりしがアセンスより大艦隊到來してスパルタの艦隊は打破られ、島中の兵は進退谷まりて又た如何とも爲す能はざりき。此兵はスパルタの精英にして其中には最も高貴なるスパルタ人も少からざりしが故に、スパルタ政府は和をアセンスに請ふの止む可からざるに至れり。アセンスに於ては平和を爲す可き最好の機會なりしに無謀なる民黨の首領クレオンは不當の要求を提出して談判を拒絕し自から將となりて戰地に赴き僥倖にして島中のスパルタ兵二百九十二人を捕虜となし、二十日を出でずしてアセンスに歸りたり。從來スパルタ人は敵に降るよりも寧ろ奮鬪して死する者と信用せられたりしに今や生存して捕虜となりしかば其の名聲を損したること大なりき。而してアセンス人は一方にはパイロス港を以て半島に侵入するの根據地となし、又たスパルタの捕虜を以て質となし、スパルタ同盟軍をしてアッチカに侵入することを

得ざらしめたり。

紀元前四百二十四年アセンスの將ニキアスはレコニヤ州の南端にあるシデーラ（原音キテラ）島を征服し、進んでレコニヤの沿岸を荒掠したり。アセンス人は其の成功に乘じて氣益々傲り、ペリクリースの政策に反して三十年休戰條約以前の位置を恢復せざれば止まざるの計畫を爲し、一方はメガラに向ひ、他方はビオシヤに向つて進擊の軍を派遣したり。前者は較々その目的を達したりしも、後者はデリオンの戰敗によりて全く失敗に屬したり。此役哲學者ソクラテス歩兵の中にありて勇を顯はし、其門人アルキビアデスは騎にて其の退去を掩護したり。此後スレース地方に於けるアセンスの覇權も亦た頗覆せられたり。蓋しスパルタはマセドニヤ王ペルデイカス及びカルキディケー半島に於てアセンスに不平なりし諸市の請求に應じて名將ブラシダスを遣りしかばスレース地方に於けるアセンスの同盟或は離叛し或は征服せられ、アセンスの殖民地アムフイポリスも亦たブラシダスの爲に陷れられたり。

（キ）アスの和約（紀元前四二一）　デリオンの一敗以來アセンス人は失望してブラシダスの前進を防ぐことを爲さず、漸やく和を講ぜんとするに至り、戰爭の第九年（紀元前四二三）遂にスパルタと一年間の休戰を約したりしも、スレースに於ては其の約直ちに破れて戰爭は依然繼續し紀元前四百二十二年アセンスに於ける主戰黨の首領クレオン兵に將としてスレースに赴き、アムフイポリスを圍み、ブラシダスの計略に陷りて敗死したり。然れども此役ブラシダスも重傷を被りて死したりしが故にアセンス及びスパルタに於て主戰黨の首領同時に戰沒し、和議の爲に道を開くに至れり。ブラシダスは名將にして功名の爲に戰爭を愛し、クレオンは政客にして自己の權勢を振はんが爲に戰爭を好みたり。是に於てアセンスの溫和黨ニキアス及びスパルタ王ペレイストアナクス平和談判を進行せしめ、遂に紀元前四百二十一年の春五十年間の平和條約を締結したり。古來之を稱してニキアスの平和と言へり。其平和は開戰前の狀態を以て基礎となし、戰爭中侵略したる土地及び捕虜を互に返還するの條件なりき。然れどもシーブスはプラテーエーの落城を以て隨意的降服となして之を保持し、アセンスも亦た同樣の理由によりて數ヶ所を保有することを得たり。ペロポンニーソス戰爭の第一期は之を以て終局

となし其の戰爭の期限凡そ十年餘なりしが故に、アセンス人は之を十年戰爭と稱し、而して、ペロポンニーソス半島の人は之をアッチカ戰爭と稱したり。

和約破綻の理由

ニキアスの和約はアセンスの成功にしてスパルタの失敗を意味したり。數年間半島同盟はアセンスを攻擊したれども其の攻擊の目的は遂に畫餅に屬し、アセンスは依然として其の位置を保持したり。スパルタはアセンスの壓制より列國を自由ならしめんとの宣言を爲して開戰し、列國協同利益の保護者を以て自から任じたれども、遂に其の約束の一をも履行する能はず、却て與國の利益を犧牲となし、捕虜となりたるスパルタ人を回收せんが爲にアセンスと和を講ずるに至れり。故にスパルタの與國は嫉妬猜疑の念を以てニキアスの和約を觀察し、就中シーブス、コリンス、エリス及びメガラは此の和約に抗議して之を承認することを肯んぜざりき。是を以てニキアス和約の結果はペロポンニーソス同盟の瓦解となりてスパルタは其の盟主たる資格を失し或は全く孤立の地位に陷らんとするの形勢となりたり。スパルタは此の形勢を見て大に愕き、ニキアス和約締結後未だ數週間を經ずしてアセンスと五十年間攻守同盟の約を結び反對者の攻擊に向つて相互救援の義務を負ふことゝ爲したり。此の攻守同盟はアセンス之を求めたるに非ずして全くスパルタ自衛の必要に出でたるものなりき。特にコリンスは古來スパルタに不平なりし半島の舊盟主アルゴスをしてスパルタに代らしめ以てスパルタ及びアセンスを除き全希臘を包含すべき新同盟を組織せんことを計畫し、エリス、マンチニヤ、及びカルキディケーの諸市之に加盟したり。蓋し與國如何に不平ありと雖ども若しアセンス及びスパルタにして十分協同の實意ありしならば與國の不平は無効に屬すべかりしなり。然れども兩强國の間何等の眞實なる一致なく、半歲の短日月さへも平和を維持すること能はざりき。スパルタは既に其の捕虜を回收したればスレースに於てアムフィポリスをアセンスに返附することを爲さゝりしかば、アセンスも亦たパイロス港を撤去することを肯んぜざりき。スパルタとアセンスとの間には第三國と特別條約を締結せざるの盟約存したるに、スパルタは其約に反してシーブス同盟を約定したり。是に於てアセンスも亦たスパルタに對して約を守るの義務なきを宣言してスパルタの使者を排斥するに至れり。

アルキビアデス　紀元前四百二十年の秋スパルタに於ては執政の更迭あり て主戦黨は平和黨に代りたり。又たアセンス人はスパルタの擧動によりて漸次ニキアスの平和政策を厭ひ、青年政治家アルキビアデス（俗アルシバイアデス）大に民心を收攬したり。彼れはペリクリースの甥にして幼時其の父を失ひペリクリース後見の下に置かれたり。青年にして家富み、好男子にして才多く傲慢不遜にして自信力厚く功名心大に、素行修らずして道徳の制裁を蔑視したり。彼はペリクリースの後見に附せられたれども遂に彼れの薫陶を受ることなく、彼はソクラテスの門人として大に師の愛顧を被り、彼も亦たソクラテスに對しては敬愛の念禁ずる能はざりしかども遂に其の感化によりて品性を改むること能はざりき。ペリクリースの死後青年貴族等は多く民主政治に反對の傾向を生じたり。されば アルキビアデスも亦た民政の反對者として頭角を顯はし、スパルタの良友として其の捕虜を厚遇し、又た大に平和談判に周旋して其の外交的手腕を振はんと欲したりしに、スパルタ政府は彼が年少なるを侮りて其の好意を拒絶し、却てニキアスを以て信ず可しと爲したり。是より彼は直にスパルタの反對黨に加擔し、全力を擧げてスパルタの利益を害せんことを欲したり。クレオンの死後其の首領を失ひたる主戦黨は彼を歡迎し、多數人民は多年クレオンの政策を贊成したるが如く又た彼の政策に非ずして攻擊的政策を用ひ、以て自から功名利達の盛運を開かんことを期したり。彼はアセンスをしてアルゴスと同盟を約せしめんことを企圖し、アルゴス同盟をして使者をアセンスに遣らしめたり。スパルタも亦た三人の使節を派して此の談判を妨げ且つ再びパイロス回收の交渉を試みたり。アセンス人はスパルタより使節を受けて頗る滿足の傾向ありしかばアルキビアデスはスパルタ人の成功せんことを恐れて一の詭計を施したり。スパルタの使節中に彼の知人ありしかば彼は之に向つて竊かにスパルタの爲に計るに使節等が談判の全權を有せざることをアセンス人に告白するの得策なる可きことを勸告したり。然らずんばアセンス人は種々なる要求を提出して使節等大に困難せん、而して使節等若し彼の勸告を採用せば彼れ亦内より大に周旋する所あらんと約したり。翌日スパルタの使節等は彼の術中に陷りたるを知らずしてアセンスの市民會議に臨み、

前日五百人會議に於ては全權を有する使節なりと宣言し乍ら前言に反して實は全權を有するに非ざることを告白したり。前日の言を聽きたるアセンス人は今日の言を聽きて殆んど自己の耳を信ずる能はざる程に喫驚し、異口同音スパルタ人の反覆常なきことを怨怒したり。アルキビアデスは此機に乘じて大にスパルタ人の背信を攻擊し直にアルゴスの使節を召喚して之と同盟を約定す可きことを發議したり。此の發議は地震の爲に停會したるが故に直ちに採用せられずしてニキアスは自からスパルタに往き、再應の談判を試みたりしかども彼れの談判無効なりしを以て、アルキビアデスはアセンス人をして百年間アルゴス、エリス、マンチニアと同盟の約束を爲さしむることを得たり。アルキビアデスの爲す所概ね是の如く自己の目的を遂せんが爲には方便の善惡を擇まず、我が功名の爲には背信不德の言動を爲して顧みざりき。

戰爭の再發　是の如くアセンスは半島の三國と提携して四國同盟を組織しアルキビアデスは其首領となりてアセンスの運命を掌中に支配したり。スパルタとの平和條約は公然破棄せられざりしも戰爭は實際紀元前四百十九年の夏に於て再發したり。アルキビアデスは四國同盟軍の將として戰場に臨み半島戰爭は全く開始せられたり。彼の目的は半島の中心たるアルケデヤに侵入してアルゴスとの聯絡を通じ、以てスパルタを孤立せしめ、又た一方にはコリンスに向つて打擊を加へんとするに在りたり。スパルタも今は斷乎として之に應ぜざる可からざることを發見し、紀元前第四百十八年大軍を催してアルゴスを攻め、之をして休戰を請はしむるに至れり。アセンスの決意未だ斷乎として平和條約を放棄するの勇なく半途政策を用ひて僅少の援軍を發し、且つアルキビアデスをして之を指揮せしめざりしが故に、其の成蹟十分ならざりき。然れどもアルキビアデスは使節の資格を以て半島の諸國間に迅速の運動を爲し、アルゴスをして再びスパルタとの休戰條約を破毀せしめ同盟軍をしてアルケデヤを襲擊せしめたり。是に於てスパルタ王アギス大軍を引率してアルケデヤに入りマンチニヤの戰（紀元前四一八）に於て反對同盟の軍を擊破し半島に於て再びスパルタの名聲を恢復したり。是の如くアセンス及スパルタは實際戰場に於て相接するに至りたれども、表面上直接には猶ほ平和を支持して更に七年の間相互の領土を侵すことなく、同盟に聲

援して間接に相攻むるの方略を採用したり。是の時に當りエヂアン海上アセンスに屬せざりしものはメロス島と其他の一島あるのみなりしがアセンスは極力メロス島人を慫慂して隨意アセンスに服從せしめんことを企圖したり。然るに該島人は悉くアセンス人の提議を拒絶したり。アセンスは海陸より其の首府を包圍し、七ヶ月にして之を陷れ、其成年男子を殺し、其婦女小兒を奴隸とし、全島にアセンス市民五百人を移住せしめたり。アセンスの亡狀此に至りて極點に達せりと言ふ可し。

シヽリー遠征の由來

希臘本部に於ける兩同盟の軋轢爭鬪伊太利のシヽリー島にも波及したりしことは既に述べたり。紀元前四百二十五年アセンスが四十隻の艦隊を派遣するやシヽリーの諸市は其の目的遂に全島を征服せんとするに在るを看破し大會をゲラに催して諸市間の不和を調停し一致して以てアセンスの侵略に備へんことを決議したりしかばアセンスの艦隊は該島に干渉するの理由消滅し、遠征は則ち失敗に屬したり。是時に當りアセンス人はペリクリースの政策を遺れて漸く遠征壯圖を希ふもの多く、失敗して歸來したる將校を罰し更に干渉の好機會到るを待ちたり。紀元前四百二十二年レオンチニ市に貴族と人民の爭ありて貴族はシラキユースの援援によりて民黨を驅逐し、民黨は則ち救助をアセンスに求めたり。當時アセンスはデリオンに於て戰敗し又たスレースに於て事急なりしが故に僅に戰艦二隻を遣りてシラキユースの勢力を牽制せんとしたれども遂に無効に屬したり。其後シヽリー島の西部に於てエゲスタとセリノスとの間に爭端を開き、セリノスはシラキユースの助力を得て頻りにエゲスタを攻擊したり。エゲスタはカルセーヂにも助力を請ひたれ共之を得ざりしかば遂にレオンチニの例に倣ひてアセンスの救援を求めたり。紀元前四百十六年其使節アセンスに到來し、爰にシヽリー大遠征の擧は決行せらるゝに至れり。エゲスタの使者はアセンス人の同情に訴へずして、其の利益に訴へたり。彼等はドリヤン種族若し該島に專ら勢力を占めてスパルタ同盟に加はらばアセンスに向つては如何に大打擊なる可きかを說き、而してアセンス若し救援の軍を遣らばエゲスタ人は之に必要なる軍費を支給せんことを約したり。當時アセンスに在りたるレオンチニ市の逃亡者も亦た共にアセンス

の救援せんことを請求したり。而して野心勃々たるアルキビアデスは最も此遠征を賛成したり。彼れは先づシヽリーを征服して以て伊太利及び亜弗利加を攻むるの根據となし、遂に伊太利人及びカルセードン人を征服し、以てペロポンニーソス半島以外に於ける全希臘人の勢力を轉じてスパルタを攻撃し、一舉して以て永久に之を撲滅し、アセンスをして唯一の強國たらしめんとの計略を運らしたり。彼れのシヽリー遠征は恰も後年ハンニバルが西班牙を略して以て羅馬を倒さんと爲したると同一の計畧にして若し此計略成功したりしならば世界は羅馬の天下とならずして或はアセンス大帝國の成立を見るに至り羅馬の歴史は共和時代の第一期を以て終局となりしやも亦未だ知る可からず。さればシヽリー遠征は疑もなくアルキビアデスの爲には赫々たる功名を博するの好機會たりしなり。然れども二キアスは外交上に於てペリクリースの遺策を守り、漫りに全希臘の爭亂を激發せしめざらんことを欲して遠征の輕舉に反對し、其の發議によりて先づ委員を派し果してエゲスタ人が其約を履行し得るや否やを視察せしめたり。怜悧なるエゲスタ人は視察委員を郷里の廣大なる神殿に誘ひ、粘金したる銀器の奉納物にして眞正の金器なりと信ぜられたるものを示し、私人の家々に於て委員を饗應し、家毎に架上銀皿重積して私家の富を驚歎せしめたり、而して其實は同一の什器を竊かに家より家に送り傳へたるものなりき。最後に銀六十タレントを與へて保證となしたりしかば委員等はアセンスに歸りて頻りにエゲスタの富を稱し、視察の結果は全く主戦黨の勝利に屬したり。

遠征の準備　是に於てアセンスの市民會議は遠征の大舉を決し、二キアス、アルキビアデス、ラマコスの三人を以て大將となし、第一、エゲスタを保護し、第二、レオンチニの民黨を恢復し、更にシヽリー島に於てアセンスの利益の爲に最も適當なる手段を施す可き全權を委任したり。二キアスは猶ほ力を極めて遠征に反對し、之を爲さんとするには戦艦百隻、運送船百隻、重裝兵五千、輕裝兵若干及び其他種々の準備を要することを開陳したりしが議會は却て悉く其の要求を聽許したり。されば二キアスの反對は唯だアセンス人をして非常なる準備を爲し以て大遠征に從事せしむるの結果を生じたり。アルキビアデスは此の遠征に於て單獨の總大將たらんことを期したれども彼の信用は遂に此の大任を受るに十分ならずし

て多數はニキアスを彼の同僚となし軍事に長じたるラマコスを第三の將となすの條件を以て此の大舉に贊成したり。アセンス人はニキアスの愼重なる思慮とアルキビアデスの大膽なる天才とを以て相牽制せしめ相補充せしめんことを期したり。ニキアスは貴族にして富み、忠實にして勇なりしも、往々思慮多くして逡巡し、又た當時の宗教的迷信に制せられたり。ラマコスは勇にして且つ經驗ある瓦將なりしも、貧にして聲望に乏しく、富を崇拜したるアセンス人は彼の意見に重きを置くものなかりき。一人の惡將は二人の瓦將に勝れりと言ひたるナポレオンの格言は往々議會政治に於て蔑視せらるゝこと古今其例に乏しからず。アセンス人も亦た其の一例にしてシゝリー遠征に三人の大將を委任したりしは戰機に必要なる命令一途に出るの條件を缺き、軍隊の進退を合議の結果に託して神速の運動を爲す能はざらしめ最初より遠征成功の上に一大障害を横へたりと謂ふ可し。

遠征の大舉は紀元前四百十五年四月十九日及び廿四日に於ける人民會議の結果によりて可決せられ、爾後三月の間アセンス人は準備に熱中し、市中も軍港も恰かも陣營の如く、貧富老少の別なく人民は爭ふて遠征に加ばらんことを希望したりしかば、將校の任務は單に之を撰拔するのみに過ぎざりき。去る五年間の比較的平和によりて人口及び資本增加し、アセンスの商人等は商業上の大舉としてシゝリー遠征を贊成したり。斯の如き一般民心の盲動に感染せざりし者は僅かに哲學者ソクラテス及び星學者メトンの二人なりしと云ふ。

遠征艦隊の進發

紀元前四百十五年七月の始め遠征艦隊百隻、其中四十隻は運輸船)はアセンスの步兵一千五百、水兵七百、若干の騎兵及び外兵七百餘を搭載して軍港パイレーユースを出發したり。然るに是より先きアセンスに於て一の不吉なる事件發生したり。アセンスの市街には其の保護神の一なるハーミースの像安置せられたり。遠征艦隊の將さに出發せんとする前(希、ヘルメース、能辯神及び商賈の保護神)々月一夜の中に以上の神像破毀せられて地上に投棄せられたり。之を見たる人民は大に愕き且つ國家の上に大なる危難の來らんことを怖れたり。是れアセンスの民政に對して不平なる黨派の存在を證し、而して嫌疑は宗教に冷淡なるアルキビアデースの上に存したり。アルキビアデースは公然人民會議に於て告訴せ

られたりしかば彼は其の告訴を辯駁し、而して人民が速かに之を審査せんことを請求したり。畢竟是れアルキビアデースに反對なる黨與の所爲にして彼等は其の不在中に彼を倒さんことを便なりとし、特に此の不敬事件の審査を爲さずして嫌疑の儘アルキビアデース及び他の二將をして遠征の途に就かしめたり。

是に於て遠征艦隊はコルカイラ島に回航し、同盟の艦隊と相合し、全艦隊は戰艦百三十四隻、運輸船五百隻、歩兵五千百人、弓手四百八十人、投石隊七百人、及びメガラの逃亡者百二十人を以て成立し、三隊に分れ三將各々之を指揮して伊太利に向ひ進行したり。南部伊太利の希臘諸市冷淡にして之を歡迎せず、僅かに飲料水及び糧食を供給するのみにして遠征軍に來投するものなかりき。

伊太利の南端にあるレギウムに於て遠征軍の三將は會議を開き、シヽリー遠征の方策を協議したり。既に偵察艦を先發してエゲスタの情況を視察せしめたるに其の富の實際は遠征軍出發以前の報告と異にして有効なる加勢は此の方面より望む可からざることを發見したればニキアスは成るべく遠征の區域を狹小にしてエゲスタ救援の目的のみに制限し、其の目的を達して速かに艦隊を率ゐて歸國せんとの意見を有したり。若し此策行はれなばアルキビアデースが功名利達の希望烏有に屬すべきを以て彼は先づシヽリーに於ける希臘諸市の中より成るべく多數の同盟を得而して其の應援によりシラキユース及セリノスを攻擊せんことを發議したり。ラマコスは良將だけに神速の戰略を用ひシラキユースが未だ防禦の準備を爲さゝるに先だちて急に之を攻め落さば其の結果忽ち全島を征服するを得べし、若し之に反して曠日彌久、何も爲す所なくんば敵は先づアセンスを冷遇し、遂には之を侮蔑するに至る可しと主張したり。ラマコスの意見は兵略上最も上策にして且つ終局の點より觀察すれば最も安全なる方法なりしかども彼は貧困にして勢力なく、其策は他の二將の反對によりて行はれざりき。アルキビアデースは其策の善きを知ると雖ども、速功はラマコスの名譽に歸して自己得意の外交術を施すに便ならず、故に彼はニキアスの怯懦心を利用して安全に且つ永久に成功を爲すの方法自己の意見に若くなきを論じ、ニキアスは自家の說行はれざる以上は兩極端に對する中間の計策として遠征アルキビアデースの說に同意したり。而して此策の成功は一にアルキビアデースの手腕を要したり。彼はナクソ

スに說きてアセンスの同盟となし、南進してシラキユースの港灣を偵察しカタナを畧して遠征艦隊の根據地となし、着々成功の方針に進みつゝありしに、意外なる本國政府の命令に接したり。反對黨の策略圖に中りてアルキビアデースは人民會議の決議により遽かに歸國す可き命令を受けたり。但し自己の戰艦に乘じて歸國することを許可せられたり。アルキビアデースは不敬罪の爲に裁判を受るは死地に入るに等しきを看破し、伊太利に達したるとき竊かに脫艦して逃走したり。アセンスに於ては缺席裁判を施行してアルキビアデースを死刑に處するの宣告を爲し、其の財產を沒收したり。アルキビアデースはペロポンニーソス半島に逃れて之を聞き叫んで曰く『我れ猶ほ生存することを彼等に知らしむ可し』と。

シラキユースの攻圍

遠征艦隊は三ヶ月を消費してナクソス及びカタナを得たるの外何の爲す所なく、シラキユース人は其の防備を整へ且つ使者をコリンス及びスパルタに遣はして救援を求めたり。時にアルキビアデースは我が復歸の目的を達せんと欲して身をスパルタに投じ、アセンスがシゝリー遠征の遠謀を發き、シラキユース人の請求に應じて一將をシゝリーに遣り又たアッチカ州に於ける要害の地デケレーアを占領して之に永久スパルタの兵を置きアセンスを攻めんことを勸告したり。スパルタ人は即ち其策を用ひてガイリッポスをシゝリーに遣らんことを決したり。

シラキユースはシゝリー島の東岸に位し、全島中最も强大なる市府にして前には海灣を横へ後には高地を控へたり。ニキアス優柔不斷にして徒らに時間を空過しシラキユース人既に其の防備を完成したれば、是れより後攻擊によりて之を陷るゝの望絕え、之を征服するの方法一に海陸より市民の糧道を斷つの外なきに至れり。紀元前四百十四年の春アセンス人は陸の方面に於て二重の圍壁を設け、陸上に於てシラキユースが他と交通するの道を塞がんと欲し、同時に海上よりは艦隊を以て之を包圍したり。圍壁の建設大に進行して殆んど完成に近づき一時シラキユースは到底落城の外なきまでに切迫したりしが不幸にしてラマコス戰死し、ニキアスは單獨にて遠征軍を指揮し、其壁未だ完成せざるに先ちてスパルタの將ガイリッポス援兵三千を以て到來し、ニキアスの油斷に乘じてシラキユース城內に入ることを得たり。是より形勢は全く一變したり。ガイリッポスはシラキ

ユース人を鼓舞して防戰を勵ましし、城後の高地に於てアセンスの兵を破り又た反對に牆壁を築きてアセンス人の圍壁を横斷したり。是よりシラキユースの攻圍は中絶し、アセンスの兵は其の建設したる圍壁を守り、其の戰艦は空しく灣内に横はりて修繕せられず其の漕手及び水兵は漸やく脱走し、最初は海上に於てアセンスの兵と戰ふの希望さへ有せざりしシラキユース人は今や港灣の中に於て船舶を武裝し、以て海戰の演習を爲すに至れり。ニキアスは書を本國に送りて援軍を要求し、且つ自から病に苦しむの故を以て本國に召還せられんことを請願したり。アセンス人はニキアスの任を解くことを許さず、副將二人を擧げて其の同僚となし、而して其の請求に從ひ援軍を遣ることを決したり。

紀元前四百十三年の春スパルタの將ガイリッポスはシラキユース人を勵まして海上にアセンス人と戰はしめたり。此時陸上に於てシラキユースは既に優勢を有したり。故に海上に於てアセンスの艦隊を一擊するときは勝敗遂に決す可きの形勢を現はしたり。第一戰にはアセンス人勝利を得たりしかども海戰中ガイリッポスの陸兵は海濱に於けるアセンス艦隊の本營及び其糧食を略取したり。

第二戰に於ては全たくアセンス艦隊の敗北に歸し、從來海上に於て向ふ所敵なしとの名譽を博したるアセンス人は一朝にして其の然らざる事實を證明せられたり。

遠征艦隊の全滅

アセンス人はニキアスの請求に應じて更に戰艦七十隻を整へ、歩兵五千を搭載せしめ、デモッセニースを將となしてシヽリーに向はしめたり。勇猛果敢のデモッセニースはガイリッポスが建設したる牆壁を破るに非ざれば、シラキユースを陷るゝの望なきを看破し、全力を盡くして其の目的を達せんとを勉めたり。前面より攻擊して失敗したりしかば夜間迂回して暗中にガイリッポスの軍を襲ひ最初は勝利を得たりしも暗黑の爲に其の軍亂れて同士討を爲し全軍敗北に歸したり。是等の不幸に加へて軍中に疾病發生し、遠征の目的殆んど成功の望なきに至りたり。慧眼なるデモッセニースは無謀の戰爭に從事せんよりは速かに艦隊を率ゐて國に歸り、寧ろアッチカに進入したるスパルタ人を驅逐するに如かずとの發議を爲したり。然れども ニキアスは遠征失敗の恥辱を負ふてアセンスに歸ることを恐れ其の議に從ふことを拒みたり。是に於てデモッセニース

はニキアスに説きて艦隊をシラキユースの大港より外に出し、糧食を得るの便と艦隊の運轉に差支なき廣濶の海面に接したる地に移さんことを勸めたれども決斷なきニキアスは此の建策さへも採用することを拒みたり。然れども敵軍には援兵大に加はりてニキアスはデモッセニースの意見を採用するの止むを得ざるに至り、遂に紀元前四百十三年八月二十八日を以て竊かにシラキユースを出發するの準備を爲し、幸に敵軍の覺る所とならざりしに、前夜月蝕ありて宗教心に厚きニキアスは占者の言を信じて一ケ月の延期を爲したり。是の間にシラキユース人はニキアスの眞意を發見し其の遁走に先ちて一大打擊を加へんとを決し、海陸よりアセンス軍の位置を攻擊したり。陸上に於てはアセンス人勝利を得たりしも、海上に於ては艦隊全く敗北を爲したりしかばシラキユース人は勝に乘じてアセンスの遠征軍を全滅せしめんことを欲したり。故に船を列ねてシラキユースの港口を塞ぎ、全くアセンスの艦隊を包圍したり。アセンスの艦隊は此の包圍を打破するに非ざれば危難を脱するの道なく、而して本國の運命も亦た此の艦隊の勝敗に關すること明白なりしかばニキアスは全軍に演説を爲して勇戰を勸告し一身の生死、一國の存亡實に此の一擧に在りと陳述したり。準備已に成りて戰爭は開始せられたり九月一日。シラキユースの全市民は海濱に群集し又たアセンスの陸兵も向岸よりして海戰を目擊し何れも鯨波を擧げて氣勢を添へたり。アセンスの戰艦凡そ百十隻、シラキユースの戰艦七十六隻而して各戰艦の人員は二百人に超えたり。アセンス人は絶望の勇を以て奮戰したりしかども遂にシラキユース人の爲に打破られ僅かに六十隻を存するのみとなれり。ニキアス及びデモッセニースは最後の一戰を試みんと欲したりしかどもアセンスの兵既に絶望して再び海戰を爲すの勇なく、二將の命を拒みたり。陸兵猶ほ四万ありしが既に海路を絶たれたれば陸上に於て活路を求むるの外なかりしなり。九月三日アセンスの全軍は戰艦及び死傷者を放棄し、丙地に向つて出發したりしが遂にシラキユースの兵及びガイリッポスの爲に追擊せられてアセンスの二將及び一万の兵悉く捕虜となりたり。二將は遂に自殺してシラキユース人の爲に死に處せらるゝの恥辱を脱したり。ニキアスは始より此の遠征に反對の意見を有しながらアセンス人の信任によりて止むを得ず、大責任を負ひたりしが彼れの優柔不斷と迷信に拘

泥したりし事とは此の大遠征をして失敗せしめたる所以なりき。彼れ若しアモッセニースの建策に從ひたらんには此の如き全軍覆沒の慘狀を見るには至らざりしならんを、惜い哉、アモッセニースは當時第一流の將軍なりしも、副將にして其の意見を實行するの權力を有せず、死後に至てアセンス人始めて二將の優劣を知りたりと云ふ。

アセンスの危急　アセンスはペリクリースの政策を放擲したる結果として今や危急存亡の地位に陷れり。シシリー遠征の失敗によりて戰艦二百隻以上、兵士六万ばかりを失ひたり。内にはアッチカ州の中央デケレーアにスパルタの城砦ありて四方を殘暴し、市民は其の粗食をユービーヤ島及び黑海の地方に仰ぎたり。外には從來中立したる諸國のスパルタに聽じ又た波斯帝國が其の報復を圖るあり、而して其の屬邦漸やく離叛して獨立せんとするの徵候を現はしたり。之に反してスパルタはニキアス條約によりて失墜したる聲望を恢復し、半島同盟歸順し、又た海外のドリアン人之に加入し、英邁なる王アギス及び智謀一世に冠たるアルキビアデースの在るあり、鈌く所のものは一に海軍に外ならざりき。紀元前四百十三年の冬アセンス同盟中の最も強大なるユービーヤ、キオス及びレスボスの三島はスパルタに救援を得てアセンスの覊絆を脱せんことを求めたり。アルキビアデースはスパルタ人に戰艦を設備し全アイオニヤを畧するの策を勸め、自からキオスに赴きて其の實行に着手したり。元來キオスは貴族政躰なりしがアセンスに忠實なるの故を以て其の政躰を保存することを許されたり。アイオニヤ諸市中最も强大なるキオス離叛したりしかば翌年（紀元前四一二）にはレスボス島及びミレトスも亦た相隨て離叛したり。而してアイオニヤに於けるスパルタの成功は遂に波斯をして同盟の約を結ばしむるに至れり。

故に之を倒さんとするには海軍を要し、而してアセンスの覇權は海上に存したり。故に之を倒さんとするには海軍を要し、而して海軍を設備するにはスパルタが有せざる所の資力を要したり。然るにスパルタ同盟には同盟の會計若くは徵稅なく、且スパルタ人は水兵たることを賤しみたり。是れスパルタが到底波斯の資力に頼らずしてアセンスを倒すこと能はざりし所以なり。是に於て小亞細亞南部の波斯總督チサフェルニースはスパルタがアイオニヤに遣りたる兵隊に賃銀を給與し、共にアセンスを攻擊せんことを約し、

而してスパルタは卑劣にも遂に小亞細亞の希臘諸市及び其の土地を波斯に讓與することを承諾したり。

サモス島もキオスと同じく貴族によりて支配せられたりしが人民は貴族がスパルタに應ぜんことを恐れ、其の二百人を殺し、四百人以上を放逐し、民政を建設したり。是に於てアセンスは直ちにサモスを自由同盟國となし、該島を以て其の艦隊の根據地となしたり。遂に進んでレスボスを恢復し、キオス人を破り、其の土地を暴掠し、又たミレトスに於てスパルタ同盟の軍を破りたり。然れどもシラキユース艦隊の爲に遂にミレトスを恢復すること能はざりき。

アルキビアデスの反覆　アルキビアデースはスパルタに降りたれども全くアセンスを亡滅せしむるは其の本意に非ず、但だ自己の勢力は以てアセンスの運命を左右することを得べしと信じたり。彼はスパルタに於て敵人を有したり。特に其王アギスは妻の故に彼を惡むこと甚しく遂に彼を死に處せんことを謀りたり。アルキビアデスは之れを知りて波斯の總督チサフエルニースに投じ波斯がスパルタと同盟してアセンスを滅さんとするは得策に非ず元來アセンスのみ波斯の敵に非ず、スパルタも亦た然り、アセンスは如何に強盛なりとするも其の權力は海上に存して波斯の深憂を爲すに足らず、スパルタは則ち然らず、元來陸軍國なり、若しアイオニヤを征服せば內地に於て波斯の大患たらん、故に波斯の爲に計るに餘りスパルタを强大ならしむるは其の利益に非ず、寧ろ兩國の競爭を利用して終局の勝算を得るに若かずと說きたり。是より總督はスパルタの兵に資金を給することを怠り、且つスパルタの勝利となさゝらしむる爲に交戰を避くるの方法を採用したり。

是に於てアルキビアデースはサモス島に於けるアセンス軍の諸將に通信し、若し彼に歸國を許さば、アセンスの爲に波斯の應援を得ること難きに非ず、然れどもアセンスに民政存する間は彼れの歸國を望むも得べからず故に若し波斯の助力を希はゝアセンスの政體を變更して貴族制と爲す可しと要求したり。

サモスの軍隊中には貴族制をアセンスに建設しスパルタと和せんことを希望したる數多の富者ありたり。富者は戰爭の爲に最も多くの負擔を爲したり。國庫は市民に報酬を與ふる制度の爲に窮乏し、而して民主政治はシゝリー遠征の失敗

によりて信用を失ひたり。故にサモス軍中の兵士は依然民主政体に忠實なりしも、將校中にはアルキビアデースの通信を歡迎し其の要請に應ぜんとする者多かりき。

アセンスの變動　是に於て諸將はパイサンデルをアセンスに遣はし市中に於て倶樂部を組織し、政体の變更に着手せしめたり。是等の倶樂部に於て民政顚覆の計畫成り、竊かに民政を固守せんとする市民を殺し暴力の結果により議會をして從前の憲法及び官吏を廢し新に四百人會議を組織し又た四百人會議の意見によりて市民五千人の會議を召集するを得べしとの決議を爲さしめたり。四百人議員等は固より五千人會議を召集するの意なく、更に數多の政敵を殺し、又た波斯と同盟の望みなかりしが故に遂にスパルタと和を媾せんことを計畫するに至れり。是の如く革命は外交上の關係によりて生じ、クレイスセニースが建設したる民政は殆んど百年にして遂に一旦廢滅に屬したり（紀元前四一一）。

隱謀はサモス軍隊中の有力者によりて企てられたれども兵士多くは舊憲法に忠實なりしのみならず、將校中にも同樣の意志を有する者ありて革命は却てサモス軍中に於て失敗の端を開きたり。サモスの軍はアセンスの變を聞て大に怒り、全軍誓つて民政を維持し戰爭を繼續し、又たアセンスに於ける僞政府を倒さんことを宣言し、兵士等は一時武人の資格を廢して人民會議を組織し、其の信任する所の人々を擧げて官吏となしたり。スラシブユロス及びスラシロスは擧げられて主將となり、前者はアルキビアデスの歸順を發言し頗ぶる反對者ありしに拘はらず、彼れが能く波斯の黃金と兵力とを以てアセンスを救濟することあらんとの希望にて動議は遂に可決せられたり。是に於てアルキビアデスは貴族黨との關係を放擲してサモスに來り、會議の前に於て甘言を振り時き、法外の豫約を爲し、自から將校の一人となり、サモスと本陸との間に往來して大に波斯とスパルタとの同盟を破らんことに盡力したり。彼れはアセンス人をして此の窮境に陷らしめたる大原因なりき。彼れの勸告によりてスパルタの將ガイリッポスはシヽリーに遣はされ、スパルタ王アギスはデケレーア城に兵を駐屯せしめ、又たキオスをしてアセンスより離叛せしめたり。憐む可し、サモスの軍隊は彼れによりて波斯の應援を得以て是等の損害を償ふことあらんと信じたり。

サモスに於て民政復活したりとの報アセンスに達するや四百人議員等の中に不和異論を生じたり。温和派は五千人會議を召集して多少人民に自由を與へんことを主張し、過激派は如何なる方法を以てするも其の權力を維持せんと欲しスパルタの兵を誘引せんことを計畫したり。スパルタ人は遂に戰艦を遣りて之れに應じ、ユーピーヤ島をアセンスより離叛せしめたり。是れアセンスの糧道を斷つものにして全市民を恐怖せしめたり。幸にしてスパルタの戰畧緩慢にして單に該島を維持するに止まり、直にアセンスに迫らざりしが爲に人民は此間に會議を開き、四百人會議を廢し舊憲法を恢復したり。但し最初議員は一定の財産を有する市民五千人に限りたりしが遂に一般市民を以て議員となすに至れり。但し貴族的革命の結果によりて公務に報酬を與ふるの制は廢止せられたりしが此の制は遂に復活せられざりき。四百人會議は四ヶ月間存在の後顚覆せられ其の首領の中二人は裁判の結果死刑に處せられ、餘は脱奔して欠席裁判に附せられ、其家屋は破毀せられ、其の財産は沒收せられたり。概してアセンス人民の擧動は他國の例に比して沈着なりき。

ペレスポントに於けるアセンスの勝利

スパルタ人は兵をアケレーア城に屯營せしめてアセンスは其の眼前に横はりしも攻城の術拙劣にして遂に之を陷るゝこと能はず、陸上より攻むるも成功なかりしが故に戰爭は專ら海上に行はれたり。スパルタ人は最初陸戰のみを事としたりしが今や海戰に習熟し、小亞細亞の海岸に於てアセンスの艦隊と勝敗を決せんと欲したり。シヽリー遠征の失敗以來アセンスの海軍は昔日の如く强盛ならず、而してスパルタ及び其の同盟の海軍力は殆んどアセンスに匹敵し其の艦隊はアセンスの艦隊よりも大なるを通例とし其の操船術と云ひ、海戰法と云ひ、アセンス人の熟練に比して劣る所なきに至れり。特にスパルタ人が海軍に重きを置きたるの結果はナアルコス（海軍提督）といふ新官職を設け、其の權力をしてスパルタ王の權力に勝さらしめたり。此の新官職は任期一年なりしと雖ども其の任期中は更にエフオルス（五人の執政官以上二五五頁）の牽制を受けざりき。

スパルタの海軍提督ミンダロスはアイオニヤの波斯總督チサフエルニースが屢々約に反して資給輕薄なりしかば西北部の波斯總督ファルナベーゾスと協力せん

が爲め艦隊をミレトスよりペレスポントに移動せしめたり。彼の戰略はファルナベーゾスの助力によりて該地方をアセンスより離叛せしめ、今やアセンスが唯一の糧道となせる黑海の咽喉たるボスフオロス及びヘレスポントを扼し以てアセンスの命脈を斷たんとするに在りたり。アセンスの提督スラシロスはサモス島より艦隊を率ゐて之を追蹤し、兩度ヘレスポントに於てスパルタ同盟艦隊を打破りて勝利を得たり（紀元前四一一）。翌年二月プロポンチス海のキヂコスを攻圍しつゝありたるスパルタの艦隊はアルキビアデスの計畧に陷りてアセンス艦隊の爲めに包圍せられ止むを得ず上陸して接戰し、スパルタ人全敗してミンダロスは戰死し、其の全艦隊を失ひたり。スパルタの副將ヒッポクラテスは本國政府に報告して曰く、『吾人の幸運は去れり、ミンダロスは殺され、兵卒は飢餓に迫れり、吾人は何を爲す可きかを知らず』と。是に於てスパルタ政府は執政の一人をアセンスに遣はして現狀維持の基礎により和約を締結せんことを請求したり。アセンス人民は最近の戰勝に心醉してスパルタの請求を拒絕し、遂に其の衰亡しつゝある勢力を挽回するの好機會を放棄したり。

然れども以上の戰勝によりてアセンス人は其の主要なる目的を遂したり。彼等は依然ボスフオロス海峽を占領し、黑海と貿易の通路再び開かれ、デケレーア城に據りたるスパルタ王アギスは黑海より糧食を運輸する船舶のパイレーユース港に入り來るを望見しアセンスが海上に權力を有する限りアッチカの地を占領するも無益なるとを看取したり。紀元前四百九年は著明なる事件なくして經過せしが次年にはアセンスの艦隊はカルケードンを陷れたり。又たアルキビアデスは同時にセリムブリヤを略し遂にビザンシアムを征服せしめたり。アルキビアデスは一度ひアセンスに歸順してよりアセンスは着々機先を制して勝利を博したりしかば紀元前四百八年の六月アルキビアデスは全艦隊をサモスに集中し、スレース地方を征服せしめんが爲に五十隻を派遣し其餘は滿艦飾を爲し捕虜及び戰利品を搭載し、又た捕獲船百十四隻を伴ふてパイレーユース港に凱旋したり。彼れは七年間國外に在りて再びアッチカの鄉に歸來することを得たるのみならず、滿都の士民は軍港に出でゝ之を歡迎し、護衛してアセンスに入り、市民會議は彼に無限の權力を委託して海陸軍の總督となしたり。蓋しアセンス人は全く彼れに心

服したるに非ず、シ、リー遠征の失敗アケレーア城の占領、キオス、ミレトスの離叛、貴族的革命の教唆等アセンスの命運に關する禍源皆な彼れの計畫より出てたりしこと固より一朝一夕にして忘らる可き事に非ざりしと雖ども、アセンス人は國難に處して彼れが才能の欠く可からざるを認識し、將來に功を立てゝ過去の罪を償はしめんことを期し而して彼れの敵人は一時緘默して時機を待ちたるものゝ如くなりき。

ライサンダー及びサイラス

波斯王ダライアス二世はアイオニヤ地方の總督チサフエルニースの政策優柔なるを非とし、更にアセンス人に向つて活潑なる攻擊的政策を行はしめんが爲め英邁果敢なる次子サイラス(希、キロス)を總督として小亞細亞に遣はしたり。彼れは國敵としてアセンス人を憎み、スパルタ人を親愛して先づアセンスに復讐し、次に自己の野心を成就するの器機に利用せんことを欲したり。同時にスパルタは名將ライサンダー(リサンドロス)を擧げて海軍提督と爲したり。彼れはスパルタ人なりしも圓轉滑脫の才を有し、且つアルキビアデスに似て功名心甚しく且つ其の目的を達せんとするには固より方便の善惡を顧みざりき。彼れはアルキビアデスの所爲を見て大目的を成就するに政略及び將才の必要なるを看破し、又彼れによりて波斯人を利用するの術を學び得たり。彼れはアルキビアデスの天才と豪放なる勇膽とを有せざりしと雖も思慮周密にして大早計に失することなく、伏線を張りて敵人を欺き、其の過失に乘ずるの機智に長けたり。彼れは獅子の皮にて目的を達せざるときは狐の皮を被る可しといふを以て生涯の格言と爲したり。彼れが海軍提督となるやスパルタには殆んど海軍なかりしが故に彼れは艦隊を創造するのみならず、又た之を支持するに必要なる資力をも設備するの任務を負擔したり。彼れは同盟諸國より船舶七十艘を集めて艦隊を編製し、アセンス人の勢力最も微弱なりしエフエソスを以て其の本據となしたり。是れ波斯と交通してスーサの寶庫より支給を得るに至便の地なりしなり。サイラスの總督としてサルデースに來るや彼れは直ちにサイラスに親接して深く其の信任を得たり。サイラスは彼に五百タレントを與へ、又た必要に應じて其の私財は投じ其の寶座に用ひたる金銀さへも貨幣に鑄造せんことを約したり。サイラスは彼れの爲に筵を設け祝杯を擧げて歡を盡くし、又た彼れの爲

に其の望む所の事を聞かんことを求めたり。ライサンダーは直ちに其の水兵の爲に日給一オボル(英貨一片半)を增加せんことを請願したり。サイラス其の無欲なるに感じ益々其の尊敬と信任とを加へたり。當時アセンスは其の水兵に三オボルを給與したりしが故に、スパルタは四オボルを與給し、以て敵艦をして多く其の潛手を失はしめたり。ライサンダーはエフエソスに歸りて其の艦隊を整備し、又た小亞細亞の諸市に於てスパルタに同情を有する貴族黨の倶樂部を組織したり。スパルタは遂に波斯の資給によりてアセンスの覇權を破亡せしむることを得たり。

アルキビアデスの罷免

紀元前四百七年九月アルキビアデスはアセンスを發してアイオニヤの小島アンドロスを攻め、意外なる抵抗に遭ひ次將コノンに二十隻を委して之を圍ましめ自から其餘を率ゐてサモス島に進航したり。是に於て彼は始めて波斯が大にアセンスに對する態度を一變したることを知りたり。彼れはライサンダーを誘引して戰を交へんとなしたれどもライサンダー應ぜざりき。彼は軍資に欠乏を感じ屬邦の一なるカイメー(キーメー)より徵收せんと欲し、反抗に遭ひて其の領地を掠め其の市民よりアセンスに告訴せられたり。而して彼は其の不在中サモスに於ける艦隊を部下の將アンチオコスに託し、決して戰ふこと勿れとの命令を授けたり。然るにアンチオコスは其の命に反して艦隊を出し、エフエソス灣のノチオムに於てライサンダーの爲に破られ戰艦十五隻を失ふて戰死したり。波斯とスパルタとの聯合によりてスパルタの艦隊にある兵員はアセンスの艦隊に於ける兵員よりも多額の日給を與へられたればアセンス艦隊の兵員漸次アルキビアデスを怨望する者多く、而して彼れの敵人は益々其の頭首を搖ぐるに至りたり。貴族黨は彼れを憎み民政黨は彼れを疑ひ、而して僧侶黨は彼れを不敬者として排斥したり。彼れ海陸軍の總大將となりて戰艦百隻、步兵一千五百人、騎兵百五十人を有し乍ら征戰の成功なきは彼れが能はざるに非ずして爲さゞるの結果なりとする者多く、小亞細亞よりの告訴、敗軍の報知交々至りてアルキビアデスは再び反逆者たるの嫌疑を蒙り、遂に其の兵權を剝奪せられ而して次將コノンは十將の首領に登用せられたり。

アルギニユセーの大海戰

コノンは忠實なる將校なりしかども固より

アルキビアデスに比肩す可くもあらず到底彼れの如く大艦隊を支持する能はずして戰艦を七十隻に減じ、スパルタの新提督カリクラチダスの爲にレスボス島のミチレー灣に於て打破られ戰艦三十隻を失ひ其餘は該地に於て海陸より包圍せられたり。敏活なるアセンス人は其の急報に接して大に慌き、三十日以内に戰艦百十隻を整へて之をサモミに遣はし、敗殘の船舶及び同盟の船舶と相合し總計百五十隻の艦隊レスボス島の南端にある小島嶼アルギニユセーに進航したり。スパルタの提督カリクレチダスは五十隻を遣してコノンを包圍せしめ自から百二十隻を以てアセンスの百五十隻を迎擊したり。激戰の後カリクラチダス戰死し、スパルタの艦隊は七十七隻を失ふて南方に退き、アセンス人は二十五隻を失ひたり。コノンは救はれて全艦隊と共にサモス島に赴きたり（紀元前四〇六）。此役は兩同盟戰爭史上の最も大なる海戰なりしが其の結果によりスパルタに於ては兩び現狀維持の條件により平和をアセンスに求めたり。アセンスはアイオニヤを恢復せずして其の艦隊を維持する能はざる可きを看取し、且つ平和はスパルタの利にしてアセンスの利にあらすと爲し、其の請求を拒絶したり。民政復活の成功によりてアセンスの勢力衰へざること實に驚くに堪へたるものありしを見る可し。是れ貴族黨の竊かに不幸とせし所にして此役の結果により一の不平なる事件を發生したり。即ち戰勝を爲したる將校等が艦隊中の難破船を棄棄し又た死体を葬らざりしとの告訴によりて無殘にも六將を死刑に處したる事是なり。ペリクリースの子も亦た六將の一人にして其餘と共に鴆毒の刑に處せられたり。陪審官の一人ソクラテス獨り毅然として之を抗議したりしも人心激昂して顧みざりしが市民後大に之を悔恨したり。

エーゴスポタモイの敗軍

紀元前四百五年ライサンダーはエフユソスに在りて再びスパルタ同盟の艦隊を指揮したり。海軍提督（ナヴアルコス）の地位は再任を許さざるの國法なりしが野心飽くことなきライサンダーはサイラス及び小亞細亞に於ける自己の黨與をして其再任をスパルタに請はしめ、遂に名義上副提督として實際艦隊を指揮するに至れり。然れどもアセンスの艦隊は猶ほ艦數に於てスパルタの艦隊よりも大なりしが故にライサンダーは勉めて接戰を避け、竊かにエヂアン海を渡りてアッチカの海岸に到りアゲレーアに屯駐したるスパルタの一王

アギスと接見したる後北進してアセンス艦隊の防禦せざりしヘレスポント海峡に入り、アベイドスを以て根據地と爲しラムゲサコスを包圍したり。アセンスの艦隊は此報を聞て直にペレスポントに進きしかどもラムプサコスは既に陷ちて救援及ばざりしかば其の附近にて向岸に位したるエーゴスポタモイに淀泊したり。此地は家屋もなく住民もなき海濱にして水兵は上陸して四方に散じ糧食を求めざる可からざりしかばアセンス艦隊は速戰を利として屢ライサンダーに挑戰を試みたり。深慮遠謀に長けたるライサンダーは糧食十分にして安全强固なる位地に在りたれば容易に應戰するとを爲さずして竊かに機會の到來するを待ちたり。アセンス艦隊は連日戰を挑みたれども彼れが應戰せざるを見て之を怯と爲し、稍く其規律訓練を怠り兵士自由に散亂して防備なき狀態に陷りたり。罷免の後此の地方に在りて後圖を爲しつゝありたるアルキビアデスは此の形勢を見てアセンスの將校等にセストスに移轉せんことを勸告したり。しかれども將校等は其の勸告を侮蔑して顧みざりしがライサンダーは第五日に至りてアセンスの水兵が上陸したるを探知し、全艦隊に戰令を傳へ急航遠進してアセンス艦隊の在る處を襲擊したり。アセンスの艦隊百八十隻中の十隻乃至十二隻の外全く防備なかりしかば全艦隊は一擊を費さずして捕獲せられたり。提督コノンは旗艦及ひ其餘八隻を以て免かれたれどもアセンスに歸るを恐れてサイプラス島に脱れたり。ライサンダーは三千の捕虜を死刑に處してアセンス人に復讐を爲したり。此の一戰によりてヘレスポントの戰鬪勝敗を決したるのみならずペロポンニーソス戰爭始めて其局を結ぶことを得たり。

アセンスの落城（紀元前四〇四）

エーゴスポタモイの敗報は夜間官船パラロス號によりてアセンスの軍港パイレーユースに傳へられたり。此の不幸を來したるはアセンス將校中ライサンダーの爲に買收せられて反忠を爲したる者あがしが爲なりしとは敗將コノンの說なりしと言へり。夫れ或は事實なりしならんか。シシリー遠征の失敗は官報によりて傳へられたるに非ざりき。其の敗聞は漸次に到達して一般市民の知る所となりたりしが今回の敗報は恰かも雷霆の一時に轟くが如く二重の長壁を經過して忽ちアセンス全市に傳へられたり。當時の史家セノフオン曰く『其夜一人として眠りしものなし』と。最早やアセンスの運命は

定まれり。海軍全滅してペレスポント既に敵の有となりたればアセンスの落城は時間の問題に外ならざりき。ライサンダーはセストス、ビザンシオム、カルケードン其他の諸市を略しアセンスの兵を救して直ちに首府に歸ることを命じたり。彼れはアセンスに敗兵を歸らしめて敗聞を傳へ以て市民の心を恐怖せしめ、且つ人口の增加によりて市中の糧食を消費し速かに饑餓を以てアセンスを滅ばさんことを欲したり。アセンスの屬邦は獨りサモス島を除くの外悉く彼れに降參し而してライサンダーは其の征服したる諸市にスパルタの總督を置きて之を鎭撫し且つ各地の貴族黨に其の政權を委任したり。

紀元前四百五年の十一月頃ライサンダーは陸上の二軍と相合してアセンスを包圍せんが爲め戰艦百五十隻を以てバイレーユース港の附近に進みたり。是れより先きスパルタの王パウセニアスは西よりアセンスを圍み又た九年以上デケレーア城に據りて攻擊したる他の王アギスは東北より之れを圍みたり。外には大軍攻め來り內には糧食漸く盡きて饑餓且夕に迫りたるもアセンス人は猶ほ其の主張を固持し降服の條件として長壁及びバイレーユトス港の保存を要求したり。

スパルタ政府之を聽さずして數百間長壁を毀つ可きを命じたりしに、アセンスの市民は大に激昂し元老議員アルケスツレトスはスパルタの命に從はんことを發議したりしが爲に禁錮せられ、將來是の如き提議を爲す者を禁じたり。是に於て貴族黨の一人セラミーニースはライサンダーの意志を知らんが爲に彼れの軍中に赴きたり。彼は三ヶ月滯在の後ライサンダーが談判の權を有せず本國政府に照回す可しと語げたることを報じたり。是時アセンスは最も危急の狀態に陷り最早や如何なる條件の下にも和約を締結せざる可からざる形勢なりしが故に彼は直に全權を委任せられてスパルタに派遣せられたり。スパルタ政府がアセンスに要求したる條件は一、長壁及びバイレーユース港の要塞を破壞すること二、一切其の外領を拋棄し、其の領土はアッチカに限ること、三、凡て其の戰艦を引渡すこと、四、凡ての逃亡者に歸國を許すこと、五、スパルタの同盟に屬して兵員を出し其他の義務を守ることにして一切アセンス人の要請を許さゞる條件なりき。アセンス市民は最早や條件の如何を顧るに遑なく、和約成立の報を聞きてセラミーニースを歡迎したり。紀元前四百四年の三月ライサンダーは遂にアセンスに入りて

之を占領したり。彼は十二隻を除き悉くアセンスの戰艦を收め其の海軍武庫を毀ち、船渠にありたる船舶を燒きたり。長壁破壞の開始にはライサンダーの指揮によりて一種の祝祭の如く女優をして笛を吹き、踏舞を爲さしめ、而して長壁の大塊落下する毎にペロポンニーソスの軍隊は歡呼して之を祝したり。斯くアセンスは開戰後二十七年にして倒れ、其の海上に於ける覇權はデロス同盟廢設せられし以來七十餘年にして亡びたり。サラミス戰爭の際アセンスは波斯の軍に破壞せられ一の市府を有せざるに際しセミストクリースは海上の戰艦を指してアセンス彼に在りと誇稱したりしが今やアセンスは悉く其戰艦を失ひたり。アセンス存することを得たりと雖ども其の實眞正のアセンスは亡び、存する所のものは其の形骸に過ぎざりき。然れどもアセンスの名譽は永久に存し、其の精神的生命はプレトー、アリストーツル及びアセンスの大學によりて代表せられ文學美術哲學の上に於ては尙ほ全希臘に冠絕したるのみならず、天下後世の師表たることを得たりしは實に驚歎に堪へたる人民なりき。

ペロポンニーソス戰爭は分ちて之を三期と爲すことを得べし。

第一期　開戰よりニキアスの和約に至る紀前四三一―四二一

之を十年戰爭と稱す。ペロポンニーソス人は之をアッチカ戰爭と名づけたり。

第二期　ニキアスの和約よりシシリー遠征の失敗に至る紀前四二一―四一三

第三期　シシリー遠征の失敗よりアセンスの落城に至る紀前四一三―四〇四

之をデケレーア戰爭又はアイオニヤ戰爭と稱す。

三十人の僭主

アセンス降服の結果によりて民主政躰に反抗したる無數の逃亡者はアセンスに歸來したり。就中プレトー(プラトン)の叔父にして曾てソクラテスに親交を有したる貴族クリチアスは歸來者の一人にして文才並に政治的才能を有し、而して野心窮りなく眞心の爲に牽制せらるゝ所なき人物なりき。彼は其の黨與を得るに於て困難を發見せざりき。當時アセンスの民政は戰爭の失敗によりて信用を失し、元老議會の多數は寡頭政府の建設を贊成したり。アセンス降服の後政治倶樂部は集會して五人の委員を指名しスパルタ人の歡心を得んが爲に之をエフォルスと稱したり。次にライサンダーをアセンスに迎へ、其の

勢力を楯として會議を開き、將來の法律を編制し、臨時の行政を管理せしむる爲に三十人の委員を設く可きことを決議せしめたり。ライサンダーは議會に向つてアセンスの憲法よりも各人自己の安全を慮る可きことを警告したり。是の如くして選擧せられたる三十人はクリチアスを首領として遂に三十人の僭主と稱せらるゝに至れり。

三十人の僭主等は全く新なる元老議員を指名し、新官吏を任命し、而して其の最も惡む所の反對者を撲滅することに着手したり。甚しきは裁判の形式をも用ひず命令を以て死刑に處し、且つスパルタの兵をアセンスに屯駐せしめて其の後楯となし、又た數多の刺客を使役して其の暴威を逞くしたり。三十人の僭主等は五人のアセンス市民を召喚し、サラミス島に行きレオンといふ一人の名士を捕縛し來る可しと脅迫的に命令したり。ソクラテスも五人中の一人なりしが彼は此の命令を拒絶して不朽に剛直の名を殘したり。三十人の專制により裁判を用ひずして殺されたるもの千五百人に及びたりとの傳說は事實に非ずとするも猶ほ彼等の爲に殺戮せられたるもの數多なりしことは疑ふ可からず。彼等は命令を發して言語の術を敎ふることを禁止したり。之が爲に論理學、修辭學及び文學は一般に禁制せられ學者は大に彼等の嫌忌を蒙むりソクラテスは最も其の譴責する所となれり。彼れはクリチアスの前に召喚せられ、將來に於て靑年と談話することを禁止せられたり。彼は毅然として其の命令の漠然として遵行す可からざることを指摘し、是の如き命令は奉行の義務なきことを斷言して去りたり。

アルキビアデスの最期

アルキビアデスは三十人の僭主等及びスパルタ人が最も恐怖する所の人物なりき。エーゴスポタエィの戰敗後彼れはスレース地方に居るの危險なるを以てフリギヤにある波斯の總督ファルナベーゾスの許に避難したり。彼れはセミストクリースの例に倣ひ波斯の首府スーサに赴かんことを欲したり。總督ファルナベーゾスは彼に一市を與へて其の采邑となしたり。彼れ年齒凡そ四十五歲アセンス復興の志益〻壯にして波斯によりて其の目的を達せんことを決意したり。波斯王デライアス二世（紀前四二四―四〇五）死してアルタザークシース二世（紀前四〇五―三五九）位に即き、弟サイラス才幹ありて非望を懷き小亞細亞西南部の總督として深くスパルタ人に結託したり。アルキビアデスは彼れ

の野心波斯の王位を奪ふに在り、而して波斯王が彼れ及びスパルタに對するの政策はアセンスを同盟と爲すに若くものなきことを看破したり。然るにアセンスの僧主等は彼れの生存する限り心を安んずること能はずしてアッチカに於ける彼れの所有地を沒收し、彼れの子を追放し、彼れをも亦た追放して希臘の地に在るを禁じたり。スパルタも亦た之に力を添え遂に總督サイラスによりてフアルナベーゾスに命じ彼れを殺さんことを企てたり。アルキビアデスは將さにスーサに赴かんとして夜フリギヤのメリッサといふ一邑に宿泊したり。夜間寢室に火起りしかば彼は直ちに起きて枕邊の劒を求めたれとも既に敵の爲に奪ひ去られたり。機敏なる彼は衣服を以て火を鎭め、姜チマンドラ、忠僕のアルケデヤ人を伴ひ室外に出てたり。敵影更になく、唯だ暗中より飛箭來りて彼れを倒せり、而して彼れの死したるを見て敵始めて出で來り彼の首を斬り總督の許に送りたり。チマンドラは彼れの遺體に向つて厚く人生最後の禮を盡くしたりといふ。彼は希臘史上一個の奇才たるを失はざりき。而かも彼は自己の功名を主としてアセンスの利害を後にし遂に之が爲に國を滅ぼし身を亡ぼし空しく千歲の恨を遺して異域の鬼と化したり。彼がスパルタに降り、アセンス攻擊の奇計を建るや彼は決してアセンスを滅せんとするの素志に非ざりしを知る可し。彼れは自己の才を恃み、アセンスに深き損傷を加ふるもアセンスが必ず彼れを歡迎するの日ある可きを期し忽ち其才を翻して容易にアセンスを再興することを得べしと信じたり。而して事志と違ひ、エーゴスポタモイの一敗遂にアセンスの亡滅を見るに至れり。希臘の詩人ピンダル（紀元前五二四年生る）曰く國家を動かすは劣弱の人に於ても容易なり、然れども再び之を其の位置に立てんとするは神若し遽かに國家を指導する者等の水先案内となるに非されは頗ぶる困難なることを覺すと。嗚呼後の政治家たらんもの深く此語を記して其の鑑戒と爲さゝる可からず。

民政の恢復

是時に當り希臘列國のアセンスに對する態度一變したり。最早アセンスは列國の恐怖若くは嫉妬を惹起するに足らず、而して是等の感情は却てスパルタに向つて注射せらるゝに至れり。シーアス及びロリンスは戰後スパルタの專横を憤れり。ライサンダーは全希臘に於て無比の聲望と權勢とを有し其の彫像は諸處に建設せられたり。彼はスパルタの名によりて其の征服したる

各市に無制限の權力を振ひたり。彼は所屬諸市より年々一定の税を徴收せんことを計畫したりしかは希臘列國はスパルタの豫約したる自由の宣言は單にアセンスの束縛を脱してスパルタに屬せしむるまでの意義なりしことを發見したり。是に於てシーブス及びコリンスはアセンス人に同情を表し彼の三十人政府は單にスパルタ專横の機關に外ならずと見做したりき。アセンスの人民多く難を免かれてビオシヤに遁走したり。其の一人なるスラシブユーロス(ツラシブーロス)はシーブス人の聲援によりて義兵を起しアッチカに進入したり。三十人の僧主等は之を邀へ擊ち却て敗走したり。僧主等の虐政と義勇軍の戰勝とによりてスラシブユーロスの兵益加はり遂に進んてパイレーユース港を畧取したり。僧主等は更に軍を率ゐてこれを攻擊したりしがスラシブユーロス善く兵を用ひて其の全軍を破り僧主等の首領クリチアス遂に此戰に斃死したり。是に於て八ケ月間政權を弄したる僧主等の政府は遂に顚覆せられたり。スパルタは漸やくライサンデルの政策及び其の專横を厭ひたりしが故に、スラシブユーロスは其の目的を達することを得たり。僧主等は死に處せられ、民政は再び恢復せられたり。ソルコン官五百人會議等舊の如く設置せられたり。實に是れ紀元前四百三年の事なりとす。是の如くアセンスは其の內部の平和を得たりと雖ども既に其の城郭を失ひ其の艦隊を失ひたれば固より前日のアセンスに非ずして政治上のアセンスは單に其の遺骸のみを存し、是より後の歷史は單に其の獨立を維持せんとするに止まりたり。然れども彼れの文化はソクラテス、プレトー等の影響によりて却て全希臘を風靡したり。

戰爭の結果　ペロポンニーソス戰爭の結果は近世三十年戰爭の獨逸に於けるが如くなりき。ツキデイスは能く其の事實を記載したり。曰く

此の戰爭によりて全ヘラスは動搖せられたり。何となれば四方に人民黨と貴族黨との間に紛爭行はれたればなり。前者はアセンス人を誘引せんと欲し、後者はラキデモニヤン人(スパルタ人)を誘引せんと欲したり。諸市は紛爭の爲に震搖せられたり、而して此紛爭の破裂他よりも後れたる處に於ては他にあらざりし大過激の事を行はんとを企てたり。冒辭の雷霆さへも變化したり。狂暴は無私の勇と稱せられ、智慮に出る遲延は卑怯と呼ばれたり。何人にても强暴なる者は信任するに足ると為られ、何人にても强暴に反抗する者は猜疑せられたり。骨稽なる者は智者と稱せられ、多く欲望なる者は多く智者

と稱せられたり。約言すれば稱譽は不正に於て他に先んずる者及び他人を教唆して其の自から思ひも寄らざりし犯罪を行はしむる者に與へられり。

是の如く各人みな黨派の利害あるを知りて國家あるを忘却し、私黨の利益の爲には遂に法律も習慣も犧牲に供せられんとするの傾向を生じたり。是れ希臘人の宗教心漸次衰微したる結果に外ならず。蓋し古代に於ては法律も習慣も共に宗教によりて其の權威を有したればなり。而して宗教衰微の一因はアイオニヤより傳播したる哲學の影響に存したり。

詭辯學者(ソフイスト)　是より先きアイオニヤに於ては哲學の元祖セリース(タレース)紀前六四〇―五五〇は水を以て万物の本となし、アナキシマンデル―紀前六一〇―五四七は無極を以て万物の本となし、爾後アナキシメネスは空氣を以てし、ヘラクライトスは火を以てし而してアナクサゴラス―紀前四九九―四二八は理を以てし各々諸神の作用を待たずして、物理的若しくは合理的に宇宙の現象を解釋せんとを試みたり。哲學と宗教との衝突は既にペリクリースの時代に於て其端を發したり。アナクサゴラスはアセンスに來りて其哲學を唱へ辛うじて死に處せらるゝことを免かれたり。當時人民は太陽を神なりと信じたりしに彼は石塊空中に飛過衝突して火を發したるものの是れなりと解釋したり。ペリクリースの爲に救解せられて死刑の代りに追放せられたり。彼れアセンスを去りて曰く我れアセンス人を失ひたるに非らず、アセンス人却て我を失へりと。以て其の自から倍ずるの厚かりしことを見る可し。波斯戰爭以來人智大に開發し、特にアセンスに於ける民政の隆盛は大に學者の需要を增加し、教授を以て一種の營業と爲す者を生じたり。時人之をソフィスト(智者)と稱したり。彼等は青年を教育して實務に適應せしめんことを勉めたり。而して彼等が實學を重んじたるはアイオニヤ哲學の反動にして客觀的現象に關する眞正の哲學を建設するの不可能事たるを感じ吾人の智識は單に主觀的現象に止まるものなりとの確信に基きたり。ソフィストの元祖はアブデラのプロタゴラス紀前四八〇―四一一なりき。彼は四十年間希臘を遊歷して其の學問を傳へたり。ペリクリースの保護によりて屢アセンスに往來したりしが遂に無神論者としてアセンスより放逐せられたり。彼れは社會の利害の外他には眞理なしとし、人間は万物の尺度なりと敎へたり。而して諸神の存在については有無とも

に斷定することを爲さゞりき。ソフィストの學風は是の如く懷疑の說を蔓延せしめて大にアセンスの思想を動搖せしむるの傾向ありき。

ソクラテス　アセンスに於ては民政恢復の後市民は如何にしてアセンスの舊態を恢復するを得べきかと苦心したり。彼等は市民の宗教心を復興するを以て國家の急務となし、而して之を行ふにはソフィストの學風を一掃せざる可からざるの必要を感じたり。ソクラテスの死刑には私怨も亦た加はりたりと雖ども、アセンス市民の多數が之に同意したるは彼等がソクラテスを誤解してソフィストの魁と爲したりしが爲なりとす。

ソクラテスは紀元前四百七十年若くは六十九年の始めサセンスに生れたり。彼の父はソフロニスコスと云ひ彫像を業とし、其母はフェーナレテーと云ひ產婆を業としたり。アナクサゴラスは彼の師なりしとは後人の說なり。アナクサゴラスの門人たりしアセンスのアルケレオスは彼れの師なりしことは同時の人アリストクセノスの傳ふる所なれども、プレトー及びゼノフォンは更に之に就て言ふ所なし。ソクラテスが幼時の敎育は普通の敎育に止まりたるものゝ如し。後に書を讀み又たソフィストと交り、其の講義を聽て知識を開きたることあるも畢竟するに彼は哲學は自家獨得なりき。彼れの學問は活學問にして當時の俊秀たる男子及び婦人と交際して得たるものに外ならざりき。彼は容貌怪異にして身躰の强健人に超え、寒熱に耐えて夏冬同一の服を用ひたり。紀元前四百三十二年ポチディヤの役（以上紀元前四百二十四年）同四百二十四年デリオンの役又た同四百二十二年アムフィポリスの役に一步兵として勇戰したり。紀元前四百六年彼は元老會議の一人たりしがアルギニユセイに於て戰功ありし將校を死刑に處するの動議に反對し又た三十人僭主等が彼れ及他の四人に命してレオンを捕へしめたるとき、彼れ一人は其命に從はずして家に歸りたり。僭主等若し能く其の位置を保つことを得たりしならんには彼は既に彼等の爲に死に處せられたりしならん。彼れは獨立不覇にして毫も人を恐れざりき。彼れは天職の己に在るを確信したり。彼れは通常の哲學者と誤解せられたり。紀元前四百二十年喜劇作者アリストファニースは「雲」と題し彼れが空中を逍遙する狀を寫し哲學は青年を誘惑するの媒介なりと諷刺し又た他の喜劇家ユーポリスも其の作において彼れは「如何にして蚤飯を

得る事といふ問題の外考究せざる所なし」と攻撃したり。彼れはソフィストと同く物理學を無用の研究となし專ら心を人生の學に用ひたり。是れ彼れが哲學を天より地に降らしめたりと稱せらるゝ所以にして彼れはアイオニヤ流の哲學者には非ざりき。而してソフィストと異にして報酬なしに學問を傳へたり。彼はソフィストに似てソフィストに非ざりき。彼れは確乎たる眞理の實在を確信して之を研究するの方法を教へんことを勉めたり。彼れは無神論者に非ざりき。彼は自然界は群神の支配する所にして之を研究するは不敬となして專ら倫理哲學に心を用ひたり。彼は其心の聲を以て一種の靈となし常に此靈の聲を聞て事に從ひたり、而して却て世人には一種の新神を崇拜する者と誤解せられたり。彼れはソフィストの如く智者と稱せずして智を愛する者（フィロソファー）と稱したり。デルファイの神託は彼を以て當世第一の智者と稱したり。彼れ以爲へらく、是れ世人皆な自から智者なりと信じ、我れ獨り我か無識なるを知るが故なりと。プロタゴラスは客觀的に眞理なしと斷定し、ソクラテスは之れに反して自己の無識を主張し能く探究するときは確乎たる眞理人の眞心に存するを說き、一に義務を以て知識の基本を爲さんことを勉めたり。彼れは國家を治むるは一種の藝術にして操船の術よりも困難なるものなるに世人が何人にても政治家たるを得べしと思ふの愚なるを說きたり。之が爲に彼れは民政の反對者と誤解せられてアセンス人の嫌忌する所となれり。紀元前三百九十九年彼れはアセンスの諸神を崇拜せずして異神に事へ、且つ青年を誘惑に陷らしむとの罪行に依て告訴せられたり。即ち不敬罪と不道德との二件によりて彈劾せられたり。彼れの學風は當時の宗教家及び保守黨に容れられざりしを見る可し。而してアセンス當時の保守黨はソロン以來發達したる民政黨に外ならざりき。ソクラテスは冷然として告訴を看過したり。然れとも五六百人を以て組織せられたる法庭に於て彼は僅に五六票の多數にて死刑の宣告を受けたり。宣告の後アセンス人は死刑を以て他の刑に轉換せんとを請求するの權利を有したれどもソクラテズは傲然として是の如き方法に訴ふるとを爲さず、益々市民の惡感情を增長せしめたり彼れ年七十にして遂に毒刑に處せられたり。彼れの死は歷史上に於て一の新現象を生じたり。從來國家の爲に勇戰して死したる者は多々ありたり。然れども眞理の爲に殉死したる者

は彼を以て始とす。彼れの後には彼れに倣ひて世敎の爲めに迫害せられ大道の爲に身を殉ふる者世に少なからざりき。是の如くソクラテスは民政的反動の爲に犧牲に供せられたり。然れどもアセンスの全盛時代は既に過ぎ去りて之を恢復すること難く特にソクラテスの死によりて到底恢復せらるる可くもあらざりき。後年アセンス人はソクラテスの德を認識し之を殺したるを悔ひ彼の爲に像を建て敬意を表したりしかとも遂にソクラテスの風に化せらるゝこと能はずして益々衰亡に傾きたり。アセンス人民が後年ソクラテスの告訴人を死刑に處し其の宣告を破毀したりといふの說は後人の附會に過ぎざる可し。第十九世紀に至りて希臘遂に土耳其の羈絆を脫し一千八百四十三年の憲法によりて古代の法官を再設し、アレオパゴスの法廷を復興したりしが此の法廷に於てソクラテスの宣告は破毀せられたりといふ。

第八章　スパルタ及びシーブスの盛時

スパルタの擅制

スパルタ戰勝の結果到る所寡頭政治となり政府は十人を以て組織せられ而してスパルタの司令官（ハルモスト）各市にありて監視したり。元來スパルタは希臘列國をしてアセンスの壓制を脫せしめ之に自由を與へんとの宣言を爲したり。彼は波斯の金力に依賴して遂にアセンスに勝つことを得たり。されば其の勝利は決して名譽の勝利には非ざりき。而して戰勝の結果希臘列國は却てアセンスの壓制よりも甚しき壓制の下に服從せざる可からざることを發見したり。征服せられたる諸市のみならず同盟諸市までも多くは十人の土著貴族並にスパルタの司令官及び其軍隊を奉し內外二重の束縛を受ると、恰かも波斯帝國のアイオニヤ諸市を制馭したる時の如くなりき。スパルタが希臘諸國を欺きたるは恰もナポレオン第一世を倒さんと歃して歐洲列國の諸君主が人民に自由憲法を與へんとを誓約し、ウオートルローの戰勝後破約して之を與へざりしと同一なり。而してスパルタが司令官を派遣して其の威に服せしむるの制はスパルタがレコニヤの諸邑を支配するの方法にして全く諸市を屬邦と視做せしこと明白なりき。コリンスは元來アセンスに對する戰爭の發起者なりしも戰勝の結果は一にスパルタに歸して却て其の侮蔑を受る事を憤怒したり。又シーブスは元來中部希臘の覇權を攝らんと欲しアセンスを憎みたりしに戰後ス

スパルタは全希臘を壓するの勢を示したれば忽ちスパルタに反動してアセンスの逃亡者を庇護し遂に民政を恢復せしめたり。是より希臘の形勢又た一變するに至れり。

スパルタと波斯との戰爭（紀元前三九九—三九四）

波斯王アルタザークシースの弟サイロスは其野心發覺して王の爲に誅戮せられんとしたりしが母の歎訴によりて救はれ再び小亞細亞に總督たるを得たり。然れども彼は毫も悔悟の心なく、乘て詰託したるスパルタ人との關係により一万の希臘人を募り巴比倫の附近に於て大に兄王の軍と戰ひ討死したり。希臘の兵一万人敵地に深入して首領を失ひ進退維谷まりしもアセンス人ゼノフオン（クセノフオン）難なく此兵を全うして希臘に歸ることを得たり（紀前四一一）。其の途上種々の困難に遭遇したりし事實は史上一万人の退軍と稱して彼が遺著によりて今に傳唱せらるゝ所なり。是によりて從來希臘人に侵し難しと思惟せられたる大帝國の脆弱なる內情暴露し、希臘人をして漸次波斯を窺はんとするの念慮を生ぜしめたり。

サイロスが兵を擧げて兄王に反するやアイオニヤ諸市之に應じたりしが波斯の總督は之を征服せんとしたり。元來スパルタ人は小亞細亞の希臘諸市を波斯に讓與するの約を結びたりしも全希臘の盟主として之を恥辱となし且つサイロスに應援したることは波斯の朝廷に於ても既に公然たる秘密なりしかば軍を遣はして小亞細亞の諸市を援助したり。波斯の總督ファルナベーゾスは大に艦隊を組織しアセンスの敗將コノンをして之れを指揮せしめんことを企てたり。是に於て勇敢なるスパルタ王アゲシラオスは自から兵に將として小亞細亞に進入し（紀元前三九八）大擧して波斯を倒さんことを欲したり。然れども希臘列國の反覆は遂に彼をして其の壯圖を爲すこと能はざらしめたり。

コリンス戰爭（紀元前三九四—三八七）

波斯の金力は其の兵力よりも強く、シーブス、コリンス及びアルゴスをしてスパルタに反對の同盟を起さしめ、アセンスをも之に加盟せしむるに至れり。此の同盟はコリンス會議によりて組織せられ之をコリンス戰爭と稱す。紀元前三百九十五年スパルタの名將ライサンダーは同盟軍とピオシヤに戰ふて敗死し、翌年スパルタの海軍はロード島の附近に於てコノンの爲に擊破せられ其の結果によりスパルタは全く小亞細亞の諸市を失ひスパルタ

の司令官は悉く此地方より驅逐せられたり。是時に當りスパルタ王アゲシラオスは本國より召喚せられて歸途に就き、ビオシヤに於て同盟の軍を擊破しスパルタに歸りたり。彼は希臘人が若し一致結合せば能く波斯を倒すに足る可きを看破し、遺憾に堪へずして其の遠征より引き返へしたりと云ふ。

アセンスの將コノンは波斯の將ファアルナベーゾスと共にレコニヤの海岸を掠め、遂にアセンスに歸りて其の長壁及びパイレーユウス港の要塞を再建したり。而して彼れは波斯總督の認可及び賚金と同盟シープスの助力とによりて之を爲すことを得たり。是れ皆な彼等がスパルタを牽制せんとするの策に外ならざりき。（紀元前三九四）

アンタルキダスの和約（紀元前三八七）

數年戰爭の後スパルタは遂に波斯と和するの必要を感じ、アンタルキダスを波斯に遣はし、小亞細亞に於ける希臘諸市を波斯に讓與し、又た其の干渉を仰ぎて希臘列國の間を調停せしめ以てスパルタの利益となさんことを欲したり。アンタルキダスは成功して希臘に歸り、波斯の全艦隊及びシタキユースの聲援によりて全希臘を威壓し列國をして又た反抗することを能はざらしめたり。是に於て波斯の總督は希臘列國の使節を小亞細亞のサルディスに召集し波斯王の勅書に朗讀したり。其文に曰く

王アルタザークシースは亞細亞の諸市、クラゾメナー島及びサイプロス島の彼に隸屬す可きを正當なりと思惟す。又たレムノス、イムブロス及びスサイロスは舊の如くアセンスに屬し其他の希臘諸市は大小皆な獨立す可きを正當と思惟す。若し此の和約に承服するを拒む者あらは陸は海陸兩道より船舶及び賚金を以て同心者と共に彼等に向つて開戰す可し。

是に於て希臘列國は波斯戰爭の結果を無にして一戰の勞なしに波斯の屬國たる位置に陷りたり。而して此の條約文は石に刻まれて希臘の各神社に納められたり。是れ皆な一に希臘列國が一致結合せざるの結果に外ならざりき。一致すれば則ち起り、分離すれば則ち倒る。希臘の歷史は此の眞理を最も明白ならしむるものと謂ふ可し。

スパルタとシープスとの開戰

アンタルキダスの條約はシープスに向つて最も大なる打擊を與へたり。先きにスパルタは波斯と和約して遂にアセ

ンスの同盟聯合を破壞したりしが今やアンタルキダスの和約によりてシープスのピオシヤに於ける同盟を解散せしめんことを欲したり。シープスは到底抵抗の望なく止むことを得ずして此の條約に服從したり。是よりスパルタは益シープスを弱めんと欲し、ピオシヤの各市に其の獨立を宣言し條約に反して諸市にスパルタの兵を置き、スパルタ黨の寡人政治を設立せしめたり。

是時に當り北の方マセドニヤの東岸カルキデーケーの半島に於てオリンサス(オリントス)同盟起り頻りに其の勢力を扶殖したりしかば同地に於ける他の二市はスパルタの救援を求めたり(紀元前三八三)。之が爲にスパルタは援軍を北方に遣るの必要を生じ、援軍ピオシヤを通過するの機會に乘じシープスのスパルタ黨と相應じて竊かに兵をシープス城内に誘引せしめ一千五百のスパルタ兵を屯營せしめたり。是より後三年の間スパルタ人は全くシープスを屬領の如く支配することを得たり。

アセンスの倒れし以來シープス(原文デベン)の政策は大にスパルタに反對し、貴族黨勢力を失し民政黨之に代るの傾向を生じたり。其の最初の徵候はシープスがアセンスの逃亡者を庇護ず可しとの決議によりて現はれたり。是より機アセンスの民政的精神およびペリクリースの理想的政策はシープス人の中に發現し、アセンスに代りて希臘のために自由の光を放たんと欲し、または波斯戰爭以來シープスの汚名を一洗せんことを期したる青年愛國黨起り、エパミノンダスは其の最も俊秀なる一人なりき。彼はシープス人なると同時に全心ヘレン人なりき。彼はピサゴラスの哲學を學び其の道義によりて自己の品性を脩養したり。彼はシープスの舊家に生れたれども勤儉を主義とし一に高尚なる生活を爲さんことを勉めたり。彼の友人にペロピダスといふ富有の少年ありしが戰場に於てエパミノンダスに一命を救はれし以來之を恩とし其の富をエパミノンダスに分たんことを欲したり。エパミノンダス斷じて之を肯ぜざりしかば彼はエパミノンダスに倣ひて勤儉の生活を爲し其の富を公共の爲に消費せんことを決したり。アンタルキダスの和約以來此の青年愛國黨益々勢力を加へ、貴族黨は愈々スパルタの庇護に依賴するの外自家の位置保ち難きを感じ遂にスパルタの兵を誘引し、其の兵力によりて寡頭政治を維持せんことを企て、三年の間其の權力を專にすることを

得たり。此間シーブスの狀態はアセンス落城後三十人僧主制の時に同じく愛國の士三四百人はアセンスに逃れて時運の開くるを待望したり。是時アセンス人はシーブスの愛國者等を優遇して二十年前の恩義に報じたり。ペロピダスも亦た此の逃亡者の一人なりしが彼れは其の富を以て同志を扶助し、且つ家產を顧みずして一に其心を國事に傾けたり。彼は天才に於て又た品性に於てエパミノンダスに及ばざりしと雖ども其の義俠と勇敢とに於ては彼に劣らざる好漢なりき。彼はアセンスにありて竊かにシーブスの愛國黨と通じ寡頭政治を一掃せんとの陰謀を企て夜宴を設けて貴族黨の首領等を誘引し酒酣にしてアセンスに逃れたるペロピダス等の壯士七人僞りて婦人の被覆を衣て入り來り酩酊したる首領二人及び其與黨を刺殺し、夜陰に乘じ家に就きて他の首領等を殺し又た轉じて牢獄に捕へられたる志士の縲 を解き直に之に兵器を授けたり。夜中暫時の間に目的は遂せられ喇叭の響は自由の復活を宣告し、烟火の光は國運の再興を祝表し、壯士等は何の妨害もなく翌朝市場に集合したる市民の前に前後の顚末を報告することを得たり。エパミノンダスはピサゴラスの道義によりて詐術を施すを屑しとせず、始より暗殺の擧に參與せざりしかども彼は自己の良心を以て他人の行爲を束縛するを欲せず、ペロピダス等の爲す所に任せたり。是に於て彼は壯士等の爲に人民の前に哀訴し、彼等が非常手段を行ひたるは私心に出でたるに非ざるを以て其罪を許さんことを請求し、人民は歡呼して之を贊成し國家の恩人として直に其の三人を執政官に擧用したり。スパルタの兵一千五百駐屯したりしかども事不意に起りて暴徒を鎭壓するの機會を失し市民既に悉くペロピダス等に應じたりしが故に急報をスパルタに送るの外何事をも爲す能はず、遂に市民の攻擊に先だち談判を遂げ城を渡して歸國したり。是れ實に紀元前三百七十九年の十二月なりき。

シーベスとアセンスとの同盟

此の革命は全希臘を震動せしめ特にスパルタ人をして一大恐怖心を起さしめたり。スパルタは直に同盟の兵を起してシーブスを討じ且つアセンスの罪を問へり。アセンスは止むことを得ずシーブスの革命を參助したる一將を死に處し、他の一將にして逃亡したる者は之に追放の刑を宣告したり。シーブスは獨力スパルタに當り難きを察し、スパルタの一

將に賄ひ先づアッチカを襲はしめたり。アセンス怒りてシープスと連合し、全力を擧げて再び海上の同盟を組織せんことを勉め、而してシープスも亦た進んで此の同盟に加はれり。アセンスは既にパイレーユウスの要塞を完成し、新に戰艦を建造し、前日の組織よりも公平なる條件に基きて海上同盟を復活せしめたり。之を組織する諸市は自治獨立にして使節をアセンスに會合せしめて共同の資金を出し、昔時用ひたるフォロス(貢稅)の名を廢して之をシンタクシス(寄附)といふ新名稱を附し、以て昔日の記憶を消滅せしめんことを勉め、而してエーヂヤン海に於ける七十の市府は之に加盟したり(紀元前三七八)。又たシープスに於てはエパミノンダス及びペロピダスの兩友は青年中の俊英三百を撰拔して一軍隊を編制したり。神聖隊とは即ち是なり。義によりて結合し死生相許したる二人づゝの組織にして從來貴族の子弟に限られたる一隊を改革し全市民の青年中より高貴なる品性を有する者のみを以て組織せられたり。シープス人はアセンスの海上同盟に加はり之に因てスパルタの海上權を牽制し以てピオシヤの諸市よりスパルタ人を驅逐し、自から昔日のピオシヤ同盟を恢復せんことを欲したり。此の同盟の結果によりてスパルタ人は三年の間戰ひシープスを討つて勝を制すること能はず、次に海上に於てアセンスの海軍と戰ひ全敗の結果エーヂアン海上の權力は再びアセンスの掌裡に歸したり(紀元前三七六)。是間にシープス人も亦た屢スパルタ人と戰ふて之に勝ち、紀元前三百七十四年に至りてはピオシヤの他の諸市より悉くスパルタ人を逐ひ、寡頭政治を顚覆し再びシープスを盟主としたるピオシヤ同盟を復活せしむることを得たり。

スパルタに於ける列國會議

紀元前三百七十二年スパルタは兩同盟に勝つこと能はずして遂にアンタルキダスを波斯に遣はし、ピオシヤ同盟再組織の爲に和約の破毀せられたることを訴へ更に波斯の干涉を求めたり。又たアセンスは漸やくシープスが中部希臘に於て覇威を振はんとするを見て不快となしスパルタと平和談判を開始し其の結果によりて紀元前三百七十一年スパルタに於て列國會議開かれたり。希臘諸市の外波斯及びマセドニヤも使節を遣りて此の會議に列せしめたり。希臘諸市の獨立を基礎として平和の條件を決議し、雙方兵を解き、スパルタは各地より其の司令官及び屯營兵を撤去することを承諾した

り。シーブスの使節エパミノンダスはビオシヤ全州の代表者としての外之に調印するとを拒み、スパルタ王アゲシラオス恐然として起立し「貴下はビオシヤの各市を獨立放任せしむるか否か明言せよ」と究問し、エパミノンダスは「貴下はレコニヤの各邑を獨立放任せしむるかを答へよ」との反問を以て之に應じたり。蓋し彼はシーブスのビオシヤ州に於ける主權は歴史上スパルタのレコニヤに於けると同一なることを主張したり。アゲシラオスは直に條約文書よりシーブスを除名し、之を宣告して會議を解散したり。是に於てシーブスは孤立してスパルタの强國を對手とし開戰を爲すの止む可からざるに至れり。而して全希臘人はシーブスが單獨にてスパルタに當り得べしとは思も寄らざりき。

リユークトラの戰紀元前三七一。　スパルタ會議の當時スパルタの一王クレオムブロトスは兵に將としてフオーキス州に在りしかばスパルタは直ちに令を彼に傳へてシーブスを討たしめたり。彼れ直にビオシヤに進入し、リユークトラの平原に陣營を備へたり。シーブス人は其の神速なるに驚き且つスパルタ人の威名に恐れて降伏する者多くエパミノンダス及びペロピダスの兩友軍に將として

リユークトラの野にスパルタの陣と相對するや七將の中三人は退てシーブス城を守り妻子をアセンスに遣らんとを發議したり。此戰は實にアセンス人のマラソン役と同じく、エパミノンダス及びペロピダスは此役に於てミルタイアデーススパルタ人と相對したるは此時を以て最初と爲したればなり。

及びアリスタイデス等と同一の位置に立ちたり。蓋しシーブス人が野戰に於て兩軍の總數明白ならざれどもスパルタの軍は多數にしてエパミノンダスは兵凡そ六千を以て其の攻め來るを待ちたり。兵數寡小なりしも彼れの戰略はスパルタ人の未だ思ひ及ばざる所にして兵法史上の一大革命とはなりたり。希臘從來の兵法は戰場に於て兵列を爲すに當り全線に同數の兵員を布き同時に攻擊を始むるの方法にて兩軍の決戰は恰かも二人決鬪の大なるものに外ならざりき。エパミノンダスは土地の形勢と敵軍の强弱に應じ我が軍の一翼に軍力を集中し、全軍一時に進擊せずして先づ敵軍の中堅を破り轉じて他部に及び以て全軍を潰亂せしむるの方法を發見したり。是れ實に近世の名將フレデリック大王及びナポレオン第一世等の兵法にして古今兵法の原則に二なきことを證明するに足れり。

エパミノンダスは我が軍の左翼を厚うして五十人列となし、隊の前面よりも其の深さを大にしスパルタ王自から引率し最も精鋭と稱せられたる敵の右翼に向つて進擊し而してシーブス人の中軍及び右翼は始め戰はずして以て左翼進擊の爲に應援を爲すの位置に立たしめたり。スパルタ人は歩兵を一直線に布き深さ十二人列となし、左右翼を同時に進め、シーブス人の側面に出て全軍を包圍せんと欲したり。エパミノンダスは先づ騎兵を放つて戰はしめ、次に其の左翼に命じて敵の右翼を突かしめたり。敵軍がシーブス軍の側面に出んとするを見るや左翼の後面に控へたるペロピダスは神聖隊三百を率ゐて突進し、以て敵の計畧を牽制したり。エパミノンダスは側面の憂なきを見て更に敵軍の中心を打擊し、大呼して曰く我に今一歩を進ましめよ、即ち勝利は我が有たらんと。全軍奮激して前進し、スパルタ人遂に背進却走して潰亂し、シーブス人は破竹の勢を以て突擊したり。スパルタ王重傷を蒙りて遂に死し、其他諸名將多く此役に戰死したり。スパルタの中軍及左翼はスパルタ同盟の兵なりしが、右翼の潰亂するや戰はずして敗走したり。スパルタ王が戰場に於て敗死したるはセルモピレー以來嘗て其例なく且

ウスパルタの第一階級に屬したる七百人中四百人、及び第二階級一千人戰死し、騎兵も亦た擊破せられたり。是れ紀元前三百七十一年七月の始にしてスパルタ會議の後未だ三週日を經過せざりしといふ。三十三年間維持せられたるスパルタの覇權は此の一戰によりて忽ち地に落たり

シーブスの覇權（紀元前三七一―三六二）

リユークトラ戰敗の結果スパルタは中部希臘に於ける勢力を失ひたるのみならず南部希臘に於ける權勢をも失墜するに至れり。アセンス人はリユークトラの戰報を聞て大に憂ひたり。彼等はスパルタよりも今は多くシーブスを恐れたり。然れども彼等はスパルタを助くることを爲さず、シーブス及びスパルタの何れをも希臘の覇國たらざらしめんと欲し、アンタルキダスの和約を基礎として列國を聯合し新同盟を組織せんことを計畫し、ペロポンニーソス半島の諸國は多くスパルタに獨立して此の新同盟に加入したり。特にアルケデヤの諸市はスパルタの弱きに乘じてスパルタに反對しピオシヤの例に倣ひアルケデヤ諸市の聯合を爲さんと欲し、シーブス人の聲援を求めたり。紀元前三百七十年の末エパミノンダスはペロピダス及び其他の諸將と兵を

摩ゐてコリンスの地峽を經過しアルケヂヤに進入したり。中部希臘の同盟(フオーキス、ロクリス其他)、北部希臘のセッサリー等各援軍を出し、南部希臘に於てはアルゴス及びエリス共にシーブスに應じてアルケヂヤ州のマンチニヤ附近に聚合し、エパミノンダスの總勢七万人に達したり。彼は進んでレコニヤに入り直ちにスパルタを攻擊せんと欲したり。古來國内に敵軍を見たることなき無壁のスパルタは大に恐怖し其の婦人等は號哭して爲す所を知らざりき。然かもスパルタの天險人勇加ふるに老王アゲシラオスの果敢なる防禦策は能く其の功を奏し、エパミノンダスは遂にユーロータス河を渡りて市中に進入すること能はずして退去したり。之を第一回の半島進軍と爲す。

此行エパミノンダスは二個の目的を達したり。一はアルケヂヤに於て州内の四十市を聯合せしめ、諸市の嫉妬多きにより更に各市より人民を移住せしめて新市を建設し、以て聯合諸市の首府となし、各市の代人を此に集會せしめて聯合の事務を協議せしめ、又た聯合常備兵を各市より出さしむることゝ爲したり。彼はアルケヂヤの聯合を以て足れりとせざりき。彼れの理想は全希臘の復興に存したり。故にスパルタの爲に亡滅に屬したるメッセニヤを再興し(以上二六七頁—二七〇)一は以てスパルタを牽制するの具となし一は以て自由獨立の希望を全希臘人に發揚せしめんことを欲したり。彼は三世紀の間國外に逃亡したるメッセニヤ人に檄を傳へて歸國を促がし、メッセーヂー市を建設したり。是に於て從來寂寞たりしメッセニヤ灣頭には船舶輻湊して伊太利、シゝリー島及ひ亞弗利加の諸方よりメッセニヤ人歸來して再生の恩を謝したり。是れ皆なエパミノンダスの新案にして後年マセドンの歴山大王が施したる方法も唯た其の規模を大にしたるのみに外ならざりき。

紀元前三百六十八年シーブスの權勢はペロピダスによりて北部希臘のセッサリー及びマセドニヤに波及したり。セッサリーの諸市は僭主アレクサンデルに反對してシーブスの保護を請求したり。ペロピダスはセッサリーの諸市間に防禦的聯合を組織し、進んでマセドニヤに入り、攝政トレミーと同盟を約し彼れをして王子フイリップをしてシーブスに質たらしめたり。此の少年は後にマセドン王フイリップ二世となり、遂に希臘を征服し、其子歴山大王の爲に偉業の基を開きたり。是の如くシーブスは南部希臘及び北部希臘に同盟者を聯合せしめて其の覇權を

扶殖せんことを勉めたり。然れども分離力の強盛なる希臘人は到底シープスの覇權を永久に維持することを許さゞりき。リユークトラの戰後スパルタは使節を遣りてアセンスの助力を求め、アセンスは遂にシープスの覇威を嫉みてスパルタと同盟の約を結結したり。又たアセンスはセッサリーの僧主アレクサンデルを助けて其の勢力を利用したり。紀元前三百六十四年ペロピダスは再びセッサリーを征し、アレクサンデルを破りて戰死したり。爰に於てシープスは更に兵を發してアレクサンデルを征し、彼をしてシープスの同盟となし、アセンスとの聯合を絶たしめたり。

此間エパミノンダスは南部希臘の經營を事とし、紀元前三百六十九年に第二回の進軍を爲し同三百六十七年に第三回の進軍を爲したりしも、アルケディヤの聯合軍固ならずして反覆分離を生じ、一部分はマンチニヤを首としてスパルタに依頼し、其他はテゲヤを首としてシープスに依頼したり。紀元前三百六十二年の夏エパミノンダスは四たび南部希臘に進軍し、テゲヤに於て同盟の兵と相合し、而してスパルタ王アゲシラオスは兵を率ゐて、マンチニヤに向ひたり。エパミノンダスは其虛に乘じて急にスパルタを襲ひたりしがアゲシラオス之を聞て直に軍を還し兩軍スパルタの市街に於て接戰したり。然れども エパミノンダスは遂にスパルタを征服すること能はずして退去し、轉じてマンチニヤの虛を衝き之を陷れんとなしたりしがアセンスの援軍到來して其の目的を達する能はざりき。エパミノンダスは奇計を運らして其の目的を達せんと欲したりしも其の事成らざりしかば最早や一大血戰を爲すの止むを得ざるに至れり。野戰に於て誰か彼に匹敵する者あらんや。而して勇將の下弱卒なく、軍隊は喜んで彼の號令に從はんことを希ひ、同盟のアルケディヤ人さへ恰かも祝祭に臨むが如く決戰の準備を爲したりき。マンチニヤとテゲヤとの間に海面を抜くこと二千呎、而かも四方高山の爲に圍繞せられ延長凡そ十哩幅員一哩乃至八哩の平原ありて其の北部にマンチニヤ及びスパルタの兵集合したり。エパミノンダスはテゲヤより北進して敵に向ひ、一直線に迫らずして左方に轉じ、平原の西北なる岡に兵を停め兵器を疊みて將さに陣營せんとするの狀を示したり。既に戰鬪の準備を爲して待ち構へたる敵軍は之を見てエパミノンダスは當日戰ふの意なしと爲し、隊伍を亂し、馬轡を解きたりし

がエパミノンダスは窃かに進擊の部署を定め、シーブス及びアルケデヤの精兵を以て左翼となし、中軍及び右翼は敵兵を牽制して左翼の大進擊を援助せしむることゝ爲し、先づ騎兵をして敵軍を突擊せしめたり。敵兵遽かに戰備を爲して之に應じ、マンチニヤ及び其の同州人は右翼となりて全軍を指揮し、スパルタ、エリス及びアケイヤの兵中間に位し、アセンスの兵六千左翼となり、總計歩兵二万騎兵二千にしてエパミノンダスの軍よりも多數なりき。此時の戰略はリユークトラの戰略と同一にして其の結果も同一に出て、敵の右翼先づ敗れて中軍を混亂せしめ戰勝は容易にシーブス人に歸したり。然れどもエパミノンダスが重傷を負ふて戰場より退きしが爲にシーブス人は十分に戰勝の結果を利用する能はざりき。エパミノンダスにして希臘第一の名將に非ざりせば此の不幸はなかりしならん。然かも希臘人の習慣によれば大將は歩卒と同一の鎧を着け同一の武器を提げ、軍頂に立ちて闘ふの制にしてアセンス人は之が爲にシ、リー遠征の名將ラマコスを失ひ而してシーブス人は遂に之が爲に興國唯一の大政治家を失ふに至れり。エパミノンダスは丘の上にありて介抱せられしが忽ち自覺して最後の三問を發したり。第一は我が楯の所在なりき。從卒之を其の眼前に置きて敵に奪はれざりしことを示したり。第二は戰局の勝敗なりき。味方の軍勝利なりと聞きて彼は第三に其の信任したるアイレイダス及びダイフアントスを招きて之に後事を託せんことを欲したり。然るに彼等も亦た既に戰死したりと聞きしかば彼は最期の勸告として、然らば敵と和を結ぶ可し」との遺言を爲し、命して其の胸中を貫きたる敵鎗の身を拔かしめ、悠然として瞑目したり。

エパミノンダスの人格

是の如くしてシーブスの名將は死し、是の如くしてシーブスの覇業は彼と共に亡びたり。ペロピダスの一擧はアセンス史に於けるクリスセニースの改革と同じく、シーブスをして忽ち貴族的寡頭制を脱し、一躍して民主制の市府となし、ビオシヤの全州を統一せしめたり。而してリユークトラの一戰は即ちシーブス史上のマラソンにして防禦的戰爭は攻擊的戰爭に變化し、シーブスの全力は波斯の壓制に均しきスパルタの專横に對して傾注せられたり。エパミノンダス及びペロピダスの二人はアセンスに於けるミルタイアディス、アリスタイディス、セミストクリース及びカイモン等數多英傑の爲したる創業の

偉勳のみならず、又たペリクリースが三十年間に於ける守成の功勞をも兼有したりき。彼の二人は從來遲鈍にして名譽なかりしシーブス人に光輝を放たしめ、凡そ希臘人たるの資質は地方的にあらずして其の市民の人格に存することを證明したり。彼は北部希臘の地下に骨を埋め、此は南部希臘の原頭に命を殞し兩友の遺體は南北に分れて横はりしも其の精神は一に歸してシーブスの威勢の南北に膨脹したる遺表とはなりたりき。彼等は管仲鮑叔と同じく、朋友の信義國家隆盛の基礎と爲る歴史上の最大教訓を遺したり。特にエパミノンダスは正々堂々の政策を用ひて權道によるを欲せず、短日月の間功業一世に冠たるも、自己の名譽利達を計らずして公共の福祉に貢獻せんことを勉めたり。アセンス衰へて後シーブスをして之に代り文化の理想を繼續せしめたる勢力は實に彼れの偉大にして且つ優美なる人格に存したり。彼が宗教上の迷信を脱したりしことはソクラテスの上に出て、其の志望の高尚にして全希臘的なりしことは歴山大王の好模範となるに足り、其の戰略はハンニバルに酷似し歴山大王、プレデリク大王及びナポレオン第一世の兵法と同一なりき。彼は單に兵略に於てマセドン王の先驅となりしのみならず、マンチニヤ、メガロポリス及びメッセーニヤの諸市を建設し、希臘の文化を遠近に分布したりしことも亦た歴山大王の模型となりたり。彼はシーブスの勢力を以てスパルタの壓制を除き、之に代りて正義の基礎の上に自由なる列國の一致結合を成就せんことを希圖したり。彼れは此の點に於てペリクリースの以上の思想を有したり。ペリクリースは猶ほ希臘列國の諸人士と同じく第一アセンス人たり第二希臘人たるの主義なりしと雖ども、エパミノンダスは同時に忠誠のシーブス人たり、希臘人たるの寛大なる度量を有し、其の品格の高潔なりしこと希臘史上第一の人なりしと言ふことを得べし。彼はペリクリースと同じく其の事業の後繼者を有せず、而して彼れと異にして子孫を遺さゞりき。彼れの將さに死せんとするや一友泣て曰く卿は遂に子なくして死すと。彼れ答へて曰く我れ二女子を遺す、リユークトラ及びマンチニヤの戰勝是なりと。

希臘列國の大勢　マンチニヤ戰勝の結果によりシーブスは新に領土を得有し若くは更に權力を擴張することを能はざりしと雖ども猶ほエパミノンダスの大事業を保存することを得たり。即ちメッセーニヤの獨立、アルケデヤの聯邦は之

が爲に維持せられて安全なることを得たり。列國は現狀維持の條件を基礎として和約を締結したりしが獨りスパルタはメッセーニヤの獨立を拒否して和約の承認に反對したり。然れどもスパルタの覇權はシーブスの爲に打破せられて又復活すべくも非ざりき。波斯戰爭以前彼は希臘唯一の盟主たる位置を有し、該戰爭中海陸兩道の總督たりしに拘はらず、其の位置を保つ能はずして僅かに南部希臘の上に覇權を有したり。波斯戰爭の功業、デロス同盟の成立によりてアセンスは七十年間海上の覇權を有し、文化の上に於ては優に希臘の首府たる勢望を有したりしも、スパルタ及び列國の猜疑によりて二十七年間戰爭の後アセンスは其覇權を失墜して再びスパルタは三十三年の間全希臘の上に權勢を專にしたり。スパルタ人にして偉大なる政治的能力を有したりしならんには當時彼は全希臘を統一する最大の好機會に際會したりしなり。然れどもスパルタの憲法は元來建國の基礎レコニヤ一州を保つに適して希臘の列國を合一するに不適當なりしが故に、第一人物に乏しく第二政治的能力に乏しく、空しく列國の怨望を買ひ得たるのみに過ぎざりき。是に於て彼は再び希臘列國を統一するの任務に堪へずして其

位置を失墜したり。一時シーブスは之に代りて全希臘に覇權を振ひしも、其實エパミノンダス一人の天才に依賴したる結果、九年の後彼れの戰死と共に又た本のシーブスたる位置に降下し希臘は三たび内部よりして統一に歸するの希望を失したり。是より後希臘列國間の嫉妬競爭益甚しくして寧ろ内部の一國に支配せられんより外邦の干渉を誘引することを快と爲したり。スパルタが一たびアセンスを倒さんが爲に波斯に屈從せし以來列國は常に波斯の干渉を仰がざる可からざるに至り、エパミノンダスの偉功を以てしても波斯の認可なくしては希臘列國の甘心を得ること能はざるを發見したり。希臘は内部に於て紛爭し内部に於て到底一致の望なく列國疲弊して又た波斯戰爭時代の元氣を見るべくもあらざる狀態に陷りたれば其の夷狄視したる外邦の爲に征服せらるゝに至るは自然の傾向に外ならざりき。唯だ驚く可きは嬢爾たる希臘諸市が自治を重んずる氣力の旺盛にして一致團結の組織もなく能く久しく其の自主獨立を維持したることは是なり。

マセドニヤの土地及び人民

マセドニヤ(マケドニヤ)は元來希臘本部に屬せず東はストライモン河を境としてスレースに接し、西は山脈を隔てゝイリリヤに接し、北は同じく山脈によりてメーシヤに接し、南はカムプニー山によりてセッサリーに接したり。其人民は希臘人によりて野蠻人即ち他人種と視做されたり。彼等は多分イリヤ人と希臘人との混合なりしならん。而して彼等が希臘人によりて異邦人と視做されたりしは之が爲のみに非ざりき。何となれば希臘人の殖民地は同樣混合民種多かりしこと事實なればなり。惟ふにマセドニヤ人が希臘人と視做されざりし所以は其の人種の少しく相異なる上に彼等希臘人と異にして市府的生活を爲さゝりしが爲なる可し。希臘人は市府的國家を以て文明國民の特徴となし市民は共に集會して政治を議決し又た之を管理するを以て自由の表號となしたり。然るにマセドニヤ人は田舍的生活を爲して農業獵業を事とし文學美術を有せず、而して一に君主の專政に任せたり。是れマセドニヤ人が開化したる希臘人に異人種として蔑視せられたる所以なりしならん。

マセドニヤの王室　是の如く人民は希臘人によりて異人種と視做されたりしも古來その王室は南部希臘アルゴスの王裔と稱し希臘人たることを認識せられオリンピヤの大祭にも列することを許され、代々希臘の文化に倣はんことを勉めたり。創立の王はペルディッカス一世(紀前七〇〇—六五〇)と稱し、漸次版圖を擴張したりしが第六代アミンタス一世(紀前五二七—四九八)に至り波斯の兵威を怖れて名義上の服從を爲し(紀前五一七)十五年の後次王アレクサンデル一世(原名アレクサンドロス紀前四九八—四五四)は事實上波斯の將マルドニオスに服從したりしがプラテーエーの戰後マセドニヤも亦波斯に獨立し再び膨脹の運に向ふことを得たり。第八代ペルデッカス二世(紀前四五四—四一三)の時アセンスの海上權力と衝突を生じたり。紀元前四百二十七年アセンスはスレースのストライモン河邊にアムフィポリス市を建設したりしがマセドニヤの版圖も亦た漸やく此の河上に達したりしが故にアセンスは種々の方策を運らしてマセドニヤ王の權勢を弱くせんことを勉めたり。紀元前四百二十四年マセドニヤ王はスパルタの將ブラシダスを誘引してアセンスに復讎し大に其の勢力を挫きたり。第九代アルケレーオス(紀前四一三—三九九)の時アセンスは遂に衰弱したりしが王は兵制の改良、道路及び要塞の建設に心を用ひ、又た希臘より詩人及び工藝

者を招きて文學美術の發達を奬勵し、首府をエーゲーより轉じて海上に近きペルラに移したり。是の如く希臘本部は戰爭の爲に衰弊するに當りてマセドニヤは漸次興運に向ひ、其の人民は質朴勇敢にして且つ王室に忠實なりき。アルケレーオスの後一時内亂相起り恰かも彼得大帝以前に於ける露國の狀態に似たりしが紀元前三百九十年アミンタス二世遂に内亂を平定したり。彼は三子を生み長子はアレクサンデル二世と稱し、トレミーの爲に弑せられ、四年間攝政の後次子ペルディカス三世トレミーを殺して位に即き、イリヤ人と戰ふて死し、三子フィリップ二世立ちて希臘史上のみならず、世界史上に於ける大事變を生出せしむるに至れり。

フィリップ二世 紀元前三五九―三三六 トレミー攝政の時シープスの覇權はマセドニヤに及びたり。當時フィリップは十五歲の少年なりしがマセドニヤとシープスとの同盟の結果彼は質となりてシープスに往き、三年間此處に滯在したり（紀前三六八―三六五）。彼は親しくエパミノンダスに接して其兵法及び政略に通じ又希臘の文學及び哲學を學びて後年希臘語を以て如何なる當世の辯士とも相競ふことを得るに至れり。彼はプレトー（プラトン）にも面接せしことある可し。彼れは古今の大哲アリストーツル（アリストテレス）を友として後に歷山大王（アレクサンダー）の師と爲したり。彼は之が爲に希臘列國の形勢を熟知し、其の列國相嫉むや政略の以て乘ずべき間隙あり、又た其の相疲弊したる結果、兵力の容易に成功すべき機會あることを理解したり、而して彼れは是等の狀勢を利用するに十分なる天才を有したり。彼は聰明敏活にして功名心限りなく、容貌優美にして辯舌爽かに、意思鐵石の如くにして如何なる危險をも恐れず、其目的を達せざれば止まざるの資性を有したり。而して彼は兵力にのみ依賴せず、策略によりて其の志望を遂ぐるの秘訣を知れり。彼は鐵を以てするよりも銀を以てして多くの市邑を略したることを誇りたり。然れども兵を用ゆるの必要ある場合には何人も及ばざるの資格を有したり。何となれば彼は大將の器量に加へて兵卒と共に如何なる艱苦をも凌ぎ得るの體格を有したればなり。

其の外交政略 當時マセドニヤは東海に突出するの道を開くを以て必要となしたり。然るに此の目的を達するに三個の妨害存したり。一はシープスの

興起に乘じて復活したるアセンスの海上同盟、二はオリンソス同盟、三はアムフィポリス市にして三者相結合するときはフィリップは遂に其の目的を達する能はざりしならん。故にフィリップは三者をして其の異意の在る所を知らしめざらんことを欲したり。アムフィポリスはストライモン河上に在りてスレースの關門なりき。アセンス人は一たび之を失ふて以來再び之を得んと欲して止まざりしがオリンソス同盟も亦た之を其の同盟に加へんことを欲し一時アセンスと聯合してアムフィポリスを保護せんとするの傾向ありたり。二者の聯合成るときは即ちフィリップの計畫失敗す可し。是に於てフィリップは先づ二者の聯合を破らんと欲し、アセンスに交渉してアセンス若し其の領有地ピッドナ（マセドニヤにあり）をフィリップに讓與せばアムフィポリスを征服し且つ之れをアセンスに與へんことを約してオリンソス同盟との結合を絶たしめたり。オリンソスの反抗を除かんが爲めこれにも一色を讓與して後顧の患を去り即ちアムフィポリスを圍みて之を陷れ（紀前五八三）而して直に又たピッドナを畧取したり。彼れ既にアムフィポリスを陷れ、又たピッドナを得たり。アセンス人に謝して曰く、ピッドナは貴國の讓與を待たずして我れ自から之を取ることを得たり、故に其の報酬としてアムフィポリスを贈與すること能はずと。アセンス人大に怒りしも既に及ばざりき。フィリップはアセンスが復讐を圖りてオリンソス同盟と結托せんことを恐れ、オリンソスにはアセンス人の占領したるポチデイヤを征服して以てこれを恢復することを得せしめたり。是の如く政畧を以て兩敵の聯合を防ぎ、其の版圖を東海に擴張しストライモン河上の金坑を得て大に國庫の歳入を增加せしめたり（紀前五七三）。是時希臘の內情は大にフィリップをして乘ぜしむるの機會を與へたり。アセンスは紀元前三百七十八年以來海上同盟を組織して大に其の面目を改め一時は同盟諸市を滿足せしめたれども再び往昔デロス同盟時代の覇權を振ひしが爲に忽ち同盟諸市はアセンスに離叛して交戰數年に渉り大市悉く獨立するに至れり（紀前三五七―三五五）。アセンスは之が爲に遂にフィリップの異志を逞くすることを防制す能はざりき。又中部希臘に於てはシーブス衰へてフォーキス人之れに從ふを欲せず、而してシーブス人はデルファイの宗教會議（二二四頁參照）を利用して之を服從せしめんことを企てたり。第一神聖戰爭以來クリッサ人の土地を沒收して之を聖領と

爲したり（二八四頁參照）。然るにフォーキス人は此の聖領を耕耘して私益に供したり。是に於てシーブス人はアムフィクチオニク會議をして過大の罰金を課ぜしめ之れを倒さんことを欲したり。フォーキス人即ちデルファイの神殿を占領し其人民に課稅して雇兵を募り、且つ列國に使者を遣はして其の行爲の正當防衛なることを辯解したり。スパルタ及びアセンスはフォーキス人に應援し全希臘又た兩黨に分裂シフォーキスは遂にデルファイの聖庫を私用して兵を募り大に猖獗を極めたり。之を第二神聖戰爭と稱す（紀前三五五―三四六）。是れフィリップに向つて希臘の內事に干涉するの機會を與へたり。セッサリーの僧主リコフロンはマセドニヤの勢力を恐れてフォーキスの援助を求め而して僧主に反對したる貴族等はフィリップの救濟を乞ひたり。フォーキス人は兵七千を遣りて僧主を助けたり。是に於てフィリップはデルファイの神殿を保護するを名とし其兵を鼓舞してフォーキスの軍を破り一擧に全セッサリーを征服することを得たり。南進してフォーキスを襲はんと欲したりしもアセンスの兵セルモピレーの險を扼すと聞きて果たさいりき（紀前三五二）。

フィリップの成功

是時アセンスには古今無比の大辯士デモステニースあり。てフィリップの野心大望を看破し大に辯說を振ふて國人を警戒せしめたり。オリンソスも既にフィリップの恐る可きを知てアセンスに同盟を求めたり。デモステニースはアセンス人に之を承諾せんことを勸め同盟成立したりしも當時アセンスの富者は國家の爲に負擔の重きを厭ひ又た一般市民は兵役を忌みて外邦の雇兵を用ひ前日の氣力を失ひ、十分にオリンソスを助くることを爲さゞりしが爲にフィリップは遂にオリンソス及び其の聯結せしめたる三十二市を略し全カルキディケー半島を征服したり（紀前三四八）。

然るに神聖戰爭尙ほ止まず、デルファイの聖庫既に盡んとし、而してシーブス亦た大に疲弊し遂にフィリップの援助を請求したり。フォーキス人は一時聖庫により て勢力を振ひたるもアセンス既に衰弱してフィリップの爲に欺かれ、スパルタ亦救援を爲す能はずして遂に孤立の地位に陷り、フィリップはフォーキスに進入し全州を征服したり（紀前三四六）。是に於てフィリップはデルファイに宗教會議を開き賞罰を行ひ、フォーキスの諸市は其の一市を除くの外悉く其の城壁を破壞し人民をして、

村落に生活せしむることを決議し、スパルタは會議に參列するの權利を剝奪せられ、フォーキス人が會議に於て有したる二個の投票權はフィリップに與へられ、而して彼は又たシープス人及びセッサリー人と共にデルファイに於ける大祭の議長たるを得べき權利を與へられたり。是の如くフィリップは希臘の盟主と認識せられ、デルファイの神及び其神殿に對して不敬を爲す者あれば何時にても希臘の事件に干渉するの權利を得たり（紀元前三四六）。

又たフィリップは南部希臘に於てスパルタの勢力を嫉視したる諸市と結托したり。特にエパミノンダスによりて建設せられたる諸市はスパルタを恐れて外邦の保護を得んことを欲し皆なフィリップの爲に利用せられたり。アセンスのデモステニースは南部の列國を周遊してフィリップの謀略に陷らざらんことを警戒し、アセンスの爲のみならず、全希臘の自由の爲に努力したり。紀元前三百三十九年第四神聖戰爭の端を發したり。是れロークリス州アムフィッサの市民がデルファイの聖地を私用したる事件に關して起り、フィリップ同盟の總大將として之を征討するに當り、却てフォーキス州の東部にあるエラテヤを略取し其の目的アムフィッサに非ずしてビオシヤ及びアッチカを制壓せんとするに在ることを示したり。アセンス人大に恐れ五百人會議及人民會議を開きデモステニースの建策により直にシープスに使節を遣して同盟を約し、兩國の兵相合してビオシヤ州の西部ケーロネヤに於てフィリップの軍と接戰したり。マセドニヤの兵三万二千、兩軍凡そ同數なりしもフィリップの精兵に當る可くもあらず、フィリップの子アレクサンデル年僅かに十八歲マセドニヤ軍の一翼を率ゐてシープスの神聖隊を破り、敵の全軍をして大敗せしめたり（紀元前三三〇、八月八）。是れアレクサンデル大王の初陣なりしかば フィリップは彼を懷て祝して曰く「我子よ汝は自から他に王國を求めよ、我が汝に讓るべき王國は汝の爲に餘り小なればなり」と。此の一戰によりてシープスは忽ちビオシヤ聯合諸市の盟主たる勢力を失し、單に一個の市府として存するのみとなれり。尋でフィリップは南部希臘に進入しスパルタの領土を削りて之をメッセニヤ人、アルゴス人、及びアルケデヤ人に與へ、斯くてシープスの爲さんと欲して爲す能はざりし目的を達し、スパルタをして僅かに南方の一市として孤立し他に其の勢力を及ぼすこと能はざらしめたり。是に於て全希臘の自由は全く亡滅に屬